

令和2年度

シラバス

6年次

歯科医学総合講義 6



日本大学松戸歯学部

令和2年度 歯科医学総合講義6

一般目標(General Instructional Objective)：

より良き歯科医師、歯学研究者となるために、基礎歯科医学および歯科臨床的諸問題に対応できる知識・態度を修得する。

歯科医学総合講義6の講義および試験実施要項

1. 講義:101 教室, 400 教室
 2. 試験:101 教室, 410 教室
 3. 講義は平成30年版歯科医師国家試験出題基準に順じて以下の8つのユニットに分割する。
 4. ユニット1(必修・総論):必修の基本的事項1~13および歯科医学総論(総論Ⅰ~Ⅷ)
ユニット2(各論):成長発育に関連した疾患・病態(各論Ⅰ), 歯・歯髄・歯周組織の疾患(各論Ⅱ), 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療(各論Ⅴ)
ユニット3(各論):歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害(各論Ⅳ), 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療(各論Ⅴ)
ユニット4(各論):顎・口腔領域の疾患(各論Ⅲ), 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療(各論Ⅴ)
ユニット5(臨床実地):成長発育に関連した疾患・病態(各論Ⅰ), 歯・歯髄・歯周組織の疾患(各論Ⅱ), 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療(各論Ⅴ)
ユニット6(臨床実地):歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害(各論Ⅳ), 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療(各論Ⅴ)
ユニット7(臨床実地):顎・口腔領域の疾患(各論Ⅲ), 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療(各論Ⅴ)
ユニット8(必修・総論):必修の基本的事項1~13および歯科医学総論(総論Ⅰ~Ⅷ)の基礎系
 5. ユニット終了後に実施する平常試験について。
 - ・講義ユニット終了毎(ユニット1では3回)に計10回実施する。
 - ・試験問題は、新規問題または過去の総合試験・歯科医師国家試験の改変問題とする。授業の内容のみでないことに注意すること。なお、平常試験の追・再試験は行わない。
 - ・各ユニットの平常試験における出題数の内訳は試験日程、領域別出題数表を参照すること。
 6. 定期試験Ⅰおよび定期試験Ⅱの実施について
 - ・全ユニット終了後、歯科医師国家試験合格に必要な学力を適正に評価するために、定期試験Ⅰ(210問)及び定期試験Ⅱ(420問)に分けて定期試験(全630問)を実施する。問題は歯科医師国家試験に準じたオリジナル問題を中心とし、領域別出題割合は、歯科医師国家試験出題基準のブループリントに準ずる(巻末の平成30年版歯科医師国家試験出題基準参照)。
 - ・試験日程や出題問題数は日程表で確認すること。
- 1) 定期試験(定期試験Ⅰ・定期試験Ⅱ)の合格基準は、以下の通りである。
 - ・定期試験Ⅰと定期試験Ⅱを合算(全630問)して判定する。
 - ・各領域の正答率が**必修85%以上**, **領域A**, **領域B**および**領域C**がそれぞれ**70%以上**を各領域の合格基準とし、**すべての領域**が合格基準を満たす者。
 - 2) 定期試験(定期試験Ⅰ・定期試験Ⅱ)を病気など正当な理由で欠席した者または合格基準に達しなかった者のうち正式な手続きの後、それぞれ追試験, 再試験を行う。その合格基準は以下の通りである。
 - ・各領域の正答率が**必修85%以上**, **領域A**, **領域B**および**領域C**がそれぞれ**70%以上**を各領域の合格基準とし、**すべての領域**が合格基準を満たす者。

歯科医学総合講義6 オーガナイザー

ユニット	役 割	所 属	氏 名
統 括	チーフオーガナイザー	顎口腔機能治療学分野	小見山 道
	サブチーフオーガナイザー	衛生学	有川 量 崇
ユニット1	チーフオーガナイザー	薬理学	松本 裕子
	オーガナイザー	解剖学	松野 昌展
		歯科生体材料学	岩崎 太郎
		感染免疫学	栗原 紀子
		保存修復学	岩井 啓寿
		歯科矯正学	五関 たけみ
		歯科矯正学	石井 かおり
		有床義歯補綴学	木本 統
		口腔外科学	山本 泰
放射線学	村岡 宏隆		
ユニット2	チーフオーガナイザー	歯内療法学	神尾 直人
	オーガナイザー	小児歯科学	清水 邦彦
		障害者歯科学	梅澤 幸司
		保存修復学	岩井 啓寿
		歯科矯正学	五関 たけみ
歯周治療学	高井 英樹		
ユニット3	チーフオーガナイザー	有床義歯補綴学	木本 統
	オーガナイザー	顎口腔機能治療学分野	飯田 崇
		有床義歯補綴学	飯島 守雄
		クラウンブリッジ補綴学・口腔インプラント学	小林 平
		クラウンブリッジ補綴学・口腔インプラント学	田中 孝明
クラウンブリッジ補綴学・口腔インプラント学	村上 洋		
ユニット4	チーフオーガナイザー	歯科臨床検査医学	湊上 真奈
	オーガナイザー	口腔外科学	濱野 美緒
		放射線学	村岡 宏隆
ユニット5	チーフオーガナイザー	歯科矯正学	五関 たけみ
	オーガナイザー	歯内療法学	神尾 直人
		小児歯科学	清水 邦彦
		歯周治療学	高井 英樹
		保存修復学	岩井 啓寿
ユニット6	チーフオーガナイザー	有床義歯補綴学	飯島 守雄
	オーガナイザー	顎口腔機能治療学分野	飯田 崇
		有床義歯補綴学	木本 統
		クラウンブリッジ補綴学・口腔インプラント学	村上 洋
クラウンブリッジ補綴学・口腔インプラント学	小林 平		
ユニット7	チーフオーガナイザー	病理学	宇都宮 忠彦
	オーガナイザー	歯科麻酔学	下坂 典立
		放射線学	村岡 宏隆
		歯科臨床検査医学分野	湊上 真奈
口腔外科学	濱野 美緒		
ユニット8	チーフオーガナイザー	解剖学	松野 昌展
	オーガナイザー	生化学・分子生物学	竹内 麗理
		病理学	宇都宮 忠彦
		生理学	加藤 治
		組織学	玉村 亮
		歯科生体材料学	岩崎 太郎
衛生学	田口 千恵子		

歯科医学総合講義6 試験日程, 領域別出題数表

ユニット	試験区分	試験日時	必修	一般	臨床
1. <必修, 領域 A:総論> ☆必修の基本的事項 ☆歯科医学総論 I～VIII	平常試験 1-①	7/17(金) 9:30～11:15	51	51	
2. <必修, 領域 A:総論> ☆必修の基本的事項 ☆歯科医学総論 I～VIII	平常試験 1-②	8/1(土) 9:30～10:40	31	31	
3. <必修, 領域 A:総論> ☆必修の基本的事項 ☆歯科医学総論 I～VIII	平常試験 1-③	8/25(火) 9:30～11:10	50	50	
4. <領域 B:各論> ☆成長発育に関連した疾患・病態 ☆歯・歯髄・歯周組織の疾患	平常試験 2	9/4(金) 9:30～10:15		44	
5. <領域 C:各論> ☆歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 ☆高齢者等に関連した疾患・病態・ 予防ならびに歯科診療	平常試験 3	9/14(月) 9:30～10:15		42	
6. <領域 C:各論> ☆顎・口腔領域の疾患 ☆高齢者等に関連した疾患・病態・ 予防ならびに歯科診療	平常試験 4	9/28(月) 9:30～10:45		66	
7. <領域 B:臨床実地> ☆成長発育に関連した疾患・病態 ☆歯・歯髄・歯周組織の疾患	平常試験 5	10/6(火) 9:30～11:05			34
8. <領域 C:臨床実地> ☆歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 ☆高齢者等に関連した疾患・病態・ 予防ならびに歯科診療	平常試験 6	10/19(月) 9:30～11:45			58
9. <領域 C:臨床実地> ☆顎・口腔領域の疾患 ☆高齢者等に関連した疾患・病態・ 予防ならびに歯科診療	平常試験 7	10/27(火) 9:30～11:15			36
定期試験・再試験 155 分 必修・一般 (65 秒) 臨床実地 (2 分 40 秒)	定期試験 I-1	11/18(水) 9:30～12:05	25	54	26
	定期試験 I-2	11/18(水) 13:30～16:05	25	54	26
	定期試験 II-1	12/9(水) 9:30～12:05	25	54	26
	定期試験 II-2	12/9(水) 13:30～16:05	25	54	26
	定期試験 II-3	12/10(木) 9:30～12:05	25	54	26
	定期試験 II-4	12/10(木) 13:30～16:05	25	54	26
	追・再試験 I	1/6(水) 9:30～12:05	25	54	26
	追・再試験 II	1/6(水) 13:30～16:05	25	54	26

令和2年度 6年次 歯科医学総合講義6 日程表

月日	曜	講義時間					備考
		9:00~9:50	10:00~10:50	11:00~11:50	13:00~13:50	14:00~14:50	
7月1日	水	必修・領域A 平塚浩一	必修・領域A 平塚浩一	必修・領域A 平塚浩一	必修・領域A 平塚浩一	必修・領域A 五十嵐由里子	
7月2日	木	必修・領域A 玉村 亮	必修・領域A 玉村 亮	必修・領域A 玉村 亮	必修・領域A 玉村 亮	必修・領域A 佐々木佳世子	
7月3日	金	必修・領域A 近藤信太郎	必修・領域A 近藤信太郎	必修・領域A 栗原紀子	必修・領域A 栗原紀子・齋藤真規	必修・領域A 栗原紀子・齋藤真規	
7月4日	土	必修・領域A 落合智子	必修・領域A 落合智子	必修・領域A 平塚浩一			
7月5日	日						
7月6日	月	必修・領域A 吉垣純子	必修・領域A 吉垣純子	必修・領域A 吉垣純子	必修・領域A 吉垣純子	必修・領域A 吉垣純子	
7月7日	火	必修・領域A 岡田珠美	必修・領域A 寺中文子	必修・領域A 有川量崇	必修・領域A 有川量崇	必修・領域A 清水邦彦	
7月8日	水	必修・領域A 岩井啓寿	必修・領域A 岩井啓寿	必修・領域A 有川量崇	必修・領域A 有川量崇	必修・領域A 有川量崇	
7月9日	木	必修・領域A 神尾直人	必修・領域A 岡部 達	必修・領域A 吉田陽子	必修・領域A 清水邦彦	必修・領域A 有川量崇	
7月10日	金	必修・領域A 高井英樹	必修・領域A 高井英樹	必修・領域A 高井英樹	必修・領域A 清水邦彦	必修・領域A 清水邦彦	
7月11日	土	必修・領域A 五関たけみ	必修・領域A 五関たけみ	必修・領域A 石井かおり			
7月12日	日						
7月13日	月	必修・領域A 野本たかと	必修・領域A 梅澤幸司	必修・領域A 梅澤幸司	必修・領域A 梅澤幸司	必修・領域A 三田村佐智代	
7月14日	火						
7月15日	水						
7月16日	木						
7月17日	金	平常試験1-①-必, 平常試験1-①-総 (9:30~11:15, 102問)			解説講義 12:00~		
7月18日	土	必修・領域A 多田充裕	必修・領域A 多田充裕	必修・領域A 岡本康裕			
7月19日	日						
7月20日	月	必修・領域A 谷本安浩	必修・領域A 谷本安浩	必修・領域A 岩崎太郎	必修・領域A 岩崎太郎	必修・領域A 後藤田宏也	
7月21日	火	必修・領域A 飯島守雄	必修・領域A 木本 統	必修・領域A 木本 統(矢崎貴啓)	必修・領域A 後藤田宏也	必修・領域A 後藤田宏也	
7月22日	水	必修・領域A 大久保昌和	必修・領域A 中田浩史	必修・領域A 石井智浩	必修・領域A 後藤田宏也	必修・領域A 後藤田宏也	
7月23日	木						海の日
7月24日	金						スポーツの日
7月25日	土	必修・領域A 小林 平	必修・領域A 大村祐史	必修・領域A 大村祐史			
7月26日	日						
7月27日	月	必修・領域A 田中孝明	必修・領域A 田中孝明	必修・領域A 内堀聡史	必修・領域A 飯田 崇	必修・領域A 飯田 崇	
7月28日	火	必修・領域A 飯田 崇	必修・領域A 飯田 崇	必修・領域A 飯田 崇	必修・領域A 飯田 崇	必修・領域A 飯田 崇	
7月29日	水						
7月30日	木						
7月31日	金						
8月1日	土	平常試験1-②-必, 平常試験1-②-総 (9:30~10:40, 62問)			解説講義 13:00~		
8月2日	日						
8月3日	月	必修・領域A 村岡宏隆	必修・領域A 村岡宏隆	必修・領域A 後藤田宏也	必修・領域A 後藤田宏也	必修・領域A 後藤田宏也	
8月4日	火	必修・領域A 村岡宏隆	必修・領域A 村岡宏隆	必修・領域A 村岡宏隆	必修・領域A 村岡宏隆		
8月5日	水	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 山根潤一	必修・領域A 山根潤一	
8月6日	木	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 三枝 禎	必修・領域A 三枝 禎	
8月7日	金	必修・領域A 福井謙二	必修・領域A 福井謙二	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 松本裕子	必修・領域A 松本裕子	
8月8日	土	必修・領域A 田口千恵子	必修・領域A 田口千恵子	必修・領域A 田口千恵子			
8月9日	日						
8月10日	月						山の日
8月11日	火						
8月12日	水						
8月13日	木						
8月14日	金						
8月15日	土						
8月16日	日						
8月17日	月	必修・領域A 瀧上真奈	必修・領域A 西村 均	必修・領域A 有川量崇(五十嵐憲太郎)	必修・領域A 有川量崇(五十嵐憲太郎)	必修・領域A 有川量崇(五十嵐憲太郎)	
8月18日	火	必修・領域A 有川量崇(五十嵐憲太郎)	必修・領域A 有川量崇(五十嵐憲太郎)	必修・領域A 山口秀紀	必修・領域A 山口秀紀	必修・領域A 山口秀紀	
8月19日	水	必修・領域A 西村 均	必修・領域A 西村 均	必修・領域A 石橋 肇	必修・領域A 石橋 肇	必修・領域A 鈴木正敏	
8月20日	木	必修・領域A 鈴木正敏	必修・領域A 下坂典立	必修・領域A 下坂典立	必修・領域A 下坂典立	必修・領域A 下坂典立	
8月21日	金	必修・領域A 下坂典立	必修・領域A 下坂典立	必修・領域A 下坂典立			
8月22日	土	研修医選考学内試験 9:00~					
8月23日	日						

8月24日	月					
8月25日	火	平常試験1-③-必, 平常試験1-③-総 (9:30~11:10, 100問)			解説講義 13:00~	
8月26日	水	領域B(各論) 高井英樹	領域B(各論) 高井英樹	領域B(各論) 高井英樹	領域B(各論) 田口千恵子	領域B(各論) 田口千恵子
8月27日	木	領域B(各論) 神尾直人	領域B(各論) 神尾直人	領域B(各論) 神尾直人	領域B(各論) 神尾直人	領域B(各論) 梅澤幸司
8月28日	金	領域B(各論) 平山聡司	領域B(各論) 平山聡司	領域B(各論) 平山聡司	領域B(各論) 平山聡司	領域B(各論) 田口千恵子
8月29日	土	領域B(各論) 根岸慎一	領域B(各論) 根岸慎一	領域B(各論) 石井かおり		
8月30日	日					
8月31日	月	領域B(各論) 岡本 京	領域B(各論) 岡本 京	領域B(各論) 伊藤龍朗	領域B(各論) 伊藤龍朗	
9月1日	火					
9月2日	水					
9月3日	木					
9月4日	金	平常試験2 (9:30~10:15, 44問)			解説講義 13:00~	
9月5日	土	領域C(各論) 中田浩史	領域C(各論) 中田浩史	領域C(各論) 木本 統(矢崎貴啓)	領域C(各論) 木本 統(矢崎貴啓)	
9月6日	日					
9月7日	月	領域C(各論) 飯田 崇	領域C(各論) 飯田 崇	領域C(各論) 飯田 崇	領域C(各論) 伊藤誠康	領域C(各論) 伊藤誠康
9月8日	火	領域C(各論) 大久保昌和	領域C(各論) 大久保昌和	領域C(各論) 田中孝明	領域C(各論) 大村祐史	領域C(各論) 大村祐史
9月9日	水	領域C(各論) 小林 平	領域C(各論) 小林 平	領域C(各論) 内堀聡史	領域C(各論) 三田村佐智代	
9月10日	木	領域C(各論) 村上 洋	領域C(各論) 玉木大之	領域C(各論) 北川剛至		
9月11日	金					
9月12日	土					
9月13日	日					
9月14日	月	平常試験3 (9:30~10:15, 42問)			解説講義 13:00~	
9月15日	火	領域C(各論) 福本雅彦	領域C(各論) 小峯千明	領域C(各論) 小峯千明	領域C(各論) 深津 晶	領域C(各論) 大峰浩隆
9月16日	水	領域C(各論) 村岡宏隆	領域C(各論) 村岡宏隆	領域C(各論) 村岡宏隆	領域C(各論) 金田隆(村岡宏隆)	領域C(各論) 牧山康秀
9月17日	木	領域C(各論) 濱野美緒	領域C(各論) 濱野美緒	領域C(各論) 山本 泰	領域C(各論) 山本 泰	領域C(各論) 山本 泰
9月18日	金	領域C(各論) 西村 均	領域C(各論) 西村 均	領域C(各論) 西村 均	領域C(各論) 小宮正道	領域C(各論) 小宮正道
9月19日	土	領域C(各論) 内田貴之	領域C(各論) 内田貴之	領域C(各論) 下坂典立		
9月20日	日					
9月21日	月					敬老の日
9月22日	火					秋分の日
9月23日	水	領域C(各論) 山本 泰	領域C(各論) 山本 泰	領域C(各論) 山本 泰	領域C(各論) 山本 泰	領域C(各論) 山口秀紀
9月24日	木	領域C(各論) 山口秀紀	領域C(各論) 下坂典立	領域C(各論) 下坂典立	領域C(各論) 下坂典立	領域C(各論) 下坂典立
9月25日	金					
9月26日	土					
9月27日	日					
9月28日	月	平常試験4 (9:30~10:40, 66問)			解説講義 13:00~	
9月29日	火	領域B(臨実) 吉田陽子	領域B(臨実) 岡部 達	領域B(臨実) 神尾直人	領域B(臨実) 五関たけみ	領域B(臨実) 五関たけみ
9月30日	水	領域B(臨実) 平山聡司	領域B(臨実) 平山聡司	領域B(臨実) 平山聡司	領域B(臨実) 五関たけみ	領域B(臨実) 榎本 豊
10月1日	木	領域B(臨実) 中山洋平	領域B(臨実) 中山洋平	領域B(臨実) 中山洋平	領域B(臨実) 岡本 京	領域B(臨実) 岡本 京
10月2日	金	領域B(臨実) 伊藤龍朗	領域B(臨実) 伊藤龍朗			
10月3日	土					
10月4日	日					日大創立記念日
10月5日	月					
10月6日	火	平常試験5 (9:30~11:05, 34問)			解説講義 13:00~	
10月7日	水	領域C(臨実) 飯島守雄	領域C(臨実) 飯島守雄	領域C(臨実) 飯島守雄	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統
10月8日	木	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統	領域C(臨実) 木本 統
10月9日	金	領域C(臨実) 石井智浩	領域C(臨実) 石井智浩	領域C(臨実) 石井智浩	領域C(臨実) 木本 統(矢崎貴啓)	領域C(臨実) 木本 統(矢崎貴啓)
10月10日	土	領域C(臨実) 飯田 崇	領域C(臨実) 飯田 崇			
10月11日	日					
10月12日	月	領域C(臨実) 中田浩史・伊藤誠康	領域C(臨実) 伊藤誠康	領域C(臨実) 中田浩史・伊藤誠康・田中孝明・金田隆	領域C(臨実) 田中孝明・伊藤誠康	領域C(臨実) 田中孝明
10月13日	火	領域C(臨実) 小林 平	領域C(臨実) 小林 平	領域C(臨実) 大村祐史	領域C(臨実) 内堀聡史	
10月14日	水	領域C(臨実) 村上 洋	領域C(臨実) 玉木大之	領域C(臨実) 北川剛至		
10月15日	木					
10月16日	金					
10月17日	土					松戸祭
10月18日	日					松戸祭
10月19日	月	平常試験6 (9:30~11:45, 58問)			解説講義 13:00~	
10月20日	火	領域C(臨実) 山本 泰・金田 隆	領域C(臨実) 山本 泰・金田 隆	領域C(臨実) 山本 泰・金田 隆	領域C(臨実) 山本 泰・金田 隆	領域C(臨実) 山本 泰・金田 隆

10月21日	水	領域C(臨実) 山口桜子・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 山口桜子・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 山口桜子・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 山口桜子・宇都宮忠彦	領域C(臨実) 山口桜子・宇都宮忠彦
10月22日	木	領域C(臨実) 濱野美緒	領域C(臨実) 濱野美緒・末光正昌	領域C(臨実) 濱野美緒・末光正昌	領域C(臨実) 濱野美緒・末光正昌	領域C(臨実) 濱野美緒・末光正昌
10月23日	金	領域C(臨実) 宇都宮忠彦	領域C(臨実) 宇都宮忠彦	領域C(臨実) 内田貴之		
10月24日	土					
10月25日	日					
10月26日	月					
10月27日	火	平常試験7 (9:30~11:10, 36問)			解説講義 13:00~	
10月28日	水	必修・領域A 平塚浩一	必修・領域A 平塚浩一			
10月29日	木	必修・領域A 玉村 亮	必修・領域A 玉村 亮			
10月30日	金	必修・領域A 松野昌展	必修・領域A 松野昌展			
10月31日	土	必修・領域A 吉垣純子	必修・領域A 吉垣純子			
11月1日	日					
11月2日	月	必修・領域A 宇都宮忠彦	必修・領域A 宇都宮忠彦			
11月3日	火					文化の日
11月4日	水	必修・領域A 松本裕子	必修・領域A 松本裕子			
11月5日	木	必修・領域A 谷本安浩	必修・領域A 谷本安浩			
11月6日	金	必修・領域A 栗原紀子・齋藤真規	必修・領域A 栗原紀子・齋藤真規			
11月7日	土	必修・領域A 有川量崇	必修・領域A 有川量崇			
11月8日	日					
11月9日	月					
11月10日	火					
11月11日	水					
11月12日	木					
11月13日	金					
11月14日	土					
11月15日	日					
11月16日	月					
11月17日	火					
11月18日	水	定期試験 I 210問) 9:30~12:05, 13:30~16:05				
11月19日	木	解説講義 (9:30~)				
11月20日	金					
11月21日	土					
11月22日	日					
11月23日	月					勤労感謝の日
11月24日	火	演習・補講 [※]				
11月25日	水	演習・補講 [※]				
11月26日	木	演習・補講 [※]				
11月27日	金	演習・補講 [※]				
11月28日	土					
11月29日	日					
11月30日	月	演習・補講 [※]				
12月1日	火	演習・補講 [※]				
12月2日	水	演習・補講 [※]				
12月3日	木	演習・補講 [※]				
12月4日	金	演習・補講 [※]				
12月5日	土					
12月6日	日					
12月7日	月					
12月8日	火					
12月9日	水	定期試験 II 第1日 (210問) 9:30~12:05, 13:30~16:05				
12月10日	木	定期試験 II 第2日 (210問) 9:30~12:05, 13:30~16:05				
12月11日	金	解説講義1 (9:30~)				
12月12日	土	解説講義2 (9:30~)				
12月13日	日					
12月14日	月	演習・補講 [※]				
12月15日	火	演習・補講 [※]				
12月16日	水	演習・補講 [※]				
12月17日	木	演習・補講 [※]				

12月18日	金	演習・補講※						
12月19日	土							
12月20日	日							
12月21日	月	演習・補講※						
12月22日	火	演習・補講※						
12月23日	水	演習・補講※						
12月24日	木	演習・補講※						
12月25日	金	演習・補講※						
12月26日	土							
12月27日	日							
12月28日	月							
12月29日	火							
12月30日	水							
12月31日	木							
1月1日	金						元旦	
1月2日	土							
1月3日	日							
1月4日	月							
1月5日	火							
1月6日	水	定期試験・追再試験（210問）9:30～12:05, 13:30～16:05						
1月7日	木	解説講義（9:30～ ）						
1月8日	金							
1月9日	土							
1月10日	日							
1月11日	月						成人の日	
1月12日	火	演習・補講※						
1月13日	水	演習・補講※						
1月14日	木	演習・補講※						
1月15日	金	演習・補講※						
1月16日	土							
1月17日	日							
1月18日	月	演習・補講※						
1月19日	火	演習・補講※						
1月20日	水	演習・補講※						
1月21日	木	演習・補講※						
1月22日	金	演習・補講※						
1月23日	土							
1月24日	日							
1月25日	月							
1月26日	火							
1月27日	水							
1月28日	木							
1月29日	金							
1月30日	土							
1月31日	日							

※ 演習・補講に関しては臨機応変に対応する。

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	1時限	必修-5-A-b

担当者 平塚 浩一

テーマ： 必修5：人体の正常構造・機能（生化学）

授業の一般目標： 染色体構造を理解するために、染色体・DNA・核酸の基本構造とDNA複製を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 染色体の特徴を説明できる。
- 2) 核酸の種類と相違点を説明できる。
- 3) DNA複製の機序を説明できる。
- 4) タンパク質の合成過程を説明できる（セントラルドグマ）。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目： 2年講義プリントを見直し曖昧な点を確認。
事前学修時間： 60分
事後学修項目： 配布した講義プリントと関連問題の見直し。
事後学修時間： 120分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	2時限	必修-5-A-b

担当者 平塚 浩一

テーマ： 必修5：人体の正常構造と機能（生化学）

授業の一般目標： 一般的な検査法を理解するために、生化学的解析手法を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) ヒトゲノムの特徴を説明できる。
- 2) 一塩基多型 (NSPs) について説明できる。
- 3) Common diseaseには何かを説明できる。
- 4) PCR検査の基本的な原理を説明できる。
- 5) RNA発現解析 (RT-PCR, Northern blot) を説明できる。
- 6) タンパク質発現解析 (Western blot) を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目： 2年講義プリントを見直し曖昧な点を確認。
事前学修時間： 60分
事後学修項目： 配布した講義プリントと関連問題の見直し。
事後学修時間： 120分

講義日 時限 国試出題基準
07月01日 3時限 総論-Ⅱ-9-ウ-b 総論-Ⅱ-9-ウ-c

担当者 平塚 浩一

テーマ： 必修5：人体の正常構造・機能 7/1（生化学）
総論Ⅱ：口腔・顎顔面の発生・成長・発育 7/4（生化学）

授業の一般目標： 将来の革新的な医療を理解するために、再生医療の基礎を学習する。7/1
骨リモデリング機構を理解するためにカルシウム調節機構と骨芽細胞、破骨細胞の情報伝達の仕組みと働きを学習する。7/4

到達目標SBOs：

- 1) <再生医療> 7/1
- 2) ES, iPS細胞の作成法とそれぞれの特徴を理解する。
- 3) <骨代謝> 7/4
- 4) 骨芽細胞と破骨細胞の特徴を説明できる。
- 5) 骨吸収因子と骨形成因子を列挙できる。
- 6) 骨リモデリングに関与する骨芽細胞と破骨細胞の動きを説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：2年時配布したプリントを見直しておくこと。
事前学修時間：1時間
事後学修項目：確認試験と解説。配布プリントの見直し。
事後学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月01日 4時限 総論-Ⅲ-2-ア-b

担当者 平塚 浩一

テーマ： 総論Ⅲ：口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態（生化学）

授業の一般目標： う蝕の発生機序を理解するために、S.mutansによる硬組織脱灰過程を学習する。

到達目標SBOs：

- 1) ステファン曲線を説明できる。
- 2) Streptococciの糖代謝を説明できる。
- 3) 菌体外多糖の種類と形成機序を説明できる。
- 4) 代用甘味料の種類と意義を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：2年講義プリントを見直し曖昧な点を確認。
事前学修時間：60分
事後学修項目：配布した講義プリントと関連問題の見直し。
事後学修時間：120分

講義日	時限	国試出題基準
07月01日	5時限	総論-Ⅱ-4-オ-a 総論-Ⅱ-4-オ-b 総論-Ⅱ-4-オ-c 総論-Ⅱ-4-オ-d 必修-5-ア-e

担当者 五十嵐 由里子

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（解剖学）

授業の一般目標： 頭頸部の内臓の構造を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔の構造を説明できる。
- 2) 舌の構造を説明できる。
- 3) 唾液腺の構造を説明できる。
- 4) 咽頭の構造を説明できる。
- 5) 鼻腔の構造を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：口腔、舌、唾液腺、咽頭の構造を配付資料・解剖の本で確認する。
事前学習時間：30分
事後学習項目：口腔、舌、唾液腺、咽頭の構造を再確認する。
事後学習時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	1時限	総論-Ⅱ-5-イ-b

担当者 玉村 亮

テーマ： 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（組織・発生学）

授業の一般目標： 歯周組織の構造を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯根膜の構造を説明できる。
- 2) 歯槽骨の構造を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：歯根膜と歯槽骨の構造について
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学修項目：歯根膜と歯槽骨の構造について配布プリントや教科書を用いて復習する。
- ・事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	2時限	必修-6-ア-a 必修-6-ア-b

担当者 玉村 亮

テーマ： 必修6 人体の発生・成長・発達・加齢（組織・発生学）

授業の一般目標： 人体の発生について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 生殖子の形成について説明できる。
- 2) 排卵・受精・着床について説明できる。
- 3) 二層性胚盤・三層性胚盤について説明できる。
- 4) 胚子期、胎児期における器官形成について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：人体の発生に関して
- ・準備学修時間：60分
- ・準備学修項目：人体の発生に関して配布プリントや教科書を用いて復習する。
- ・準備学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	3時限	総論-II-9-ア-a 総論-II-9-ア-b 総論-II-9-ア-c

担当者 玉村 亮

テーマ： 総論II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（組織・発生学）

授業の一般目標： 口腔・頭蓋・顎顔面領域における発生について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を説明できる。
- 2) 一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：口腔・頭蓋・顎顔面領域における発生に関して
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学修項目：口腔・頭蓋・顎顔面領域における発生に関して配布プリントや教科書を用いて復習する。
- ・事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	4時限	総論-Ⅱ-9-イ-b 総論-Ⅱ-9-イ-c

担当者 玉村 亮

テーマ： 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（組織・発生学）

授業の一般目標： 歯の発生を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 歯の発生の概要を説明できる。
- 2) 歯胚の構造を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：歯の発生に関して
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学修項目：歯の発生に関して配布プリントや教科書を用いて復習する。
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月02日	5時限	総論-Ⅱ-4-オ-d 必修-5-ア-e 総論-Ⅱ-4-ア 総論-Ⅱ-4-エ-a 総論-Ⅱ-4-エ-c

担当者 佐々木 佳世子

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（解剖学）

授業の一般目標： 頭頸部の内臓の構造を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 喉頭の構造を説明できる。
- 2) 頭頸部の循環器の構成を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学習項目：該当する内容を解剖の本で確認する。
- 事前学習時間：30分
- 事後学習項目：喉頭と頭頸部の脈管の構造と機能を再確認する。
- 事後学習時間：60分

該当する内容を解剖の本で確認する。
1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月03日	1時限	総論-Ⅱ-4-イ-a 総論-Ⅱ-4-イ-b 総論-Ⅱ-4-ウ-a 総論-Ⅱ-4-ウ-b 総論-Ⅱ-4-ウ-c 必修-5-ア-e

担当者 近藤 信太郎

テーマ： 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（解剖学）

授業の一般目標： 頭蓋骨と頭蓋の筋を説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 頭蓋底の構造が説明できる。
- 2) 上顎骨の構造が説明できる。
- 3) 下顎骨の構造が説明できる。
- 4) 顔面筋（表情筋）が説明できる。
- 5) 咀嚼筋が説明できる。
- 6) 舌骨上筋が説明できる。
- 7) 咀嚼と嚥下に関与する筋のはたらきが説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：頭蓋骨と頭蓋の筋の構造を教科書を通読して復習する。
- ・準備学修時間：30分
- ・事後学修項目：頭蓋骨と頭蓋の筋の構造を配布プリントを見て復習する。
- ・事後学修時間：30分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月03日	2時限	総論-Ⅱ-4-カ-a 総論-Ⅱ-4-ア 総論-Ⅱ-4-キ-b 必修-5-ア-e

担当者 近藤 信太郎

テーマ： 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（解剖学）

授業の一般目標： 脳神経の分布とはたらきが説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 頸部の三角と筋間隙が説明できる。
- 2) 三叉神経の分布とはたらきが説明できる。
- 3) 顔面神経の分布とはたらきが説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：頸部の三角と筋間隙を復習する。三叉神経と顔面神経の復習をする。
- ・準備学修時間：30分
- ・事後学修項目：三叉神経と顔面神経の走行をする。
- ・事後学修時間：30分

講義日 時限 国試出題基準
07月03日 3時限 必修-12-エ-a 総論-VII-8-ウ-c

担当者 栗原 紀子

テーマ： 必修12 治療の基礎・基本手技（感染免疫学）

授業の一般目標： 微生物に対する感染対策および薬物療法を理解するために、滅菌・消毒法および抗感染症薬について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 滅菌法の種類と適用について説明できる。
- 2) 消毒法の種類と適用について説明できる。
- 3) 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬の作用機序を説明できる。
- 4) 薬剤耐性と副作用について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：滅菌と消毒、微生物に対する化学療法薬について学修しておく。
- ・事前学修時間：60分
- ・事後学修項目：授業内容の復習
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月03日 4時限 必修-5-イ-a 必修-5-イ-c 総論-II-7-ア 総論-II-7-イ

担当者 *齋藤 真規、栗原 紀子

テーマ： 総論II：正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（感染免疫学）

授業の一般目標： 口腔領域における宿主と微生物の関わりを理解するために、口腔関連微生物と性状について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔常在微生物叢について説明できる。
- 3) バイオフィルムの形成過程を説明できる。
- 4) 口腔に症状を呈する疾患の原因微生物を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：口腔に棲息する常在微生物について予習する。
- 事前学修時間：60分
- 事後学修項目：口腔常在微生物とバイオフィルム形成機序について復習する。
- 事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
07月03日 5時限 総論-Ⅲ-1-カ-c 必修-5-イ-c 総論-Ⅲ-1-カ-b

担当者 *齋藤 真規、栞原 紀子

テーマ： 総論Ⅲ：病因、病態（感染免疫学）

授業の一般目標： 齶蝕、歯周病および口腔微生物と全身疾患への関わりについて理解するために、関連する口腔微生物と病原因子について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 齶蝕に関連する微生物、病原因子および齶蝕発症機序を説明できる。
- 3) 歯周病に関連する微生物および病原因子を説明できる。
- 4) 全身疾患に關与する口腔微生物について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目： 齶蝕および歯周病に關与する微生物について予習する。
事前学修時間： 60分
事後学修項目： 齶蝕、歯周病および全身疾患に關連する口腔微生物の病原因子について復習する。
事後学修時間： 60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月04日 1時限 必修-5-ア-f 総論-Ⅱ-3-オ

担当者 落合 智子

テーマ： 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（感染免疫学）

授業の一般目標： 口腔の感染防御を理解するために、口腔領域の免疫機構について学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 唾液による防御機構を説明できる。
- 2) 歯肉溝滲出液による感染防御を説明できる。
- 3) 口腔内の感染防御機構（自然免疫、獲得免疫、粘膜免疫）を説明できる。
- 4) 口腔のアレルギー疾患・自己免疫疾患を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目： 唾液中の抗菌物質を予習する。口腔の免疫機構を予習する。
事前学修時間： 1時間
事後学修項目： 口腔内の感染防御機構およびアレルギー疾患、自己免疫疾患を復習する。
事後学修時間： 1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月04日	2時限	必修-5-ア-f 総論-II-3-エ-a

担当者 落合 智子

テーマ： 総論II：免疫学まとめ（感染免疫学）

授業の一般目標： 自然免疫、獲得免疫に関する基本的知識を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 自然免疫を説明できる。
- 2) 獲得免疫を説明できる。
- 3) 体液性免疫について説明できる。
- 4) 免疫血清学検査を説明できる。
- 5) ワクチンについて説明できる。
- 6) 細胞性免疫について説明できる。
- 7) 抗腫瘍免疫を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目： 自然免疫、獲得免疫を予習する。

事前学修時間： 1時間

事後学修項目： 自然免疫、獲得免疫、ワクチン、免疫血清学検査を復習する。

事後学修時間： 1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月06日	1時限	総論-II-6-ア-a 総論-II-1-キ-b

担当者 吉垣 純子

テーマ： 総論II：正常構造と機能，発生，成長，発達，加齢（生理学）

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために，一般感覚と口腔感覚の成立機構を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 感覚の種類を列挙できる。
- 2) 神経線維の分類を説明できる。
- 3) 口腔に存在する感覚器の種類を列挙できる。
- 4) 口腔感覚の伝導路を説明できる。
- 5) 味覚の成立機構を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目： 神経の分類と働きについて復習する。

事前学修時間： 1時間

事後学修項目： 口腔感覚の種類と特徴，伝導路を復習する。

自己学修時間： 1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月06日 2時限 総論-Ⅱ-6-イ-a

担当者 吉垣 純子

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能，発生，成長，発達，加齢（生理学）

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために，顎反射の成立機構と意義を学ぶ。

到達目標 S B O s：

- 1) 伸張反射を説明できる。
- 2) 顎反射の種類を説明できる。
- 3) 顎反射の反射弓を説明できる。
- 4) 顎反射の咀嚼における意義を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：咀嚼筋の神経支配を復習しておく。

事後学修時間：1時間

事後学修項目：顎反射の種類・反射弓・特徴と咀嚼・顎位維持における役割を復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月06日 3時限 総論-Ⅱ-6-ウ-c 総論-Ⅱ-4-ウ-c

担当者 吉垣 純子

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能，発生，成長，発達，加齢（生理学）

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために，嚥下・嘔吐の機構を学ぶ。

到達目標 S B O s：

- 1) 摂食嚥下の5期を説明できる。
- 2) 嚥下調節に関わる感覚伝導路を説明できる。
- 3) 嚥下に関わる筋を列挙できる。
- 4) 誤嚥を防止するメカニズムを説明できる。
- 5) 嘔吐時の生体応答を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：頭頸部の解剖について復習する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：摂食嚥下の5期について，関わる感覚伝導路と筋の働きを復習する。

事後学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月06日 4時限 総論-Ⅱ-6-オ-b 総論-Ⅱ-6-オ-a

担当者 吉垣 純子

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能，発生，成長，発達，加齢（生理学）

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために，唾液成分と唾液分泌機構を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 唾液腺の種類を列挙できる。
- 2) 唾液成分と役割を列挙できる。
- 3) 唾液分泌の調節機構を説明できる。
- 4) 唾液の組成変化を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：外分泌と内分泌の違いを理解しておく。
事前学修時間：1時間
事後学修項目：唾液の機能と分泌調節機構を復習する。
事後学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月06日 5時限 総論-Ⅱ-6-エ 総論-VI-1-イ-f

担当者 吉垣 純子

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能，発生，成長，発達，加齢（生理学）

授業の一般目標： 口腔機能としての構音の成立と障害を説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 構音と発声の違いを説明できる。
- 2) 母音と子音の違いを説明できる。
- 3) 構音に必要な要素を説明できる。
- 4) 構音障害の種類と原因を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：声帯の構造を理解しておく。
事前学修時間：1時間
事後学修項目：起こりうる構音障害をまとめる。
事後学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月07日 1時限 必修-12-ケ-b 必修-12-ア-b

担当者 *岡田 珠美

テーマ： 必修12 歯の硬組織疾患の治療
総論Ⅶ 歯の硬組織疾患の治療、接着処理・技術

授業の一般目標： 歯の硬組織疾患の修復処置を行うために、治療の基本的な手技、修復方法、修復手順について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容について教授する。
- 2) 歯の硬組織疾患に対する修復治療の種類について説明できる。
- 3) 修復治療の基本的な手技について説明できる。
- 4) 修復治療の手順について説明できる。
- 5) 修復治療に用いる材料について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：修復処置に用いる器具、器械、修復材料について学修しておく。
準備学修時間：30分
事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月07日 2時限 必修-12-ウ-b 必修-12-セ-b 必修-12-セ-e 必修-12-セ-f 必修-12-セ-g 必修-12-セ-h

担当者 *寺中 文子

テーマ： 必修12 治療に用いる基本的器材
総論Ⅷ 診療用器械、成型修復材料

授業の一般目標： 歯の硬組織疾患の修復処置を行うために、治療に用いる基本的器材ならびに診療用器械、歯髄障害について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 修復治療に用いる基本的器材について説明できる。
- 3) 修復治療に用いる診療用器械について説明できる。
- 4) 修復治療時の歯髄障害について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：修復処置に用いる器具、器械、修復材料について学修しておく。
準備学修時間：30分
事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
07月07日	3時限	必修-4-イ-a 必修-4-ア-a 必修-4-ア-b 必修-4-ア-c 必修-4-ア-e 総論-I-1-エ-a 総論-I-1-エ-e

担当者 *有川 量崇

テーマ: 必修2:社会と歯科医療(衛生学)、必修4:予防と健康管理・増進、総論I:健康の保持・増進と社会保障の仕組み

授業の一般目標: 歯科医師として必要な法・制度を学び、医療人として社会における役割と責任について理解し、修得することができる。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 健康の概念について説明できる。
- 3) ヘルスプロモーションについて説明できる。
- 4) プライマリーヘルスケアについて説明できる。
- 5) 地域保健法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目: SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間: 1時間

事後学修項目: 講義で配布したプリントの内容(健康の概念、ヘルスプロモーション、地域保健法など)を整理・復習する。

事後学修時間: 1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月07日	4時限	必修-4-イ-a 必修-4-ア-a 必修-4-ア-b 必修-4-ア-c 必修-4-ア-e 総論-I-1-エ-a 総論-I-1-エ-e

担当者 *有川 量崇

テーマ: 必修2:社会と歯科医療(衛生学)、必修4:予防と健康管理・増進、総論I:健康の保持・増進と社会保障の仕組み

授業の一般目標: 歯科医師として必要な法・制度を学び、医療人として社会における役割と責任について理解し、修得することができる。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 健康増進法について説明できる。
- 3) 高齢者の医療の確保に関する法律を説明できる。
- 4) 食育基本法について説明できる。
- 5) 精神保健について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目: SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間: 1時間

事後学修項目: 講義で配布したプリントの内容(健康増進法、高齢者医療確保法、精神保健関連など)を整理・復習する。

事後学修時間: 1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月07日	5時限	総論-II-5-A-b 総論-I-2-A-g 各論-I-1-I-d 各論-I-1-I-h 各論-I-2-A-a 各論-I-2-I-a 総論-III-2-A-b 総論-III-2-A-a

担当者 *清水 邦彦

テーマ： 必修・乳歯の形態的特徴（小児歯科）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、乳歯の形態的特徴、歯の数・形態・構造の異常、ならびに児童虐待について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 児童虐待について説明できる。
- 3) 乳歯および幼若永久歯の形態的特徴を説明できる。
- 4) 歯の数・形態・構造の異常について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：実践問題集総論、各論I領域

準備学修時間：60分

事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月08日	1時限	必修-1 2-U-b 必修-1 2-セ-b 必修-1 2-セ-e 必修-1 2-セ-f 必修-1 2-セ-g 必修-1 2-セ-h

担当者 *岩井 啓寿

テーマ： 必修12 治療に用いる基本的器材
総論VIII 診療用器械、成型修復材料

授業の一般目標： 歯の硬組織疾患の修復処置を行うために、治療に用いる基本的器材ならびに診療用器械、修復材料について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 修復治療に用いる基本的器材について説明できる。
- 3) 修復治療に用いる前準備について説明できる。
- 4) 修復治療に用いる材料について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：修復処置に用いる器具、器械、修復材料について学修しておく。

準備学修時間：30分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
07月08日 2時限 必修-1 2-ケ-b 総論-VII-2-ア-a

担当者 *岩井 啓寿

テーマ： 必修12 歯の硬組織疾患の治療
総論VII 歯の硬組織疾患の治療、接着処理・技術

授業の一般目標： 歯の硬組織疾患の修復処置を行うために、治療の基本的な手技、修復方法、接着操作について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯の硬組織疾患に対する修復治療の種類について説明できる。
- 3) 修復治療の基本的な手技について説明できる。
- 4) 修復治療の接着操作について説明できる。
- 5) グラスアイオノマーセメント修復について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：修復処置の種類、手順、特徴について学修しておく。
準備学修時間：30分
事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月08日 3時限 総論-I-5-ア-b 総論-I-5-ア-a 総論-I-5-ア-b

担当者 *有川 量崇

テーマ： 必修2：社会と歯科医療（衛生学）、総論I：国際保健、国際協力

授業の一般目標： 歯科医師として必要な法・制度を学び、医療人として社会における役割と責任について理解し、修得することができる。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 世界の保健・医療の問題と方向性について理解できる。
- 3) 国際保健、国際協力について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。
事前学修時間：1時間
事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（国際保健、世界の保健・医療）を整理・復習する。
事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月08日	4時限	必修-2-イ-e 総論-I-1-ウ-a 総論-I-1-ウ-h 総論-I-1-エ-b 必修-2-イ-a 必修-2-イ-e 総論-I-1-ウ-a 総論-I-1-ウ-b

担当者 *有川 量崇

テーマ： 必修4：社会と歯科医療（衛生学）

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な医療法、医療計画、医療の質の確保の知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 患者満足度、患者説明文書、クリニカルパスについて説明できる。
- 3) 医療廃棄物処理、院内感染対策委員会について説明できる。
- 4) 医薬品・医療機器による健康被害について説明できる。
- 5) 医療法について説明できる。
- 6) 医療計画について説明できる。
- 7) 医事衛生法規について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：医療法、医療計画の知識を修得する。

準備学修時間：1時間

事後学修項目：医療法、医療計画の知識を修得する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月08日	5時限	必修-2-イ-h 総論-I-4-ア-c

担当者 *有川 量崇

テーマ： 必修2：社会と歯科医療（衛生学）、総論I：社会保障と医療経済

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な社会保障制度、医療経済と国民医療費、国際保健の知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 社会保障制度について説明できる。
- 3) 医療経済と国民医療費について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：医療経済と国民医療費の知識を修得する。

準備学修時間：1時間

事後学修項目：医療経済と国民医療費の知識を修得する。

事後学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月09日 1時限 必修-1 2-ケ-c 総論-II-5-ア-c 総論-II-5-イ-a

担当者 *神尾 直人

テーマ： 必修12 治療の基礎・基本手技（歯内療法学）
総論II・III 構造と機能、発生、加齢、病因、病態

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、基本的な術式、構造と機能、発生、加齢、病因、病態を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯髄疾患・根尖歯周組織疾患の治療の基本的術式を説明できる。
- 3) 歯内分野における正常構造と機能、発生、加齢を説明できる。
- 4) 歯内分野における病因、病態を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

歯内療法総論全般
1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月09日 2時限 総論-IV-2-ア 総論-VI-1-ア-b

担当者 *岡部 達

テーマ： 必修12 治療の基礎・基本手技（歯内療法学）
総論IV・VI 主要症候・検査

授業の一般目標： 歯髄根尖歯周組織疾患の適切な診断・治療ができるようになるために、歯・歯髄・根尖歯周組織の主要症候、検査について習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯内分野における主要症候を説明できる。
- 3) 歯内分野における検査を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修内容 歯内療法全般
1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月09日 3時限 総論-VII-2-ア-b 総論-VIII-5-ウ-a 総論-VIII-5-ウ-b

担当者 *吉田 陽子

テーマ： 必修12 治療の基礎・基本手技（歯内療法学）
総論VII・VIII 治療・歯科材料と歯科医療機器

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患を適切に診断・治療ができるようになるために、歯・歯髄・根尖歯周組織疾患の治療、歯科材料と歯科医療機器を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯内領域における治療法を説明できる。
- 3) 歯内領域における材料と医療機器を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目 歯内療法全般
学習時間 1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月09日 4時限 必修-6-イ-a 必修-6-イ-b 必修-6-イ-c 必修-6-イ-d

担当者 *清水 邦彦

テーマ： 必修：人体の発生・成長・発達・加齢（小児歯科）

授業の一般目標： 小児の発育を考慮した小児歯科治療を実践するために、小児の身体的・精神的発達を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 小児の発育を説明できる。
- 3) 身体発育の特徴を説明できる。
- 4) 身体発育と精神発達の評価法を説明できる。
- 5) 小児の生理的特徴を理解できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：小児の身体的・精神的発達について
準備学修時間：30分
事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。
事後学習時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
07月09日	5時限	必修-1-ア-a 必修-1-ア-b

担当者 *有川 量崇

テーマ： 必修1：医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム（衛生学）

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な医の倫理、生命倫理の知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言について説明できる。
- 3) ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、リスボン宣言について説明できる。
- 4) 守秘義務、プライバシーの尊重について説明できる。
- 5) インフォームドコンセント、セカンドオピニオンについて説明できる。
- 6) 患者の権利と義務、自己決定権について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（医の倫理、患者の権利）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月10日	1時限	総論-VI-1-ア-c

担当者 *高井 英樹

テーマ： 総論VI：検査（歯周治療学）

授業の一般目標： 歯周病を治療するために、歯周組織検査および治療計画について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯周組織検査について理解できる。
- 3) 治療計画を立案できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯周組織検査および治療計画について予習する。

準備学修時間：1時間

事後学修項目：授業時配布プリントの復習

事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月10日	2時限	総論-VII-2-ア-c 総論-VIII-1 1-イ 総論-VIII-1 1-エ

担当者 *高井 英樹

テーマ： 総論VII：治療（歯周治療学）

授業の一般目標： 歯周病を治療するために、歯周治療および歯周治療用材料を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯周基本治療について理解できる。
- 3) 歯周外科治療の基本手技について理解できる。
- 4) 歯周治療用材料について理解できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯周治療について予習する。
準備学修時間：1時間
事後学習項目：授業時配布プリントの復習
事後学習時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月10日	3時限	必修-1 2-ケ-d

担当者 *高井 英樹

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（歯周治療学）

授業の一般目標： 歯周病を治療するために、歯周組織検査、治療計画および治療法について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯周組織検査について理解できる。
- 3) 治療計画を立案できる。
- 4) 歯周治療について理解できる。
- 5) 歯周外科治療の基本手技について理解できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯周組織検査、治療計画および治療法を予習する。
準備学修時間：1時間
事後学習項目：授業時配布プリントの復習
事後学習時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月10日 4時限 必修-6-U-a

担当者 *清水 邦彦

テーマ： 必修：人体の発生・成長・発達・加齢（小児歯科）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯・歯列の発育および小児への歯科的対応について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯の発育を説明できる。
- 3) 歯齢を説明できる。
- 4) 歯列の発育を説明できる。
- 5) 小児期の栄養について説明できる。
- 6) 口腔機能の発達について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：小児の歯・歯列の発育について
準備学修時間：30分
事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。
事後学習時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月10日 5時限 必修-12-I-c 必修-12-I-a

担当者 *清水 邦彦

テーマ： 必修：治療の基礎・基本手技（小児歯科学）

授業の一般目標： 安全な小児歯科診療を実施するために小児歯科治療の基礎および対応法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 年齢別による小児のコミュニケーションを説明できる。
- 3) 小児の対応法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：小児の対応法について
準備学修時間：30分
事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。
事後学習時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
07月11日	1時限	必修-9-カ-b 総論-VI-1-ア-e 総論-VI-2-エ-d 各論-I-7-イ 各論-I-7-ウ

担当者 *五関 たけみ

テーマ： 必修9：診察の基本（歯科矯正学）

授業の一般目標： 適切な矯正治療を実践するために、不正咬合の特徴を捉え、診断および治療計画の立案に必要な検査・分析法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯列・咬合の診査項目を述べることができる。
- 3) 模型分析の項目と特徴を述べることができる。
- 4) 各種セファロ分析の項目と特徴を述べることができる。
- 5) 分析により得られたデータを統合して不正咬合の状態を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：形態的検査、機能的検査について

準備学修項目：(90分)

事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習項目：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月11日	2時限	総論-IV-2-ウ 総論-VI-1-ア-e 総論-VI-2-エ-d 各論-I-7-イ 各論-I-7-ウ

担当者 *五関 たけみ

テーマ： 総論IV：主要症候（歯科矯正学）

授業の一般目標： 適切な矯正治療を実践するために、不正咬合の特徴を捉え、診断および治療計画の立案に必要な検査・分析法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯列・咬合の診査項目を述べることができる。
- 3) 模型分析の項目と特徴を述べることができる。
- 4) 各種セファロ分析の項目と特徴を述べることができる。
- 5) 分析により得られたデータを統合して不正咬合の状態を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：形態的検査、機能的検査について

準備学修項目：(90分)

事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習項目：60分

講義日 時限 国試出題基準
07月11日 3時限 必修-6-U-b 必修-6-I-c 総論-II-8-I-a 総論-II-9-E-a

担当者 *石井 かおり

テーマ: 必修6: 人体の発生・成長・発達・加齢 (歯科矯正学)

授業の一般目標: 口腔・顎・顔面の成長発育を考慮した矯正治療を実践するために、頭蓋・顎顔面の成長パターンおよび成長発育の評価法を理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」
- 2) 成長発育の評価について説明できる。
- 3) 骨年齢とその評価について説明できる。
- 4) 成長スパートの予測について説明できる。
- 5) 脳頭蓋の成長について説明できる。
- 6) 上顎骨の成長発育の特徴について説明できる。
- 7) 下顎骨の成長発育の特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: ①Scammonの臓器発育曲線について ②生理的年齢について ③脳頭蓋の成長様式について ④上下顎骨の成長発育の特徴について
- ・事前学習時間: 60分
- ・事後学修項目: 顎顔面頭蓋の成長発育について
- ・事後学修時間: 60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月13日 1時限 総論-VII-6-I-a 総論-II-6-U-c 総論-II-6-E 総論-IV-2-K 総論-V-5-I-e 総論-VI-1-I-e 総論-VI-1-I-f 総論-VI-1-I-g

担当者 *野本 たかと

テーマ: 総論VII: 治療: 摂食・嚥下障害のリハビリテーション (障害者歯科学)

授業の一般目標: 摂食・嚥下機能の発達および加齢変化を理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 摂食機能の発達について述べられる。
- 3) 嚥下のメカニズムについて説明できる。
- 4) 嚥下障害について述べられる。
- 5) 誤嚥性肺炎について述べられる。

準備学修項目と準備学修時間:

- 事前学修項目 スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版 該当項目について熟読する。
- 事前学習時間 60分
- 事後学修項目 スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版 該当項目について熟読する。
- 事後学習時間 60分

講義日	時限	国試出題基準
07月13日	2時限	必修-3-ア-a 必修-3-ア-b 必修-3-ア-c 必修-3-ア-d 必修-3-イ-a 必修-3-イ-b 必修-3-イ-c 必修-3-イ-d

担当者 *梅澤 幸司

テーマ： 必修3：チーム歯科医療（障害者歯科学）

授業の一般目標： 医療機関、地域医療でのチームワークについて説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 多職種連携について説明できる。
- 3) 病診連携、診診連携について説明できる。
- 4) チームワーク形成について説明できる。
- 5) コンサルテーションについて説明できる。
- 6) 社会生活について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事前学習時間	60分	
事後学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事後学習時間	60分	

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月13日	3時限	必修-12-イ-a 必修-12-ア-c 必修-12-イ-b 必修-12-イ-c 必修-12-イ-d

担当者 *梅澤 幸司

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（障害者歯科学）

授業の一般目標： 障害者、高齢者、要介護者の治療について説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) スペシャルニーズのある人たちの治療環境について説明できる。
- 3) スペシャルニーズのある人達の治療体位について説明できる。
- 4) スペシャルニーズのある人達のコミュニケーションについて説明できる。
- 5) スペシャルニーズのある人達に対するチーム医療について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事前学習時間	60分	
事後学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事後学習時間	60分	

講義日	時限	国試出題基準
07月13日	4時限	総論-V-5-ア-b 総論-V-2-オ-a 総論-V-2-オ-b 総論-V-2-オ-c 総論-V-3-ア 総論-V-3-ウ 総論-V-3-エ 総論-V-3-オ

担当者 *梅澤 幸司

テーマ: 総論V: 診察 (障害者歯科学)

授業の一般目標: 障害児・者の歯科治療が行えるようになるために、障害者や高齢者の対応について理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 障害者の保健・医療・福祉について述べられる。
- 3) 障害者の概念や分類を説明できる。
- 4) 障害者の行動調整法について述べられる。
- 5) 障害者および高齢者の歯科治療について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事前学習時間	60分	
事後学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事後学習時間	60分	

講義日	時限	国試出題基準
07月13日	5時限	総論-VII-6-イ-a 総論-II-6-ウ-c 総論-V-5-イ-e 総論-VII-6-ア 総論-VI-1-イ-e 総論-VI-1-イ-f 総論-VI-1-イ-g

担当者 *三田村 佐智代

テーマ: 総論VII: 治療: 摂食嚥下障害のリハビリテーション (障害者歯科学)

授業の一般目標: 高齢者における摂食嚥下機能を理解する

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) リハビリテーションの概念について説明できる
- 3) 摂食嚥下のメカニズムについて説明できる
- 4) 高齢者における摂食嚥下機能の特徴について説明できる

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科第2版の該当項目について予習する。
- ・事前学修時間: 30分
- ・事後学修項目: スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科第2版の該当項目について予習する。
- ・事後学修時間: 30分

講義日	時限	国試出題基準
07月18日	1時限	必修-2-コ-b 必修-9-ウ-a 必修-9-ウ-b 必修-9-ウ-c

担当者 *多田 充裕

テーマ： 必修2 診療記録と診療情報&必修9 医療面接（歯科総合診療学）

授業の一般目標： 適切な診療をおこなうために、診療録、診療情報および医療面接に関する基本的事項を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) SOAPについて説明できる。
- 3) 医療面接に意義・目的について説明できる。
- 4) 医療面接のマナーについて説明できる。
- 5) 感情面の対応について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学習項目：診療録、診療情報の管理と記録および医療面接のマナー、聴取事項について学修する。
- ・事前学習時間：50分
- ・事後学習項目：授業時配布プリントの復習
- ・事後学習時間：50分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月18日	2時限	総論-VI-1-ア-f 総論-VI-1-イ-d 総論-VI-1-イ-h

担当者 *多田 充裕

テーマ： 総論VI：口臭検査、唾液検査、味覚検査（歯科総合診療学）

授業の一般目標： 適切な臨床診断を行うため、口腔検査、唾液検査、味覚検査について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 唾液検査について説明できる。
- 3) 味覚検査について説明できる。
- 4) 口臭検査について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学習項目：唾液検査、味覚検査、口臭検査の概要について理解する。
- ・事前学習時間：50分
- ・事後学習項目：授業時配布プリントの復習
- ・事後学習時間：50分

講義日	時限	国試出題基準
07月18日	3時限	必修-9-イ-a 必修-9-イ-b 必修-9-イ-c

担当者 *岡本 康裕

テーマ： 必修9：診察の基本・基本手技（歯科総合診療学）

授業の一般目標： 全人的医療を実践するために、歯科治療における診察の基本に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」
- 2) 診察のあり方に関する用語を説明できる。
- 3) 診察の基本手技について説明できる。
- 4) 診察時の体位について説明できる。
- 5) 口腔内診察時の基準と選択を説明できる。
- 6) 全身診察所見について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学習項目：過去の触診・体位に関する国家試験問題の確認
- ・事前学習時間：10分
- ・事後学修項目：触診・体位に関する特徴的所見の整理
- ・事後学修時間：15分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月20日	1時限	総論-VIII-1-ア-c 総論-VIII-6-ウ-a 総論-VIII-6-ウ-b 総論-VIII-6-ウ-c 総論-VIII-6-ウ-d 総論-VIII-6-ウ-e 総論-VIII-6-ウ-f 総論-VIII-7-ウ-f

担当者 谷本 安浩

テーマ： 総論VIII：歯科材料と歯科医療機器（歯科理工学）

授業の一般目標： 歯科用金属材料を適切に使用するために、それらの性質と取り扱いについて理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯科用金属材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 金属の成形加工、軟化熱処理および硬化熱処理について説明できる。
- 3) 歯科用磁性合金の種類、組成および性質について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。
- 事前学修時間：1時間
- 事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（歯科用金属、成形加工、熱処理）を整理・復習する。
- 事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月20日	2時限	総論-VIII-1 1-A 総論-VIII-1 1-I 総論-VIII-1 1-E

担当者 谷本 安浩

テーマ： 総論VIII：歯科材料と歯科医療機器（歯科理工学）

授業の一般目標： 人工歯根材料、骨補填材および組織再生用膜材料を適切に使用するために、それらの性質と取り扱いについて理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯科インプラント用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 骨補填材の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 組織再生用膜材料の種類、組成および性質について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（人工歯根材料、骨補填材、組織工学用材料）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月20日	3時限	総論-VIII-8-A 総論-VIII-5-I 総論-VIII-5-U-a 総論-VIII-5-U-b

担当者 岩崎 太郎

テーマ： 総論VIII：歯科材料と歯科医療機器（歯科理工学）

授業の一般目標： 被着面に対する接着術式、シーラントによる小窩・裂溝の填塞および歯内療法を適切に行うために、接着システム、予防填塞材料および歯内療法関連材料の種類や基本的性質について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯科接着技術における歯質、金属およびセラミックスの被着面処理法について説明できる。
- 2) 予防歯科材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 歯内療法関連材料の種類、組成および性質について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（接着、予防填塞材料、歯内療法関連材料）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月20日	4時限	総論-VIII-6-イ-b 総論-VIII-7-エ 総論-VIII-10-ア 総論-VIII-10-イ 総論-VIII-10-ウ

担当者 岩崎 太郎

テーマ： 総論VIII：歯科材料と歯科医療機器（歯科理工学）

授業の一般目標： 歯科用セラミックスの臨床応用や歯科矯正治療を適切に行うために、ニューセラミックス、CAD/CAMシステムおよび矯正用材料の種類や基本的性質について理解する。

到達目標SB0s：

- 1) ニューセラミックスの種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 歯科用CAD/CAMの特徴について説明できる。
- 3) 歯科矯正用材料の種類、組成および性質について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（ニューセラミックス、CAD/CAMシステム、矯正用材料）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月20日	5時限	必修-4-イ-a 必修-4-イ-b

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 必修-4：予防と健康管理・増進（衛生学）

授業の一般目標： 予防と健康管理・増進について習得する。

到達目標SB0s：

- 1) 健康増進と疾病予防について説明できる。
- 2) 地域保健について説明できる。
- 3) 母子保健について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（地域保健、母子保健など）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月21日	1時限	必修-12-ア-a 必修-12-ケ-e

担当者 *飯島 守雄

テーマ: 必修12:治療の基礎・基本手技(可撤性部分床義歯学)

授業の一般目標: 歯の欠損による障害の治療を可撤性部分床義歯により行うときの基本的術式を理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 可撤性部分床義歯の意義を述べることができる。
- 3) 可撤性部分床義歯の製作過程を説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学習項目: 可撤性局部床義歯の目的について 1時間程度

事後学習項目: 可撤性局部床義歯の製作過程について(日数をアレンジした過程を各自検討する。) 1時間程度

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月21日	2時限	総論-VII-2-ア-d 総論-VIII-3-ウ 総論-VIII-3-エ 総論-VIII-3-オ 総論-VIII-6-オ 総論-VIII-6-カ

担当者 *木本 統

テーマ: 必修・領域A:治療の基本・基礎(全部床義歯学)

授業の一般目標: 全部床義歯を用い歯の欠損による障害の治療を行うための基本的術式を知る。

到達目標SBOs:

- 1) 全部床義歯治療の基本操作を説明できる。
- 2) 全部床義歯治療に必要な器具・器材の使用方法を述べるができる。
- 3) 全部床義歯治療に必要な技工操作を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

準備学習項目: 治療の手順

準備学習項目: (60分)

事後学習項目: 配付資料と教科書を用いながら復習し必修対策を行う。

事後学習項目: (60分)

講義日 時限 国試出題基準
07月21日 3時限 総論-IV-2-ケ 総論-VI-1-イ-f 総論-VI-1-イ-c 総論-VIII-6-オ

担当者 *矢崎 貴啓

テーマ： 総論VI：病因、病態（全部床義歯学）

授業の一般目標： 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯補綴の理論的背景を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 無歯顎者の咀嚼障害、嚥下障害、発語障害について説明することができる。
- 2) 全部床義歯の構成要素を列挙し説明することができる。
- 3) 全部床義歯の維持、支持および安定について説明することができる。
- 4) 全部床義歯装着者にみられる主要症候を説明することができる。
- 5) 義歯床用材料を列挙し説明することができる。
- 6) レジンの成形技術・機器を説明することができる。
- 7) 診察における高齢者への対応について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目とそれに要する時間数 無歯顎補綴治療学および歯科医師国家試験過去問題 2時間
事後学習項目とそれに用いる時間数 上記および配布プリント 2時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月21日 4時限 必修-4-イ-a 必修-4-イ-c 必修-4-イ-d 必修-4-イ-e

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 必修-4：予防と健康管理・増進(衛生学)

授業の一般目標： 予防と健康管理・増進について習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 学校保健について説明できる。
- 2) 産業保健について説明できる。
- 3) 成人・高齢者保健について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。
事前学修時間：1時間
事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（学校保健、産業保健など）を整理・復習する。
事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月21日	5時限	必修-4-ウ-a 必修-4-ウ-b 必修-4-ウ-c

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 必修-4：予防と健康管理・増進(衛生学)

授業の一般目標： 予防と健康管理・増進について習得する。

到達目標SBOs：

1)フッ化物の応用について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（フッ化物応用）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月22日	1時限	総論-V-1-オ 必修-10-ク-a 必修-10-ク-b 必修-10-ク-c

担当者 *大久保 昌和

テーマ： 根拠に基づいた医療<EBM>

授業の一般目標： 根拠に基づいた医療を行うためにEBMについての知識を習得する。

到達目標SBOs：

1)臨床経験に基づき以下の内容を教授する。

2)根拠に基づいた医療について説明できる。

3)EBMの手順を説明できる。

4)問題の定式化について説明できる。

5)科学的根拠について説明できる。

6)診療ガイドラインについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目とそれに要する時間数：Minds医療情報サービスのウェブサイトをご覧ください

minds.jcqhc.or.jp/ 1時間

事後学修項目とそれに要する時間数 講義資料の見直し 1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月22日 2時限 総論-II-8-エ-b

担当者 *中田 浩史

テーマ: 必修・領域A 総論: 全部床義歯

授業の一般目標: 総義歯患者の診断と治療ができるために、加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 無歯顎者の病因と病態について述べることができる。
- 2) 加齢に伴う顎口腔系の変化について述べるができる。
- 3) 総義歯の維持、安定、支持について述べるができる。
- 4) 総義歯治療に必要な解剖学的特徴を述べるができる。
- 5) 咀嚼障害と嚥下障害について述べるができる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目: 歯科補綴学
事前学修時間: 90分
事後学習項目: 配布資料の復習
事後学習時間: 30分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月22日 3時限 総論-VII-1-ア-a 総論-VII-2-ア-d

担当者 *石井 智浩

テーマ: 総論X 治療計画

授業の一般目標: 歯や周囲組織の欠損により予想される口腔内の変化を理解し、部分床義歯補綴の目的、臨床的意義を説明できる。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の項目を教授する。
- 2) 部分床義歯の治療計画を左右する因子を説明できる
- 3) 部分床義歯の治療計画を説明できる
- 4) 歯列の欠損に伴う口腔内の変化を説明できる
- 5) 部分欠損の分類を説明できる

準備学修項目と準備学修時間:

総論-VII-1-ア-a, 総論-VII-2-ア-d
事前学習項目 治療計画・欠損に伴う口腔内の変化・部分欠損の分類について60分の事前学習を要する
事後学習項目 治療計画・欠損に伴う口腔内の変化・部分欠損の分類についての国家試験過去問の60分の事後学習を要する
60分

講義日 時限 国試出題基準
07月22日 4時限 必修-4-ウ-a 必修-4-ウ-b 必修-4-ウ-c

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 必修-4：予防と健康管理・増進(衛生学)

授業の一般目標： 予防と健康管理・増進について習得する。

到達目標SBOs：

- 1)フッ化物の応用について説明できる。
- 2)保健指導について説明できる。
- 3)口腔のケアについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（フッ化物応用、保健指導、口腔ケアなど）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月22日 5時限 必修-4-ウ-c 必修-4-ウ-b 必修-4-ウ-c

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 必修-4：予防と健康管理・増進(衛生学)

授業の一般目標： 予防と健康管理・増進について習得する。

到達目標SBOs：

- 1)保健指導について説明できる。
- 2)口腔清掃について説明できる。
- 3)口腔のケアについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（口腔清掃など）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月25日	1時限	必修-1 2-セ-b 必修-1 2-エ-a 必修-1 2-ケ-e 必修-1 2-セ-f

担当者 *小林 平

テーマ: 必修12: 診療用器材・切削・研削工具 (クラウンブリッジ補綴学)

授業の一般目標: 補綴診療における器具・器材の使用方法和滅菌方法・材料について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「臨床経験に基づいて以下の項目を教授する」
- 2) 補綴診療における器具・器材の使用方法和について説明できる。
- 3) 補綴診療における器具・器材の滅菌方法について説明できる。
- 4) クラウンブリッジ修復材料について理解する。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学習項目: クラウンブリッジ補綴学第5版、クラウンブリッジテクニック、クラウンブリッジ補綴学実習指針を参考にクラウンブリッジ治療方法の手順、器具・器材の使用方法和滅菌方法・材料について理解しておく。
- ・事前学習時間: 50分
- ・事後学習項目: 授業時配布プリントの復習
- ・事後学習時間: 50分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月25日	2時限	必修-1 2-セ-d

担当者 *大村 祐史

テーマ: 必修1 2 治療の基礎・基本手技セ歯科材料・機器 c 印象用材料 d 模型用材料, ワックス

授業の一般目標: クラウンブリッジ治療を行うための基本的術式を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づいて以下の項目を教授する
- 2) 印象材料について理解する
- 3) 模型用材料とワックスについて理解する

準備学修項目と準備学修時間:

- 事前学習項目: クラウンブリッジ補綴学第5版
- 事前学習時間: 60分
- 事後学習項目: 配布資料の復習
- 事後学習時間: 30分

講義日	時限	国試出題基準
07月25日	3時限	必修-1 2-セ-h

担当者 *大村 祐史

テーマ： 必修1 2 治療の基礎・基本手技セ歯科材料・機器 h 接着用材料・接着処理

授業の一般目標： クラウンブリッジ治療を行うための基本的術式を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づいて以下の項目を教授する。
- 2) 接着用材料，接着処理について理解する。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：クラウンブリッジ補綴学第5版
事前学習時間：60分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

=====

講義日	時限	国試出題基準
07月27日	1時限	必修-1 2-ケ-e

担当者 *田中 孝明

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 歯質・歯の欠損による障害の治療を行うための基本的術式を知る。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」
- 2) クラウンブリッジ補綴学治療における臨床的操作を説明できる。
- 3) 治療に必要な器具・器材の使用方法を述べることができる。
- 4) 治療に必要な技工操作を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：クラウンブリッジ補綴学第5版，クラウンブリッジ補綴学実習指針を参考にクラウンブリッジ治療の手順を理解しておく。
事前学習時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日 時限 国試出題基準
07月27日 2時限 必修-10-オ-f

担当者 *田中 孝明

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 歯質・歯の欠損による障害の治療を行うための基本的術式を知る。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」
- 2) 咬合検査に用いる材料と方法を述べることができる。
- 3) 咀嚼能力検査の種類と方法を述べることができる。
- 4) 下顎運動検査の方法と目的を説明できる。
- 5) 筋機能検査の種類と目的を述べることができる。
- 6) 補綴歯科治療における感染の予防対策を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版：第1章，IV 診察と診断と感染予防について予習する。
準備学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月27日 3時限 各論-IV-3-ウ-b

担当者 *内堀 聡史

テーマ： 各論IVクラウンブリッジによる治療（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 最新の歯冠補綴治療を行うために、CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の製作方法を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づいて以下の項目を教授する。」
- 2) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の理論を説明できる。
- 3) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の種類を述べることができる。
- 4) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置に用いる材料を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版を参考にCAD/CAM応用補綴装置の製作方法と材料について理解しておく。
事前学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日	時限	国試出題基準
07月27日	4時限	必修-6-エ-b

担当者 *飯田 崇

テーマ： 必修6：人体の発生・成長・発達・加齢（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 高齢者歯科医療を円滑に行うために、加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化と歯の喪失に伴う変化に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 加齢による歯・口腔・顎・顔面の形態的变化を説明できる。
- 3) 加齢による歯・口腔・顎・顔面の機能的変化を説明できる。
- 4) 歯の喪失に伴う形態的、機能的変化を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化と歯の喪失に伴う変化に関する知識を修得する。
準備学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
07月27日	5時限	必修-7-イ-e

担当者 *飯田 崇

テーマ： 必修7：主要な症候&必修10：検査の基本（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 適切な臨床診断を行うために、歯・口腔・顎・顔面の症候および検査に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯列・咬合の症候を説明できる。
- 3) 顎関節・筋の症候を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯・口腔・顎・顔面の症候および検査に関する知識を修得する。
準備学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月28日 1時限 総論-V-5-イ-d

担当者 *飯田 崇

テーマ： 総論V：発生・成長・発達・加齢（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 高齢者歯科医療を円滑に行うために、基本的な加齢に伴う生理的、機能的変化を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 高齢者が罹患しやすい慢性疾患を挙げ説明できる。
- 3) 加齢・老化による歯・顎・顔面の形態的变化を説明できる。
- 4) 加齢・老化による歯・顎・顔面の機能的変化を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：基本的な加齢に伴う生理的、機能的変化を理解する。
準備学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月28日 2時限 総論-IV-2-ケ 総論-IV-2-ク 総論-IV-2-カ

担当者 *飯田 崇

テーマ： 総論VI：病因、病態（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 口腔顔面領域に発生する有痛性疾患に対応するために、顎・顔面領域の有痛性疾患の特徴を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 脳神経系の役割について説明できる。
- 3) 口腔顔面領域の有痛性疾患について説明できる。
- 4) 非菌原性歯痛の原因疾患について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：顎・顔面領域の有痛性疾患の特徴を理解する。
準備学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月28日 3時限 総論-Ⅱ-6-イ-b 総論-Ⅱ-4-ウ-b 総論-Ⅱ-6-ウ-a

担当者 *飯田 崇

テーマ： 総論Ⅱ：歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の一般概念を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 下顎運動に関連する頭頸部の筋を列挙できる。
- 3) 下顎運動に関連する頭頸部の筋の役割を説明できる。
- 4) 顎関節の構成と役割を説明できる。
- 5) 下顎運動の理解に必要な基準点、基準線、基準面を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：下顎運動と咬合の一般概念を理解する。
準備学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
07月28日 4時限 総論-Ⅱ-6-ウ-a 総論-Ⅱ-6-ウ-b 総論-Ⅱ-4-ウ-b 総論-Ⅱ-6-イ-b

担当者 *飯田 崇

テーマ： 総論Ⅳ：歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 下顎位を列挙して説明できる。
- 3) 咬頭嵌合位における上下顎機能咬頭の接触部位を説明できる。
- 4) 作業側、平衡側における下顎頭運動を説明できる。
- 5) 下顎運動と切歯路、顎路の関連を説明できる。
- 6) 咬合様式を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：下顎運動と咬合の概念を理解する。
準備学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
07月28日 5時限 総論-VI-1-イ-a 総論-VI-1-イ-b 総論-VI-1-イ-c 総論-VI-1-イ-e

担当者 *飯田 崇

テーマ： 総論VI：検査（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 口腔機能の適切な評価を行うために、客観的評価として用いる顎口腔機能に関する検査方法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯列・咬合検査を説明できる。
- 3) 下顎位検査を説明できる。
- 4) 下顎運動検査を説明できる。
- 5) 顎関節・筋機能検査について説明できる。
- 6) 舌運動・舌圧検査を説明できる。
- 7) 咀嚼機能検査を説明できる。
- 8) 咬合力検査を説明できる。
- 9) 嚥下機能検査を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：客観的評価として用いる顎口腔機能に関する検査方法を理解する。

準備学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
08月03日 1時限 総論-VI-2-ア-a 必修-10-カ-b 必修-10-カ-a

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 必修10：画像検査、総論VI：画像検査（放射線学）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、放射線の作用と性質・エックス線撮影装置、検出器、撮影補助機材・エックス線画像の原理について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 電離放射線について説明できる。
- 3) 電磁放射線・粒子放射線について説明できる。
- 4) エックス線撮影装置およびフィルムの構造について説明できる。
- 5) エックス線画像の形成について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：放射線について説明できる。

事前準備学修時間：約30分

事後学修項目：電離放射線、放射線の単位および測定、エックス線撮影装置、検出器、撮影補助機材について説明できる。

事後準備学修時間：約60分

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	2時限	総論-VI-2-イ-a 必修-10-カ-c 総論-VI-2-ウ-a 総論-VI-2-ウ-b

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 必修10：画像検査、総論VI：画像検査（放射線学）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、画像検査における医療情報、放射線防護と管理、医療放射線被曝の防護と管理について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 医療情報システムについて説明できる。
- 3) 放射線の人体への影響について説明できる。
- 4) 線量単位について説明できる。
- 5) 放射線防護と管理について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：基礎的な放射線防護、管理について説明できる。

事前準備学修時間：約30分

事後学修項目：画像検査における医療情報、放射線防護と管理、医療放射線被曝の防護と管理について説明できる。

事後準備学修時間：約60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	3時限	総論-I-2-ア-a 総論-I-2-ア-c 総論-I-2-イ-a 総論-I-2-イ-b 総論-I-2-イ-e

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 総論I：健康管理・増進と予防（衛生学）

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、健康の保持・増進およびライフステージ別の保健・歯科保健について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 健康の保持・増進と予防について説明できる。
- 2) 母子保健と母子歯科保健について説明できる。
- 3) 学校保健と学校歯科保健について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（母子歯科保健、学校歯科保健など）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	4時限	総論-I-2-ウ-a 総論-I-2-ウ-b 総論-I-2-ウ-d 総論-I-2-ウ-f 総論-I-2-ウ-g 総論-I-2-エ-b 総論-I-2-オ-a 総論-I-2-オ-d

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 総論 I：健康管理・増進と予防（衛生学）

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、健康の保持・増進およびライフステージ別の保健・歯科保健について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 産業保健と産業歯科保健について説明できる。
- 2) 高齢者保健と高齢者歯科保健について説明できる。
- 3) 精神保健福祉について説明できる。
- 4) 障害者保健福祉について説明できる。
- 5) 口腔清掃について説明できる。
- 6) 口腔のケアについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリント（産業歯科保健、高齢者歯科保健など）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月03日	5時限	総論-I-9-ア-b 総論-I-7-ア-a 総論-I-7-ア-b 総論-I-7-ア-c 総論-I-9-ア-a 総論-I-9-ア-c 総論-I-9-ア-d 総論-I-9-ア-e

担当者 後藤田 宏也

テーマ： 総論 I：健康管理・増進と予防（衛生学）

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、感染症対策、環境保健について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 感染症対策について説明できる。
- 2) 環境保健について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（感染症対策、環境保健など）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	1時限	必修-10-カ-d 総論-VI-2-エ-b 総論-VI-2-エ-c 総論-VI-2-エ-d

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 必修10：画像検査、総論VI：画像検査（放射線学）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、エックス線撮影（口内法、パノラマエックス線検査）、エックス線単純撮影について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口内法、パノラマエックス線検査の撮影法、原理について説明できる。
- 3) 口外法撮影の種類、原理について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：単純エックス線撮影について説明できる。
事前準備学修時間：約30分
事後学修項目：口内法、パノラマエックス線検査、口外法撮影について説明できる。
事後準備学修時間：約60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	2時限	総論-VI-2-オ-a 必修-10-カ-e

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 必修10：画像検査、総論VI：画像検査（放射線学）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、CT（単純）について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) CTの原理、特徴、適応について説明できる。
- 3) CTの画像解剖について説明できる。
- 4) CBCTの原理、特徴、適応について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：CT（単純）について説明できる。
事前準備学修時間：約30分
事後学修項目：CTの原理、特徴、適応について説明できる。
事後準備学修時間：約60分

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	3時限	総論-VI-2-カ-a 総論-VI-2-キ-a 総論-VI-2-ク-a

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 必修10：画像検査、総論VI：画像検査（放射線学）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、MR I、シンチグラフィ、超音波検査について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) MR Iの原理、特徴、適応について説明できる。
- 3) シンチグラフィの原理、特徴、適応について説明できる。
- 4) 超音波検査の原理、特徴、適応について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：MR I、シンチグラフィ、超音波検査について説明できる。

事前準備学修時間：約30分

事後学修項目：MR I、シンチグラフィ、超音波検査の原理、特徴、適応について説明できる。

事後準備学修時間：約60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月04日	4時限	総論-VI-2-ケ-b 総論-VII-7-ア-a 総論-VII-7-イ-a 総論-VII-7-イ-b 総論-VI-2-エ-d 総論-VI-2-オ-a 総論-VI-2-カ-a

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 必修10：画像検査、総論VI：画像検査（放射線学）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、各種造影検査法、画像の鑑別診断（胸部エックス線写真）、放射線治療について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 造影検査（エックス線検査、CT、MR I）の原理、特徴、適応について説明できる。
- 3) 胸部エックス線写真について説明できる。
- 4) 放射線治療の生物学的・物理学的基礎について説明できる。
- 5) 口腔領域の放射線治療について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：造影検査、胸部エックス線写真、放射線治療について説明できる。

事前準備学修時間：約30分

事後学修項目：各種造影検査法の原理、特徴、適応、画像の鑑別診断（胸部エックス線写真）、口腔領域の放射線治療について説明できる。

事後準備学修時間：約60分

講義日 時限 国試出題基準
08月05日 1時限 必修-7-A-b 総論-III-2-A-a 総論-III-2-A-g

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ: 必修14: 先天異常・奇形

授業の一般目標: 病因・病態を理解するために、先天異常及び奇形に関する病理学的知識について学修する。

到達目標SBOs:

- 1) 以下の行動目標とその教授内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいている。
- 2) 先天異常を分類できる。
- 3) 遺伝障害について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目:
・ 遺伝障害
・ 胎児障害
・ 症候群、特に色素沈着を認めるものと腫瘍を随伴するもの
事前学修時間: 30分
事後学修項目:
・ 先天異常・奇形: 確認試験及び解説
事後学修時間: 30分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月05日 2時限 必修-7-A-b 総論-III-2-A-a 総論-III-2-A-g

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ: 先天異常・奇形

授業の一般目標: 必修14: 病因・病態を理解するために、先天異常及び奇形に関する病理学的知識について学修する。

到達目標SBOs:

- 1) 胎児障害について説明できる。
- 2) 奇形の成り立ちについて説明できる。
- 3) 口腔・顎・顔面領域の代表的な先天性疾患の特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目:
・ 遺伝障害
・ 胎児障害
・ 症候群、特に色素沈着を認めるものと腫瘍を随伴するもの
事前学修時間: 30分
事後学修項目:
・ 先天異常・奇形: 確認試験及び解説
事後学修時間: 30分

講義日 時限 国試出題基準
08月05日 3時限 必修-10-キ-b 必修-7-イ-1 必修-10-キ-b

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 必修11：検査の基本（病理学）

授業の一般目標： 歯科医療における検査の基本を理解するために、病理検査（組織診・細胞診）の意義、目的及び方法について学修する。

到達目標SBOs：

- 1)以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2)病理検査の意義・目的について説明できる。
- 3)病理組織診の種類について説明できる。
- 4)病理組織診の方法について説明できる。
- 5)細胞診の種類について説明できる。
- 6)細胞診の方法について説明できる。
- 7)組織診と細胞診の長所・短所について説明できる。
- 8)代表的な口腔粘膜疾患の病理学的特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1)組織診・細胞診検査の意義と目的
・事前学修時間：30分
事後学修項目：
1)病理組織検査について
2)細胞診検査について
・事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月05日 4時限 総論-VII-8-イ-d 必修-8-エ-a

担当者 山根 潤一

テーマ： 総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 治療の基礎を理解するために、薬物に関連する口腔・顎顔面領域の症候に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1)口腔・顎顔面領域に現れる薬物の副作用を列挙し、説明できる。
- 2)薬物投与上の注意について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

・準備学修項目：口腔・顎顔面領域に現れる薬物の副作用について、過去の講義プリント等を参考にする
・準備学修時間：30分
・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理
・事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月05日 5時限 必修-2-イ-d 必修-2-ウ-a 必修-2-ウ-b 総論-VII-8-ウ-g

担当者 山根 潤一

テーマ： 必修2：社会と歯科医療（薬理学），総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 治療の基礎を理解するために、薬物の保管・管理，臨床試験に関する知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 薬物の管理について説明できる。
- 2) 臨床試験について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：薬物の保管・管理，臨床試験
- ・準備学修時間：30分
- ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月06日 1時限 必修-7-イ-a 必修-7-イ-b 必修-7-イ-c

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 必修14：主要な疾患と障害の病因・病態（病理学）

授業の一般目標： 主要な疾患と傷害の病因・病態を理解するために、歯・歯髄・歯周組織疾患の概念及び基本的特徴について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2) 歯の硬組織疾患の病理学的特徴について説明できる。
- 3) 歯髄疾患の病理学的特徴について説明できる。
- 4) 根尖歯周組織疾患の病理学的特徴について説明できる。
- 5) 歯周病の病理学的特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：
1) 歯と歯周組織の構造、炎症の経過と創傷治癒過程
・事前学修時間：30分
- 事後学修項目：
1) 歯の実質欠損の病理学的特徴
2) 歯髄疾患の病理学的特徴
3) 根尖性歯周疾患の病理学的特徴
4) 辺縁性歯周疾患の病理学的特徴
・事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月06日 2時限 必修-7-イ-k 総論-III-2-ア-e

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 必修14：主要な疾患と障害の病因・病態（病理学）

授業の一般目標： 主要な疾患と障害の病因・病態を理解するために、顎骨の炎症性疾患及び腫瘍類似疾患の病理学的特徴について学修する。

到達目標SBOs：

- 1)以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2)骨髄炎の病理学的特徴について説明できる。
- 3)顎骨に生じる腫瘍・腫瘍類似病変の病理学的特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1)顎骨の構造、炎症の経過と創傷治癒過程
・事前学修時間：30分
事後学修項目：
1)骨髄炎の病理学的特徴
2)顎骨の非腫瘍性疾患・腫瘍類似疾患の病理学的特徴
・事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月06日 3時限 必修-7-イ-j 必修-7-イ-i 総論-III-2-ア-e

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 総論VI：病因、病態（病理学）

授業の一般目標： 病因、病態を理解するために、歯原性腫瘍と嚢胞の病理学的特徴について学修する。

到達目標SBOs：

- 1)以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2)歯原性腫瘍を病理組織学的に分類できる。
- 3)上皮性歯原性腫瘍の病理学的特徴について説明できる。
- 4)混合性歯原性腫瘍の病理学的特徴について説明できる。
- 5)非上皮性歯原性腫瘍の病理学的特徴について説明できる。
- 6)嚢胞の病理学的特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1)歯原性腫瘍の組織学的分類
2)嚢胞の組織学的分類
・事前学修時間：30分
事後学修項目：
1)歯原性腫瘍の分類
2)歯原性腫瘍の病理学的特徴
3)嚢胞の病理学的特徴
・事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月06日 4時限 総論-VII-8-A-b

担当者 三枝 禎

テーマ： 総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 歯科医師として知っておくべき薬物療法の基礎を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 薬物療法の種類とその特徴について説明できる。
- 2) 薬効に影響を及ぼす因子を列挙できる。
- 3) 薬物の作用部位・作用機序について説明できる。
- 4) 薬物の用量と生体反応について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：薬物療法・薬理作用
- ・事前学修時間：60分
- ・事後学修項目：演習問題に関連する知識（薬物療法の種類，薬効に影響を及ぼす因子，薬物の用量と生体反応について）を身につける。
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月06日 5時限 総論-VII-8-A-a

担当者 三枝 禎

テーマ： 総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 歯科医師として知っておくべき薬物療法の基礎を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 薬物の連用が起こす生体现象とその発現機構を説明できる。
- 2) 代表的な薬物の副作用・有害作用，薬物相互作用を挙げられる。
- 3) 代表的な鎮痛薬を挙げ，その作用機序を説明できる。
- 4) 代表的な抗炎症薬を挙げ，その作用機序を説明できる。
- 5) 薬物の保管・管理の留意点を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：薬物療法・薬理作用
- ・事前学修時間：60分
- ・事後学修項目：演習問題に関連する知識（薬理作用の機序，副作用・有害作用，薬物相互作用，鎮痛薬，抗炎症薬について）を身につける。
- ・事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月07日 1時限 総論-I-3-ア-a

担当者 福井 謙二

テーマ： 総論 I 保健医療論（歯科法医学）

授業の一般目標： 歯科法医学を理解するために、わが国における死体解剖、死因究明制度及び死後変化について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) わが国における死体解剖について根拠となる法律とその目的について説明できる。
- 2) 死因究明に関する 2 法における歯科医師の在り方を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1) 死体解剖の制度
・事前学修時間：30分
事後学修項目：
1) わが国の死体解剖に関する法規・目的
2) 死因究明に関する法規と歯科医の在り方
・事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月07日 2時限 総論-I-3-ア-b 総論-I-3-ア-c

担当者 福井 謙二

テーマ： 総論 I 保健医療論（歯科法医学）

授業の一般目標： 歯科法医学を理解するために、死体に発現する全ての変化である死後変化（死体現象）および歯科法医学的な個人識別、身元確認について学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 死体現象の法医学的意義について説明できる。
- 2) 早期死体現象について説明できる。
- 3) 晩期死体現象について説明できる。
- 4) 特殊死体現象について説明できる。
- 5) 死体の損壊について説明できる。
- 6) 身元不明死体の個人識別について説明できる。
- 7) 個人識別を目的としたデンタルチャートについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1) 死体現象の概要
・事前学修時間：30分
事後学修項目：
1) 死体現象の法医学的意義について
2) 早期死体現象について
3) 晩期死体現象について
4) 特殊死体現象について
5) 死体の損壊について
6) 身元不明死体の個人識別について
7) 個人識別を目的としたデンタルチャートについて
・事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月07日 3時限 必修-7-イ-j 総論-III-2-ア-f

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 総論VI：病因・病態（病理学）

授業の一般目標： 病因・病態を理解するために、唾液腺腫瘍の病理学的特徴について説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2) 唾液腺腫瘍を病理組織学的に分類できる。
- 3) 良性唾液腺腫瘍の病理学的特徴を説明できる。
- 4) 悪性唾液腺腫瘍の病理学的特徴を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1) 唾液腺腫瘍の病理組織分類
・事前学修時間：30分
事後学修項目：
1) 唾液腺腫瘍の分類
2) 唾液腺腫瘍の病理学的特徴
・事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月07日 4時限 総論-VII-8-イ-e 総論-VII-8-ア-c 総論-VII-8-イ-a 総論-VII-8-イ-c 総論-VII-8-イ-d 総論-VII-8-ウ-c 総論-VII-8-ウ-d

担当者 松本 裕子

テーマ： 総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 薬物療法を理解するために、薬物投与上の注意に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 禁忌、小児・妊婦・高齢者の適用上の注意を列挙し、説明できる。
- 2) 薬力学的相互作用を説明できる。
- 3) 薬物動態学的相互作用を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

・事前学修項目：「薬物適用上の注意」「薬物相互作用」に関連する歯科医師国家試験過去問を解き、何が理解できていないか確認する。
・事前学修時間：30分
・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。
・事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
08月07日	5時限	総論-VII-8-ア-b 総論-VII-8-ウ-a 総論-VII-8-ウ-b 総論-VII-8-ウ-e 総論-VII-8-ウ-f

担当者 松本 裕子

テーマ： 総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 薬物療法を理解するために、臨床上繁用される薬物に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 循環器系に作用する薬物を列挙し、その特徴を説明できる。
- 2) 呼吸器系に作用する薬物を列挙し、その特徴を説明できる。
- 3) 全身疾患を有する患者の適用上の注意を列挙し、説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：課題別講義時に配布した講義プリント（薬物の作用部位・作用機序）を復習する。
- ・事前学修時間：30分
- ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月08日	1時限	総論-I-8-ア-a 総論-I-8-ア-b

担当者 田口 千恵子

テーマ： 必修 保健・医療と健康増進：国民栄養と食生活・食育指導

授業の一般目標： 健康管理・増進とその予防のために栄養と食品保健を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 国民栄養の現状について説明できる。
- 2) 食事摂取基準について説明できる。
- 3) 食育について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：国民健康栄養調査結果、食事摂取基準
- 事前学修時間：60分
- 事後学修項目：国民健康栄養調査結果、食事摂取基準
- 事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月08日 2時限 総論-I-8-イ-a 総論-I-8-ア-c 総論-I-8-イ-b 総論-I-8-イ-c

担当者 田口 千恵子

テーマ： 必修 保健・医療と健康増進：国民栄養と食生活・食育指導

授業の一般目標： 健康管理・増進とその予防のために栄養と食品保健を学ぶ。

到達目標SB0s：

- 1) 食育について説明できる。
- 2) 食生活指針について説明できる。
- 3) 食の安全性と機能性について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：食生活指針、食育基本法
事前学修時間：60分
事後学修項目：食生活指針、食育基本法
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月08日 3時限 総論-I-6-ア-g 総論-I-6-イ-a 総論-I-6-ウ-a 総論-I-6-ウ-b 総論-I-6-ウ-c

担当者 田口 千恵子

テーマ： 総論I：健康管理・増進と予防（衛生学）

授業の一般目標： 適切な健康管理を行うために、歯科疾患の疫学状況について理解する。

到達目標SB0s：

- 1) 歯科疾患実態調査について説明できる。
- 2) 齲蝕の疫学について説明できる。
- 3) 歯周疾患の疫学について説明できる。
- 4) 不正咬合の疫学について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書を確認する。
事前学修時間：60分
事後学修項目：講義で配布した資料を整理・復習する。
事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月17日 1時限 必修-10-ウ-a 総論-VI-3-ア-b 各論-III-4-サ

担当者 * 淵上 真奈

テーマ： 必修10：検査・臨床診断の基本（臨床検査学）

授業の一般目標： 有病者の歯科治療を安全に行うために、臨床検査について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。
- 2) 臨床検査の種類を説明することができる。
- 3) 臨床検査の内容を説明することができる。
- 4) 多血症を説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：4年次で学修した内容を説明できる。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：検査の基本について説明できる。
事後学修時間：約60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月17日 2時限 必修-8-イ-a 必修-8-イ-f 必修-8-イ-g 必修-8-イ-h 必修-8-イ-j
必修-8-イ-k

担当者 * 西村 均

テーマ： 必修8：主要な症候（口腔外科）

授業の一般目標： 顎口腔領域にあらわれる主要な症候を説明できるようにするために学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全身疾患に関連して生じる口腔の症候を説明できる。
- 3) 口腔粘膜にあらわれる症候を説明できる。
- 4) 顎骨にあらわれる症候を説明できる。
- 5) 顎関節に生じる症候を説明できる。
- 6) 顔面・リンパ節に生じる症候を説明できる。
- 7) 唾液腺にあらわれる症候を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・ 準備学修項目：4年次口腔顎顔面外科学、全般
- ・ 準備学修時間：60分
- ・ 事後学習項目：口腔の主要症候についての授業プリント、国家試験問題の確認する。
- ・ 事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
08月17日 3時限 総論-I-6-A-a 必修-10-K-d

担当者 *五十嵐 憲太郎、*有川 量崇

テーマ: 必修10: 臨床疫学的指標、総論 I : 保健・医療と健康増進、疫学と調査 (衛生学)

授業の一般目標: 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化を分析するために必要な疫学と調査の知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」
- 2) 疫学の概念について説明できる。
- 3) 疫学指標について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: SB0sについて3年次～5年次で学習した医療統計学および疫学の資料の復習。
- ・事前学修時間: 30 分。
- ・事後学修項目: 授業で配布した資料の復習。
- ・事後学修時間: 60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月17日 4時限 総論-I-6-A-d 総論-I-6-A-e 総論-I-6-A-f 総論-I-6-A-g

担当者 *五十嵐 憲太郎、*有川 量崇

テーマ: 必修10: 臨床疫学的指標、総論 I : 保健・医療と健康増進、疫学と調査 (衛生学)

授業の一般目標: 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化を分析するために必要な疫学と調査の知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」
- 2) 観察研究、介入研究、臨床疫学について説明できる。
- 3) 因果関係の成立について説明できる。
- 4) 臨床疫学的指標(アウトカム、リスク比、オッズ比) について説明できる。
- 5) 歯科集団検診について理解できる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: 3年次～5年次で学習した医療統計学および疫学の資料の復習。
- ・事前学修時間: 30 分。
- ・事後学修項目: 授業で配布した資料の復習。
- ・事後学修時間: 60分。

講義日 時限 国試出題基準
08月17日 5時限 総論-I-6-A-c 総論-I-6-I-a

担当者 *五十嵐 憲太郎、*有川 量崇

テーマ： 必修10：臨床疫学的指標、総論 I：保健・医療と健康増進、疫学と調査（衛生学）

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化を分析するために必要な疫学と調査の知識を修得する。

到達目標 S B O s：

- 1) 「臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。」
- 2) 統計解析について説明できる。
- 3) 歯科領域における統計指標について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：3年次～5年次で学習した医療統計学および疫学の資料の復習。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料の復習。
- ・事後学修時間：60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月18日 1時限 必修-2-A-a 必修-2-A-b 必修-2-A-c 必修-2-A-d 必修-2-A-e
必修-2-A-f 必修-2-A-g

担当者 *五十嵐 憲太郎、*有川 量崇

テーマ： 必修2：社会と歯科医療、総論 I：保健の保持・増進と社会保障の仕組み（衛生学）

授業の一般目標： 歯科医師として必要な法・制度を学び、医療人として社会における役割と責任について理解し、修得することができる。

到達目標 S B O s：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 患者・障害者のもつ心理社会的問題と背景を説明できる。
- 3) 疾病・障害の概念・構造を説明できる。
- 4) 国際生活機能分類（ICF）を理解できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。
- 事前学修時間：30分
- 事後学修項目：講義で配布したプリントの内容を整理・復習する。
- 事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
08月18日	2時限	総論-I-1-オ-a 総論-I-1-オ-b 総論-I-1-オ-c

担当者 *五十嵐 憲太郎、*有川 量崇

テーマ： 必修2：社会と歯科医療、総論I：保健の保持・増進と社会保障の仕組み（衛生学）

授業の一般目標： 歯科医師として必要な法・制度を学び、医療人として社会における役割と責任について理解し、修得することができる。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する
- 2) 介護予防、生活支援について説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムについて説明できる。
- 4) 高齢者歯科保健の動向について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。
事前学修時間：30分
事後学修項目：講義で配布したプリントの内容を整理・復習する。
事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
08月18日	3時限	必修-2-オ-d

担当者 *山口 秀紀

テーマ： 必修2：社会と歯科医療（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 安全で適切な診療を行うために、医療事故の防止について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」
- 2) 患者の安全管理について説明することができる。
- 3) 医療者の安全管理について説明することができる。
- 4) ヒヤリハットについて説明することができる。
- 5) アクシデント・インシデントレポートについて説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「17. 医療安全管理」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

講義日 時限 国試出題基準
08月18日 4時限 必修-1 2-ス-b

担当者 *山口 秀紀

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（歯科麻酔学）

授業の一般目標：安全で快適な診療を行うために、注意すべき腎疾患および内分泌疾患について理解する。

到達目標SBOs：

- 1)「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」
- 2)腎機能低下について説明することができる。
- 3)糖尿病の病態について説明することができる。
- 4)糖尿病治療薬内服患者の注意点について説明することができる。
- 5)糖尿病の合併症とその対応について説明することができる。
- 6)腎機能低下について説明することができる。
- 7)腎機能低下患者の与薬時の注意点について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「4. 管理上問題となる疾患」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月18日 5時限 必修-1 2-ス-b

担当者 *山口 秀紀

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（歯科麻酔学）

授業の一般目標：全身疾患（精神・心身医学的疾患）患者および妊婦に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標SBOs：

- 1)臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2)うつについて説明することができる。
- 3)うつ患者の歯科治療上の注意点について説明することができる。
- 4)歯科治療にあたり注意すべき精神疾患について説明することができる。
- 5)妊婦の身体的特徴について説明することができる。
- 6)妊婦の体位管理について説明することができる。
- 7)妊婦への与薬時の注意点について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「4. 管理上問題となる疾患」について学修しておく。
- 事前学修時間：30分。
- 後学修項目：講義で配布した資料および講義中記載した内容。
- 事後学修時間：60分。

講義日	時限	国試出題基準
08月19日	1時限	必修-12-ケ-a 必修-12-キ-b 必修-12-キ-c 必修-12-ク-a

担当者 *西村 均

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（口腔外科）

授業の一般目標： 安全な歯科治療を行なうために、必要な診療のための基本的知識、技能、診査や検査の解釈を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 膿瘍の処置を説明できる。
- 3) 膿瘍切開の手順を説明できる。
- 4) 膿瘍切開の目的を説明できる。
- 5) 治療の基礎・基本手技を説明できる。
- 6) 抜歯の術式を説明できる。
- 7) 抜歯の偶発症を説明できる。
- 8) 抜歯に必要な器具を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：4年次口腔顎顔面外科学、手術について
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学習項目：授業プリント、国家試験問題の確認する。
- ・事後学習時間：90分

準備学修項目：4年次口腔顎顔面外科学、手術について
準備学修時間：3時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月19日	2時限	総論-VII-4-I-b

担当者 *西村 均

テーマ： 総論VII 治療（口腔外科）

授業の一般目標： 顎口腔領域に関連する周術期の管理について説明できるよう学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全身管理に留意する疾患を説明できる。
- 3) 周術期の管理を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：顎口腔領域治療に関連する周全身疾患について説明できる。
- 事前学修時間：30分
- 事後学習項目：教科書での復習および国家試験問題
- 事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
08月19日	3時限	必修-1 1-A-c

担当者 *石橋 肇

テーマ: 必修11: 初期救急 (歯科麻酔学)

授業の一般目標: 歯科治療中に発生した心肺停止状態に対応できるようになるために、救急蘇生法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」
- 2) 意識障害について説明することができる。
- 3) 意識障害の評価について説明することができる。
- 4) 一次救命処置 (BLS) について説明することができる。
- 5) 除細動とその適応について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「16. 救急救命処置」について学修しておく。
- ・事前学修時間: 30 分。
- ・事後学修項目: 授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間: 60分。

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月19日	4時限	必修-1 1-I-b

担当者 *石橋 肇

テーマ: 必修11: 初期救急 (歯科麻酔学)

授業の一般目標: 歯科治療中に発生した心肺停止に対応できるようになるために、救急蘇生法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」
- 2) 二次救命処置 (ALS) について説明することができる。
- 3) ALS時の薬物投与経路について説明することができる。
- 4) ALS時に使用する薬物について説明することができる。
- 5) 高度な気道確保について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「16. 救急救命処置」について学修しておく。
- ・事前学修時間: 30 分。
- ・事後学修項目: 授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間: 60分。

講義日 時限 国試出題基準
08月19日 5時限 総論-VI-4-A-a 総論-VII-1-E-b

担当者 *鈴木 正敏

テーマ： 総論VI・4：生体機能検査；呼吸機能検査（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 生体機能検査のうち呼吸機能検査について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づいて以下を教授する。
- 2) 呼吸機能検査について説明できる。
- 3) 換気障害の分類について説明できる。
- 4) 閉塞性換気障害の病態について説明できる。
- 5) 拘束性換気障害の病態について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「p25~26、p75~78、」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月20日 1時限 総論-V-6-A-a 総論-VII-4-I-b 総論-VII-4-I-c 総論-VII-4-I-f

担当者 *鈴木 正敏

テーマ： 総論IV・4：全身管理に留意すべき呼吸器疾患（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 安全に歯科治療を行うために、注意すべき呼吸器疾患について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 呼吸器疾患患者に対する術前の評価法について説明することができる。
- 3) 歯科治療時に注意すべき呼吸器疾患について挙げ、注意点を説明することができる。
- 4) 周術期に留意すべき呼吸器疾患と周術期管理について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「管理上問題となる疾患」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

講義日 時限 国試出題基準
08月20日 2時限 総論-VII-4-U-a

担当者 *下坂 典立

テーマ: 「総論VII:4.手術・周術期の管理、麻酔」 (歯科麻酔学)

授業の一般目標: 安全で快適な歯科治療を行うために、局所麻酔薬および添加される血管収縮薬の種類、特徴について理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき医科の内容を教授する。
- 2) 局所麻酔薬の作用機序について説明することができる。
- 3) 血管収縮薬の作用機序について説明することができる。
- 4) 局所麻酔薬の種類について説明することができる。
- 5) 血管収縮薬の種類について説明することができる。
- 6) 局所麻酔薬の抗不整脈作用について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「13.局所麻酔法」について学修しておく。
- ・事前学修時間: 30分。
- ・事後学修項目: 授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間: 60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月20日 3時限 総論-VII-4-U-a 各論-III-4-S-a

担当者 *下坂 典立

テーマ: 「総論VII:4.手術・周術期の管理、麻酔」、「各論III:4.S・歯科における全身的偶発症とその対応」
(歯科麻酔学)

授業の一般目標: 安全で快適な歯科治療を行うために、全身的偶発症、特に局所麻酔施行時に発症しやすい偶発症とその対応、予防について理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 局所麻酔薬(リドカイン)中毒について説明することができる。
- 3) 血管迷走神経反射の発症機序について説明することができる。
- 4) 血管迷走神経発症時の対応について説明することができる。
- 5) メトヘモグロビン血症の発症機序について説明することができる。
- 6) メトヘモグロビン血症発症時の対応について説明することができる。
- 7) アドレナリン過敏症の発症機序について説明することができる。
- 8) アドレナリン過敏症発症時の対応について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「15.歯科治療における全身的偶発症」について学修しておく。
- ・事前学修時間: 30分。
- ・事後学修項目: 授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間: 60分。

講義日 時限 国試出題基準
08月20日 4時限 総論-VII-4-U-b

担当者 *下坂 典立

テーマ： 総論VII：治療（歯科麻酔学）、全身麻酔—その1—

授業の一般目標： 安全に歯科治療を行うために、全身麻酔の実際、特に術前の診察内容および気道管理評価について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全身麻酔の概念について説明することができる。
- 3) 全身麻酔施行前の診察内容について説明することができる。
- 4) 全身麻酔施行前の診察、特に全身状態の評価について説明することができる。
- 5) 全身麻酔施行前の診察、特に気道管理評価について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「5. 全身麻酔法」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

講義日 時限 国試出題基準
08月20日 5時限 総論-VII-4-U-b

担当者 *下坂 典立

テーマ： 総論VII：治療（歯科麻酔学）、全身麻酔—その2—

授業の一般目標： 安全で適切な患者管理を行うために、全身麻酔法の実際、特に導入方法および気管挿管について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全身麻酔の導入について説明することができる。
- 3) 急速導入について説明することができる。
- 4) 緩徐導入について説明することができる。
- 5) 導入で使用する薬物について説明することができる。
- 6) 末梢性筋弛緩薬の使用理由について説明することができる。
- 7) 呼吸管理について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「5. 全身麻酔法」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

講義日 時限 国試出題基準
08月21日 1時限 総論-VII-4-U-b

担当者 *下坂 典立

テーマ: 総論VII:治療(歯科麻酔学)、全身麻酔-その3-

授業の一般目標: 安全で適切な患者管理を行うために、全身麻酔法の実際、特に気管挿管とその方法について説明することができる。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 気管挿管について説明することができる。
- 3) 声門上器具について説明することができる。
- 4) 挿管困難患者の挿管方法について説明することができる。
- 5) 全身麻酔管理の維持方法について説明することができる。
- 6) 維持で使用する薬物について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目:スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「5.全身麻酔法」について学修しておく。
- ・事前学修時間:30分。
- ・事後学修項目:授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間:60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月21日 2時限 総論-VII-4-U-b

担当者 *下坂 典立

テーマ: 総論VII:治療(歯科麻酔学)、全身麻酔-その4-

授業の一般目標: 安全で快適な患者管理を行うために、全身麻酔法の実際、特に覚醒方法と全身麻酔合併症、そして体液管理について理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全身麻酔の覚醒方法について説明することができる。
- 3) 覚醒時に使用する薬物について説明することができる。
- 4) 悪性高熱症について説明することができる。
- 5) 全身麻酔中の体液管理について説明することができる。
- 6) 輸血について説明することができる。
- 7) 日帰り全身麻酔について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目:スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「5.全身麻酔法」について学修しておく。
- ・事前学修時間:30分。
- ・事後学修項目:授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間:60分。

講義日	時限	国試出題基準
08月21日	3時限	総論-VII-4-U-d

担当者 *下坂 典立

テーマ：総論VII：治療（歯科麻酔学）、精神鎮静法（笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法）。

授業の一般目標：安全で快適な患者管理を行うために、精神鎮静法の実際について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。
- 2) 精神鎮静法の概念について説明することができる。
- 3) 笑気吸入鎮静法について説明することができる。
- 4) 笑気（亜酸化窒素）について説明することができる。
- 5) 静脈内鎮静法について説明することができる。
- 6) 静脈内鎮静法で使用する薬物について説明することができる。
- 7) 静脈内鎮静法時の呼吸抑制について、その原因と対応について説明することができる。
- 8) 静脈麻酔について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「12. 精神鎮静法」について学修しておく。

事前学修時間：30分。

事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。

事後学修時間：60分。

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	1時限	各論-II-3-A-b 各論-II-3-A-a 各論-II-3-A-c 各論-II-3-A-d 各論-II-3-A-e 各論-II-3-A-f 各論-II-3-A-g 各論-II-3-A-h

担当者 *高井 英樹

テーマ：各論II：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯周治療学）

授業の一般目標：歯周病を治療するために、歯周病の原因、リスクファクター、宿主因子、全身疾患との関わりおよびその特徴と病態を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯周病のリスクファクターを列挙することができる。
- 3) 歯周病の宿主因子について説明することができる。
- 4) 歯周病の環境因子について説明することができる。
- 5) 歯周病の増悪因子について説明することができる。
- 6) 歯周病の病態について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯周病の原因、リスクファクター、宿主因子、全身疾患との関わりおよびその特徴と病態を予習する。

準備学修時間：1時間

事後学修項目：授業時配布プリントの復習

事後学修時：1時間

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	2時限	各論-Ⅱ-3-ウ-b 各論-Ⅱ-3-イ-d 各論-Ⅱ-3-イ-e 各論-Ⅱ-3-ウ-a 各論-Ⅱ-3-ウ-c 各論-Ⅱ-3-ウ-d 各論-Ⅱ-3-ウ-e 各論-Ⅱ-3-ウ-f

担当者 *高井 英樹

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯周治療学）

授業の一般目標： 歯周病を治療するために、歯周基本治療で行う項目の内容を理解し、歯周外科治療が必要な場合は、その適応と術式を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯周基本治療で行う項目を列挙できる。
- 3) 歯周基本治療で行う内容について説明できる。
- 4) 歯周外科治療の種類と適応症について説明できる。
- 5) 歯周外科の術式と使用器具について説明できる。
- 6) 歯周組織再生療法について説明できる。
- 7) 再評価検査の時期と目的を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯周治療の流れ、歯周基本治療および外科治療を予習する。

準備学修時間：1時間

事後学習項目：授業時配布プリントの復習

事後学習時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	3時限	各論-Ⅱ-3-ウ-j 各論-Ⅱ-3-オ

担当者 *高井 英樹

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯周治療学）

授業の一般目標： 特殊な歯周病、高齢者および全身疾患を有する患者の歯周治療について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 特殊な歯周病の治療について説明できる。
- 3) 全身疾患を有する患者の歯周治療の注意点について説明できる。
- 4) 高齢者の歯周治療について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：特殊な歯周病、高齢者および全身疾患を有する患者の歯周治療を予習する。

準備学修時間：1時間

事後学習項目：授業時配布プリントの復習

事後学習時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	4時限	各論-II-1-イ-b 各論-II-1-イ-c 各論-II-1-イ-d 各論-II-1-イ-g 各論-II-3-イ-c

担当者 田口 千恵子

テーマ： 各論II：歯・歯髄・歯周組織の疾患（衛生学）

授業の一般目標： 健康保持・増進のための歯の硬組織疾患、歯周疾患の予防・管理に関する指標の知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 齲蝕の予防効果の評価
- 2) 初期齲蝕の診断
- 3) 歯の変色・着色予防
- 4) 歯周疾患の予防効果の評価

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：歯の硬組織疾患、歯周疾患の予防・管理について
事前学修時間：60分
事後学修項目：歯の硬組織疾患、歯周疾患の予防・管理について
事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月26日	5時限	各論-V-4-ア-a 各論-II-3-イ-e 各論-II-3-イ-f 各論-V-4-イ-a 各論-V-4-イ-b 各論-V-6-イ 各論-V-6-ウ 各論-V-6-エ

担当者 田口 千恵子

テーマ： 各論II：歯・歯髄・歯周組織の疾患（衛生学）

授業の一般目標： 健康管理・増進とその予防のために各ライフステージにおける歯の硬組織疾患、歯周疾患、口腔機能に関する指導について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 摂食機能療法について説明できる。
- 2) 禁煙指導・支援について説明できる。
- 3) 口腔機能評価について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：各ライフステージにおける齲蝕・歯周疾患・口腔機能の問題点について
事前学修時間：60分
事後学修項目：各ライフステージにおける齲蝕・歯周疾患・口腔機能の問題点について
事前学修時間：60分
事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	1時限	各論-Ⅱ-2-ア-a 各論-Ⅱ-2-ア-b 各論-Ⅱ-2-ア-c 各論-Ⅱ-2-ア-d 各論-Ⅱ-2-ア-e 各論-Ⅱ-2-ア-f

担当者 *神尾 直人

テーマ: 各論Ⅱ: 歯・歯髄・歯周組織の疾患(歯内療法学) 病因・病態・症候

授業の一般目標: 歯髄・根尖歯周組織疾患を適切に診断・治療できるようになるために、歯髄・根尖歯周疾患の原因・病態・症候を習得する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯髄・根尖歯周疾患の症候の変化を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周疾患の主訴を説明できる。
- 4) 歯髄・根尖歯周疾患の検査の意図を説明できる。
- 5) 歯髄・根尖歯周疾患の検査を選択できる。
- 6) 歯髄・根尖歯周疾患の診断プロセスを説明できる。
- 7) 歯髄・根尖歯周疾患の処置方針を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

準備学修項目 歯内療法全般
1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	2時限	各論-Ⅱ-2-イ-c 各論-Ⅱ-2-ア-a 各論-Ⅱ-2-ア-b 各論-Ⅱ-2-ア-c 各論-Ⅱ-2-ア-d 各論-Ⅱ-2-イ-a 各論-Ⅱ-2-イ-b 各論-Ⅱ-2-イ-c

担当者 *神尾 直人

テーマ: 各論Ⅱ: 歯・歯髄・歯周組織の疾患(歯内療法学) 検査・治療・外傷歯の処置

授業の一般目標: 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯内療法の原則、処置法、用いる器具・材料、高齢者に対する配慮、外傷歯の病態と治療について理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯内療法の治療の原則を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖性歯周疾患の処置を選択できる。
- 4) 歯内療法の器具、材料を選択できる。
- 5) 歯内療法における高齢者に対する配慮を説明できる。
- 6) 外傷歯の病態と治療を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

準備学習項目: 歯内療法全般
準備学習時間: 1時間

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	3時限	各論-Ⅱ-2-イ-c 各論-Ⅱ-2-ア-c 各論-Ⅱ-2-ア-e 各論-Ⅱ-2-イ-g 各論-Ⅱ-2-イ-d 各論-Ⅱ-2-イ-f 各論-Ⅱ-2-イ-j

担当者 *神尾 直人

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯内療法学）根未完成歯・歯内歯周疾患・外科的歯内療法

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患の適切な治療をするために、根未完成歯の歯内療法、再根管治療、歯内歯周疾患、外科的歯内療法、歯内療法処置の偶発症とその予防、顕微鏡を用いた歯内療法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 根未完成歯の歯内療法を説明できる。
- 3) 再根管治療を説明できる。
- 4) 歯内歯周疾患の治療を説明できる。
- 5) 内部吸収・外部吸収の治療を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：歯内療法全般

準備学習時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	4時限	各論-Ⅱ-2-イ-c 各論-Ⅱ-2-ア-c 各論-Ⅱ-2-ア-e 各論-Ⅱ-2-イ-g 各論-Ⅱ-2-イ-d 各論-Ⅱ-2-イ-f 各論-Ⅱ-2-イ-j

担当者 *神尾 直人

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯内療法学）偶発症・顕微鏡による治療

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患の適切な治療をするために、根未完成歯の歯内療法、再根管治療、歯内歯周疾患、外科的歯内療法、歯内療法処置の偶発症とその予防、顕微鏡を用いた歯内療法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 内部吸収・外部吸収の治療を説明できる。
- 3) 外科的歯内療法を説明できる。
- 4) 歯内療法処置の偶発症とその予防を説明できる。
- 5) 顕微鏡を用いた歯内療法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：歯内療法全般

準備学習時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
08月27日	5時限	各論-I-1-エ-a 各論-I-1-イ-a 各論-I-1-イ-b 各論-I-1-イ-g 各論-I-1-ウ-a 各論-I-1-ウ-b 各論-I-1-ウ-c 各論-I-1-ウ-d

担当者 *梅澤 幸司

テーマ： 各論 I：成長発育に関連した疾患・病態（障害者歯科学）

授業の一般目標： 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常を理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 各症候群の特徴を述べられる。
- 3) 口腔・顎・顔面に異常を来す症候群について述べられる。
- 4) 症候群と口腔の特徴について述べられる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事前学習時間	60分	
事後学修項目	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第2版	該当項目について熟読する。
事後学習時間	60分	

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月28日	1時限	各論-II-1-ア-a 各論-II-1-ア-b 各論-II-1-ア-c 各論-II-1-オ-a 各論-II-1-オ-b

担当者 *平山 聡司

テーマ： 各論 III 歯・歯髄・歯周疾患（保存修復学）：齲蝕とTooth wear（歯の損耗）

授業の一般目標： 齲蝕やTooth wearにより生じた歯の硬組織欠損に対して適切な処置が行えるようになるために、その原因と診断および対処法について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) エナメル質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 3) 象牙質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 4) セメント質齲蝕の特徴と進行について説明できる。
- 5) 齲蝕の除去に必要な器具とその術式について説明できる。
- 6) 脱灰歯質の再石灰化について説明できる。
- 7) 齲蝕のリスクファクターについて説明できる。
- 8) Tooth wear（歯の損耗）による歯の硬組織疾患の種類とその特徴について説明できる。
- 9) 高齢者の齲蝕の特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目	エナメル質、象牙質、セメント質の組成と構造について学修しておく。
準備学修時間	30分
事後学修項目	講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間	60分

講義日 時限 国試出題基準
08月28日 2時限 各論-Ⅱ-1-ア-d 各論-Ⅱ-1-ア-e 各論-Ⅱ-1-ア-f 各論-Ⅱ-1-ウ-g

担当者 *平山 聡司

テーマ： 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患（保存修復学）：齲歯の変色・着色、歯の亀裂・破折、脱臼、象牙質知覚過敏症

授業の一般目標： 歯冠破折や変色および象牙質知覚過敏症が生じた歯に対して適切な処置が行えるようになるために、その原因と診断および対処法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯の破折の検査法と診断について説明できる。
- 3) 歯の変色・着色の原因について説明できる。
- 4) 歯の変色・着色に対する処置方針とその術式について説明できる。
- 5) 象牙質知覚過敏症の臨床的特徴とその処置方針について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯の着色・変色、亀裂・破折、象牙質知覚過敏症の主たる症状について学修しておく。

準備学修時間：30分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月28日 3時限 各論-Ⅱ-1-ウ-b 各論-Ⅱ-1-ウ-d 各論-Ⅱ-1-ウ-f

担当者 *平山 聡司

テーマ： 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周疾患（保存修復学）：MI Dentistryと接着修復

授業の一般目標： 歯の欠損に対して適切な接着修復を行うために、Minimal Intervention (MI) Dentistryに基づいた窩洞形成法、歯質接着メカニズムおよび接着操作について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) MI Dentistryについて説明できる。
- 3) コンポジットレジン修復法の特徴と適応症について説明できる。
- 4) コンポジットレジン修復における歯質接着性について説明できる。
- 5) 接着修復法の臨床術式と操作上の要点について説明できる。
- 6) 重合収縮応力の発生とその緩和方法について説明できる。
- 7) 補修修復に必要な処理材とその術式について説明できる。
- 8) コンポジットレジン修復後の保全について説明できる。
- 9) グラスアイオノマーセメント修復の特徴と適応症について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：課題別臨床実習Ⅱで配布した講義資料を確認しておくこと。

準備学修時間：30分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
08月28日 4時限 各論-Ⅱ-1-ウ-c 各論-Ⅱ-1-ウ-d 各論-Ⅱ-1-ウ-e

担当者 *平山 聡司

テーマ： 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周疾患（保存修復学）：間接修復法

授業の一般目標： 実質欠損が生じた歯の機能を回復するために、間接修復法に関する適応症、窩洞の具備条件、印象採得、インレー体の作製および装着法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 各種間接修復法の特徴と適応症について説明できる。
- 3) メタルインレー修復とセラミックインレー修復窩洞の特徴について説明できる。
- 4) レジンコーティング法の目的とその術式について説明できる。
- 5) 窩洞形成後の印象採得と仮封について説明できる。
- 6) セラミックインレー体の作製方法とその特徴について説明できる。
- 7) インレー体装着時のインレー体内面処理について説明できる。
- 8) 歯科用セメントの種類とその特徴について説明できる。
- 9) 間接修復法の予後とその対処法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：間接修復法の窩洞の違いについて理解しておく。

準備学修時間：30分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
08月28日 5時限 各論-Ⅱ-1-イ-f 各論-Ⅱ-1-イ-e 各論-Ⅱ-3-イ-f 各論-V-4-ア-a

担当者 田口 千恵子

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（衛生学）

授業の一般目標： 歯科疾患の予防管理のために用いられる口腔清掃方法、口腔ケアについて理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 口腔清掃方法について説明できる。
- 2) 歯磨き剤について説明できる。
- 3) 口腔ケアについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：歯科疾患の予防管理のための口腔清掃方法、口腔ケア

事前学修時間：60分

事後学修項目：歯科疾患の予防管理のための口腔清掃方法、口腔ケア

事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
08月29日	1時限	各論-I-6-エ 各論-I-1-ア-b 各論-I-6-イ 各論-I-6-ウ 各論-I-7-ウ

担当者 *根岸 慎一

テーマ: 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 (歯科矯正学)

授業の一般目標: 適切な矯正治療を実践するために必要な不正咬合の病態および原因について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 不正咬合の先天的原因について説明できる。
- 3) 不正咬合の後天的 (環境的) 原因について説明できる。
- 4) Angle I級、II級、III級不正咬合の特徴を説明できる。
- 5) 顎顔面頭蓋に変形を生じる先天異常とその特徴を列挙できる。

準備学修項目と準備学修時間:

準備学修項目: 不正咬合の原因、不正咬合の分類、形態的検査、機能的検査について理解しておく。

準備学修時間: 60分

事後学修項目: 配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学修時間: 60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月29日	2時限	各論-I-8-エ 各論-I-7-ウ 各論-I-7-エ 各論-I-8-ア 各論-I-8-イ 各論-I-8-ウ

担当者 *根岸 慎一

テーマ: 各論 I : 成長発育に関連した疾患・病態 (歯科矯正学)

授業の一般目標: 適切な矯正治療を実践するために、矯正治療の流れを理解し矯正力と歯の移動について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 矯正治療の流れを説明できる。
- 3) 矯正力の種類とその特徴を説明できる。
- 4) 固定について説明できる。
- 5) 歯の移動様式と生体反応について説明できる。
- 6) 矯正治療における偶発症を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目 矯正力の種類、作用様式および歯の移動様式、固定の種類について

事前学習時間 60分

事後学修項目 配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習時間 60分

講義日	時限	国試出題基準
08月29日	3時限	各論-I-10-イ 各論-I-9-ア-a 各論-I-9-エ-a 各論-I-9-エ-b 各論-I-9-オ-a 各論-I-9-オ-b 各論-I-9-オ-c 各論-I-9-オ-d

担当者 *石井 かおり

テーマ： 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態（歯科矯正学）

授業の一般目標： 乳歯列期および混合歯列期の治療で用いる矯正装置について学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 乳歯列および混合歯列期の治療に用いる矯正装置について述べるができる。
- 3) 舌側弧線装置の構造および適応症について説明できる。
- 4) ヘッドギア、チンキャップおよび上顎前方牽引装置の使用目的および作用効果について説明できる。
- 5) 床矯正装置の種類および使用目的について説明できる。
- 6) 拡大装置の種類および作用効果について説明できる。
- 7) 矯正治療前後での計測角の変化について述べるができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目： 乳歯列期および混合歯列期の治療で用いる矯正装置について

準備学修項目： (60分)

事後学習項目： 配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習項目： 60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月31日	1時限	各論-II-1-エ-a 各論-II-1-イ-a 各論-II-1-エ-c 各論-II-1-イ-d 各論-II-1-イ-e 各論-II-1-イ-f

担当者 *岡本 京

テーマ： 各論 II 成長発育に関連した疾患・病態（小児歯科学）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の齲蝕と齲蝕予防について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 小児の齲蝕の特徴を説明できる。
- 3) 小児の齲蝕予防について説明できる。
- 4) フッ化物の局所応用について説明できる。
- 5) 小窩裂溝填塞法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目： 実践問題集の齲蝕の項目。

準備学修時間： 30分

事後学習項目： 講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学習時間： 60分

講義日	時限	国試出題基準
08月31日	2時限	各論-Ⅱ-1-ウ-a 各論-Ⅱ-2-ウ-a 各論-Ⅱ-2-ウ-b 各論-Ⅱ-2-ウ-c 各論-Ⅱ-2-ウ-d

担当者 *岡本 京

テーマ： 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患（小児歯科学）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯冠修復および歯内療法について説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 小児の歯冠修復について説明できる。
- 3) 既製金属冠について説明できる。
- 4) 乳歯の歯内療法について説明できる。
- 5) 幼若永久歯の歯内療法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：実践問題集の歯冠修復、歯内療法の項目
準備学修時間：30分
事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
08月31日	3時限	各論-I-4-ウ 各論-I-4-イ 各論-I-4-エ-a 各論-II-3-エ-a 各論-II-3-エ-b 各論-II-2-ウ-b

担当者 *伊藤 龍朗

テーマ： 各論Ⅰ 成長発育に関連した疾患・病態（小児歯科学）
各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患（小児歯科学）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯周疾患、小児の外傷、乳歯の抜歯について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 小児の歯周疾患について説明できる。
- 3) 小児の外傷について説明できる。
- 4) 小児の抜歯について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：実践問題集の小児の歯周疾患、歯の外傷、外科的処置の項目
準備学修時間：60分
事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
08月31日	4時限	各論-I-5-エ 各論-I-2-ア-a 各論-I-2-イ-a 各論-I-2-ウ-b 各論-I-2-ウ-c 各論-I-3-ア-b 各論-I-3-ア-d 各論-I-3-イ-e

担当者 *伊藤 龍朗

テーマ: 各論 I 成長発育に関連した疾患・病態 (小児歯科学)

授業の一般目標: 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、口腔粘膜疾患、咬合誘導、小児疾患について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯の形成障害について説明できる。
- 3) 小児の口腔粘膜疾患について説明できる。
- 4) 小児の咬合誘導について説明できる。
- 5) 小児疾患・症候群と口腔症状の関連について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

準備学修項目: 実践問題集の咬合誘導、治療時に留意すべき疾患の項目

準備学修時間: 120分

事後学修項目: 講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間: 60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月05日	1時限	各論-IV-5-イ-b

担当者 *中田 浩史

テーマ: 各論 V : 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害 (全部床義歯学)

授業の一般目標: 総義歯患者の診断と治療ができるために、総義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 医療面接とインフォームドコンセントについて述べることができる。
- 2) 総義歯の臨床ステップの概要を理解することができる。
- 3) 総義歯の治療に用いる印象材の種類と印象方法について述べるすることができる。
- 4) 作業模型上で行う操作を説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目: 歯科補綴学

事前学修時間: 90分

事後学習項目: 配布資料の復習

事後学習時間: 30分

講義日 時限 国試出題基準
09月05日 2時限 各論-IV-5-イ-c

担当者 *中田 浩史

テーマ： 各論V：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害（全部床義歯学）

授業の一般目標： 総義歯患者の診断と治療ができるために、総義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 仮想咬合平面の設定を説明することができる。
- 2) 垂直的顎の対向関係位の設定を説明することができる。
- 3) 水平的顎の対向関係位の設定を説明することができる。
- 4) フェイスボウトランスファーを説明することができる。
- 5) 咬合器への模型の付着と調整について述べるることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目： 歯科補綴学
事前学修時間： 90分
事後学習項目： 配布資料の復習
事後学習時間： 30分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月05日 3時限 各論-IV-5-ウ-d 各論-IV-5-イ-d 各論-IV-5-ウ-e 各論-IV-5-ウ-f

担当者 *矢崎 貴啓

テーマ： 各論V：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害（全部床義歯学）

授業の一般目標： 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 全部床義歯の人工歯排列について説明することができる。
- 2) 全部床義歯の咬合様式について説明することができる。
- 3) 全部床義歯の咬合平衡について説明することができる。
- 4) 全部床義歯の咬合調整の理論を説明することができる。
- 5) 歯肉（歯齦）形成の意義を説明することができる。
- 6) 発音機能の診査方法について説明することができる。
- 7) 蟬（仮床）義歯試適の診査項目を列挙し、説明することができる。
- 8) 義歯の種類を目的により分類し、説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目とそれに要する時間数 無歯顎補綴治療学および歯科医師国家試験過去問題 2時間
事後学習項目とそれに用いる時間数 上記および配布プリント 2時間

講義日	時限	国試出題基準
09月05日	4時限	各論-IV-5-イ-e 各論-IV-5-ウ-g 各論-IV-8-イ 各論-IV-8-オ-b 各論-IV-8-オ-a 各論-IV-8-オ-c 各論-IV-8-オ-e

担当者 *矢崎 貴啓

テーマ： 各論V：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害（全部床義歯学）

授業の一般目標： 無歯顎患者の診断と治療ができるようになるために、全部床義歯の治療手順とその理論的背景を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 全部床義歯装着時の診査項目を列挙し、説明することができる。
- 2) 全部床義歯のリマウントの目的とその方法について述べるができる。
- 3) 全部床義歯装着時の患者指導の項目を列挙し、説明することができる。
- 4) 全部床義歯の短期的および長期的管理について説明することができる。
- 5) 全部床義歯の術後トラブルを列挙し、説明することができる。
- 6) 全部床義歯のリラインとリベースについて説明することができる

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目とそれに要する時間数 無歯顎補綴治療学および歯科医師国家試験過去問題 2時間
事後学習項目とそれに用いる時間数 上記および配布プリント 2時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月07日	1時限	各論-V-1-イ-a 各論-V-1-オ

担当者 *飯田 崇

テーマ： 各論V：高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 高齢者に対する歯科治療を円滑に行うために、管理に留意すべき全身疾患について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 認知症の原因を説明できる。
- 3) 認知症の検査を説明できる。
- 4) 認知症への対応を説明できる。
- 5) Alzheimer病の病態を説明できる。
- 6) Parkinson病の病態と原因を説明できる。
- 7) Parkinson病への対応を説明できる。
- 8) 誤嚥性肺炎の病態を説明できる。
- 9) 誤嚥性肺炎への対応を説明できる。
- 10) オーラルディアドコキネシス等による高齢者の口腔機能評価について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：高齢者の管理に留意すべき全身疾患について理解する。
準備学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
09月07日	2時限	各論-IV-1-キ 各論-IV-1-ク

担当者 *飯田 崇

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 歯科に関連する睡眠関連疾患に対応できるようになるために、睡眠時ブラキシズムと睡眠時無呼吸症候群を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 睡眠時ブラキシズムの特徴を説明できる。
- 3) 睡眠時ブラキシズムへの対応を説明できる。
- 4) 睡眠時無呼吸症候群の特徴を説明できる。
- 5) 睡眠時無呼吸症候群への対応を説明できる。
- 6) マウスガードによる歯・口腔の外傷予防について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：睡眠時ブラキシズムと睡眠時無呼吸症候群を理解する。
準備学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月07日	3時限	各論-IV-5-ウ-c 各論-IV-2-ウ

担当者 *飯田 崇

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 補綴歯科臨床の診査、診断、治療を適切に行うために、下顎運動と咬合の概念を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) チェックバイトを説明できる。
- 3) 半調節性咬合器のプログラミングを説明できる。
- 4) ゴシックアーチ描記法を説明できる。
- 5) パントグラフ描記法と全調節性咬合器のプログラミングを説明できる。
- 6) 前方誘導要素と後方誘導要素の咬合面に及ぼす影響を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：下顎運動と咬合の概念を理解する。
準備学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
09月07日 4時限 各論-IV-4-ウ-d 各論-IV-4-ウ-b 各論-IV-4-ウ-e

担当者 *伊藤 誠康

テーマ： 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（局部床義歯学）

授業の一般目標： 咬合支持の喪失による咬合・咀嚼障害の診断と治療ができるようになるために、部分床義歯のフレームワーク作製方法を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) サペイングの目的について説明することができる。
- 3) サペイング、設計線の記入について説明することができる。
- 4) フレームワークの製作方法を説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目とそれに要する時間数：歯学生のパーシャルデンチャー、スタンダードパーシャルデンチャー補綴学、パーシャルデンチャーテクニックの最新版に目を通しておいください 1時間
事後学修項目とそれに要する時間数：講義資料の見直し 2時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月07日 5時限 各論-IV-4-ア-b 各論-IV-4-ア-a

担当者 *伊藤 誠康

テーマ： 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（局部床義歯学）

授業の一般目標： 咬合支持の喪失による咬合・咀嚼障害の診断と治療ができるようになるために、部分床義歯の構成要素を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) クラスプの種類とその特性について説明することができる。
- 3) クラスプの具備条件を説明することができる。
- 4) アタッチメントの種類とその特性について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目とそれに要する時間数：歯学生のパーシャルデンチャー、スタンダードパーシャルデンチャー補綴学、パーシャルデンチャーテクニックの最新版に目を通しておいください 1時間
事後学修項目とそれに要する時間数：講義資料の見直し 2時間

講義日 時限 国試出題基準
09月08日 1時限 各論-IV-4-ア-a 各論-IV-4-ア-b

担当者 *大久保 昌和

テーマ： 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（局部床義歯学）

授業の一般目標： 咬合支持の喪失による咬合・咀嚼障害の診断と治療ができるようになるために、局部床義歯設計の原則と構成要素を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 局部床義歯の構成要素を説明できる
- 3) 設計の原則を説明できる。
- 4) 連結装置の種類と特性について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目とそれに要する時間数：歯学生のパーシャルデンチャー、スタンダードパーシャルデンチャー補綴学、パーシャルデンチャーテクニックの最新版に目を通しておいください 1時間
事後学修項目とそれに要する時間数：講義資料の見直し 2時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月08日 2時限 各論-IV-4-イ-a 各論-IV-4-イ-b 各論-IV-4-ウ-a

担当者 *大久保 昌和

テーマ： 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（局部床義歯学）

授業の一般目標： 局部床義歯による補綴治療を適正に行うために臨床術式を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔内前処置について説明することができる。
- 3) 局部床義歯製作のための支台歯の前処置について説明することができる。
- 4) 局部床義歯製作のための印象法について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目とそれに要する時間数：歯学生のパーシャルデンチャー、スタンダードパーシャルデンチャー補綴学、パーシャルデンチャーテクニックの最新版に目を通しておいください 1時間
事後学修項目とそれに要する時間数：講義資料の見直し 2時間

講義日 時限 国試出題基準
09月08日 3時限 総論-II-6-イ-b 各論-IV-3-イ-f

担当者 *田中 孝明

テーマ: 各論IV: クラウンブリッジによる治療

授業の一般目標: 下顎運動と咬合器の構造と機能を理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」
- 2) 下顎運動を説明できる。
- 3) 咬合器の構造と下顎運動の関連を説明できる。
- 4) ワックス材料とワックスアップの方法を列挙できる。
- 5) ポンティック基底面の種類および特徴を説明できる。
- 6) ろう着について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学修項目: クラウンブリッジ補綴学第5版、スタンダード歯科理工学第5版を参考に補綴装置の製作方法と材料について理解しておく。
事前学修時間: 30分
事後学習項目: 配布資料の復習
事後学習時間: 30分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月08日 4時限 各論-IV-3-イ-a 各論-IV-3-イ-b 各論-IV-3-イ-c 各論-IV-3-イ-d 各論-IV-3-イ-e 各論-IV-3-イ-f

担当者 *大村 祐史

テーマ: 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害

授業の一般目標: クラウンブリッジ治療における基本的な治療計画の立案を行うことができるように、一般的な治療の手順とそれに沿った臨床術式を理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する
- 2) 前処置について説明することができる。
- 3) 支台築造について説明することができる。
- 4) 歯肉圧排について説明することができる。
- 5) 支台歯形成について説明することができる。
- 6) プロビジョナルレストレーションについて説明することができる。
- 7) 各種印象法を分類し特徴を述べられる。
- 8) 咬合採得の方法と手順を説明することができる。
- 9) 作業模型の構成要素と要件を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間:

事前学習項目: クラウンブリッジ補綴学第5版
事前学習時間: 60分
事後学習項目: 配布資料の復習
事後学習時間: 30分

講義日 時限 国試出題基準
09月08日 5時限 各論-IV-3-イ-h 各論-IV-3-イ-i 各論-IV-3-イ-f

担当者 *大村 祐史

テーマ： 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害

授業の一般目標： クラウンブリッジ治療における基本的な治療計画の立案を行うことができるように、一般的な治療の手順とそれに沿った臨床術式を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 試適，調整方法について説明できる。
- 3) 仮着について説明できる。
- 4) 合着について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：クラウンブリッジ補綴学第5版
事前学習時間：60分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日 時限 国試出題基準
09月09日 1時限 各論-IV-3-ア 各論-IV-3-ウ-a

担当者 *小林 平

テーマ： 各論IV：クラウンブリッジによる治療（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 咬合機能回復に必要な治療計画立案を身につけるために、歯冠補綴装置の種類と特徴を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づいて以下の項目を教授する。」
- 2) 全部被覆冠の種類と特徴を説明できる。
- 3) 部分被覆冠の種類と特徴を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版を参考に補綴装置の製作方法と材料について理解しておく。
事前学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日 時限 国試出題基準
09月09日 2時限 各論-IV-3-ウ-b

担当者 *小林 平

テーマ： 各論IVクラウンブリッジによる治療（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 最新の歯冠補綴治療を行うために、CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の製作方法を学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づいて以下の項目を教授する。」
- 2) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の理論を説明できる。
- 3) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置の種類を述べることができる。
- 4) CAD/CAM応用の歯冠補綴装置に用いる材料を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版を参考にCAD/CAM応用補綴装置の製作方法と材料について理解しておく。
事前学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月09日 3時限 各論-IV-3-ア 各論-IV-3-ウ-a 各論-IV-3-ウ-b

担当者 *内堀 聡史

テーマ： 各論IVクラウンブリッジによる治療（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 歯冠補綴治療を行うためにレジン前装冠・陶材焼付冠・ジャケットクラウンの特徴と適応症を説明できる。

到達目標SBOs：

- 1) レジン前装冠の製作方法を説明できる。
- 2) 陶材焼付冠の製作方法を説明できる。
- 3) ハイブリッド型コンポジットレジンを用いたジャケットクラウンの製作方法を説明できる。
- 4) オールセラミック修復の製作方法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版
事前学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日	時限	国試出題基準
09月09日	4時限	各論-V-1-ウ-c 各論-IV-7-ウ 各論-V-1-ウ-a 各論-V-6-ア-a 各論-V-6-ア-b 各論-V-6-イ 各論-V-6-ウ 各論-V-6-エ

担当者 *三田村 佐智代

テーマ: 各論V: 高齢者等に関連した疾患・病態・予防並びに歯科診療: 摂食嚥下障害 (障害者歯科学)

授業の一般目標: 摂食嚥下リハビリテーションが行えるようになるために、検査および対応について理解する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する
- 2) 口腔機能の評価ができる
- 3) 摂食嚥下障害の検査ができる
- 4) 治療的アプローチについて説明できる
- 5) 代償的アプローチについて説明できる
- 6) 環境改善的アプローチについて説明できる
- 7) 心理的アプローチについて説明できる
- 8) 栄養療法について説明できる

準備学修項目と準備学修時間:

- ・事前学修項目: 摂食嚥下障害に対する評価・検査方法および対応について予習をする。
- ・事前学修時間: 60分
- ・事後学修項目: 摂食嚥下障害に対する評価・検査方法および対応について予習をする。
- ・事後学修時間: 60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月10日	1時限	各論-IV-6-イ-a 各論-IV-6-イ-c 各論-IV-6-イ-b

担当者 *玉木 大之

テーマ: 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 (口腔インプラント学)

授業の一般目標: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する
- 2) インプラント外科処置について説明できる。
- 3) インプラント外科処置における合併症について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

以前の講義・実習時の配布資料の該当範囲の習熟
事前学修時間30分
事後学修時間30分

講義日	時限	国試出題基準
09月10日	2時限	各論-IV-6-イ-a 各論-IV-6-イ-c 各論-IV-6-イ-b

担当者 *玉木 大之

テーマ: 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 (口腔インプラント学)

授業の一般目標: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する
- 2) インプラント外科処置について説明できる。
- 3) インプラント外科処置における合併症について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

以前の講義・実習時の配布資料の該当範囲の習熟
事前学修時間30分
事後学修時間30分

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月10日	3時限	総論-VIII-1 1-ア 各論-IV-8-オ-f

担当者 *北川 剛至、*村上 洋

テーマ: 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 (口腔インプラント学)

授業の一般目標: 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) インプラントの材料について説明できる。
- 3) オッセオインテグレーションの獲得について説明できる。
- 4) インプラント治療のメンテナンスについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

- ・準備学修項目: 授業のSBOs
- ・準備学修時間: 15分
- ・事後学修時間: 30分

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	1時限	各論-Ⅲ-4-ケ-a 総論-VI-3-ア-b 各論-Ⅲ-4-ケ-c 各論-Ⅲ-4-ケ-d

担当者 *福本 雅彦

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（臨床検査学）

授業の一般目標： 有病者の歯科治療を安全に行うために、造血器疾患の診断に必要な検査項目について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 白血病の分類を述べることができる。
- 3) 各種白血病の病態を述べることができる。
- 4) 各種白血病に関連する臨床検査を述べることができる。
- 5) 悪性リンパ腫の分類を述べることができる。
- 6) 悪性リンパ腫の病態を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：4年次に配布講義ファイルの総論部分 基準値表 歯科医師国家試験出題基準 主な検査項目の表記
事前準備学修時間：約30分
事後学修項目：行動目標に掲げた項目
事後準備学修時間：約60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	2時限	各論-Ⅲ-4-サ 総論-VI-3-ア-b

担当者 *小峯 千明

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（臨床検査学）

授業の一般目標： 有病者の歯科治療を安全に行うために、出血性素因の診断に必要な検査項目について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 血液凝固機序を述べることができる。
- 3) 出血性素因を調べるための検査項目を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：血小板の仕組みについて理解する。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：出血性素因の検査項目を理解する。
事後学修時間：約60分

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	3時限	各論-Ⅲ-4-サ 総論-VI-3-ア-b

担当者 *小峯 千明

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（臨床検査学）

授業の一般目標： 有病者の歯科治療を安全に行うために、出血性素因をおこす疾患について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) アレルギー性紫斑病について説明できる。
- 3) Osler病について説明できる。
- 4) 特発性血小板減少性紫斑病について説明できる。
- 5) 血小板無力症について説明できる。
- 6) 血友病について説明できる。
- 7) 播種性血管内凝固症候群について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：止血凝固の仕組みを理解する。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：各疾患の検査所見・症状について理解する。
事後学修時間：約60分

講義日	時限	国試出題基準
09月15日	4時限	各論-Ⅲ-4-カ-i 総論-VI-3-ア-c

担当者 *深津 晶

テーマ： 各論Ⅲ：顎と口腔領域の疾患（臨床検査学）

授業の一般目標： 口腔領域に特徴的な症状を呈しかつ歯科治療に影響を及ぼす全身疾患、特に糖尿病について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 糖尿病の定義を述べることができる。
- 3) 糖尿病を調べるための検査項目を述べることができる。
- 4) 糖尿病の臨床症状と合併症を述べることができる。
- 5) 糖尿病に罹患している患者への歯科治療を行う際の注意点を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：生体内での糖の流れを理解する。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：糖尿病の検査所見・症状について理解する。
事後学修時間：約60分

講義日 時限 国試出題基準
09月15日 5時限 各論-Ⅲ-2-ア-a 各論-Ⅲ-2-イ-a

担当者 *大峰 浩隆

テーマ： 各論Ⅲ：顎変形症（症候群を中心に）

授業の一般目標： 顎口腔領域の疾患について理解するために、様々な症候群について学習する。
臨床経験に基づき 以下の内容を教授する。

到達目標 S B O s :

- 1) 顔面の異常を伴う症候群について説明することができる。
- 2) 口腔・顔面の異常を示す代謝・内分泌疾患について説明することができる。
- 3) それぞれの症候群の特徴を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：これまでの授業内容
準備学修時間：2時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月16日 1時限 各論-Ⅲ-2-ウ-a 各論-Ⅲ-2-エ-a 各論-Ⅲ-2-エ-b 各論-Ⅲ-2-エ-c 各論-Ⅲ-2-エ-d

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（放射線）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、頭頸部領域に発生する外傷と炎症の画像所見について学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 頭頸部領域に発生する外傷と炎症の画像所見について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：外傷と炎症について理解する。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：外傷と炎症の画像所見について理解する。
事後学修時間：約60分

講義日 時限 国試出題基準
09月16日 2時限 各論-Ⅲ-2-オ-a 各論-Ⅲ-1-エ-a 各論-Ⅲ-1-オ-a 各論-Ⅲ-2-カ-a

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（放射線）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、顎骨および軟組織に発生する嚢胞・腫瘍の画像所見について学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎骨および軟組織に発生する嚢胞・腫瘍の画像所見について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：嚢胞・腫瘍を理解する。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：嚢胞・腫瘍の画像所見について理解する。
事後学修時間：約60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月16日 3時限 各論-Ⅲ-2-オ-a 各論-Ⅲ-1-エ-a 各論-Ⅲ-1-オ-a 各論-Ⅲ-2-カ-a

担当者 *村岡 宏隆

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（放射線）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎顔面領域の画像検査法の適切な選択および画像診断ができるようになるために、顎骨および軟組織に発生する嚢胞・腫瘍の画像所見について学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎骨および軟組織に発生する嚢胞・腫瘍の画像所見について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：嚢胞・腫瘍を理解する。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：嚢胞・腫瘍の画像所見について理解する。
事後学修時間：約60分

講義日	時限	国試出題基準
09月16日	4時限	各論-Ⅲ-2-オ-a 各論-Ⅲ-1-エ-a 各論-Ⅲ-1-オ-a 各論-Ⅲ-2-カ-a 各論-Ⅲ-1-ウ-b 各論-Ⅲ-2-エ-c

担当者 *金田 隆、*村岡 宏隆

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（放射線）

授業の一般目標： 将来歯科医師として顎口腔疾患の適切な画像検査法および画像診断ができるようになるために、各種疾患における特徴像を学ぶ。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎口腔疾患における最適な画像診断法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：顎口腔領域の画像検査法の正しい選択と特徴について学ぶ。
事前学修時間：約30分
事後学修項目：顎口腔疾患における最適な画像診断法を修得する。
事後学修時間：約60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月16日	5時限	各論-Ⅲ-3-イ-f 各論-Ⅲ-3-イ-j

担当者 *牧山 康秀

テーマ： 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患

授業の一般目標： 神経疾患について理解する

到達目標 S B O s :

- 1) 三叉神経痛について説明できる
- 2) 舌咽神経痛について説明できる
- 3) 非定型顔面痛・非歯原性歯痛について説明できる
- 4) 舌痛症について説明できる
- 5) 癌性疼痛について説明できる
- 6) 舌神経麻痺について説明できる

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：三叉神経の解剖・舌咽神経の解剖
準備学修時間：30分
事後学修時間：配布資料確認15分

講義日 時限 国試出題基準
09月17日 1時限 各論-Ⅲ-3-ア-e

担当者 *濱野 美緒

テーマ： 各論Ⅳ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 唾液腺に生ずる疾患を適切に治療するために、その特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) ドライマウスについて述べられる。
- 3) Sjögren症候群とMikulicz病の特徴を述べられる。
- 4) 流行性耳下腺炎につて述べられる。
- 5) 唾液腺良性腫瘍の特徴を述べられる。
- 6) 唾液腺悪性腫瘍の特徴を述べられる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：唾液腺の治療について教科書で予習すること。
事前学修時間：60分
事後学習項目：教科書での復習および国家試験問題
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月17日 2時限 各論-Ⅲ-1-オ-n

担当者 *濱野 美緒

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔粘膜ならびに前癌病変、主要類似疾患の診断と治療ができるようになるために、診断法、治療法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔粘膜疾患とその類似疾患の診断、病態について述べるができる。
- 3) 舌炎、口唇炎および類似疾患の診断、病態について述べるができる。
- 4) 前癌病変の定義について説明することができる。
- 5) 白板症と紅板症の診断法、病態について説明することができる。
- 6) 前癌病変を説明し、その疾患名を挙げられる。
- 7) エプーリスの分類法と治療法について説明できる。
- 8) 顎骨の骨隆起と骨腫の鑑別診断と治療の必要性の有無について判定できる。
- 9) 線維性異形成症の病態と治療法について述べるができる。
- 10) Langerhans細胞組織球腫の分類、病態および診断法について述べるができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔粘膜ならびに前癌病変、主要類似疾患の診断について教科書で予習すること。
事前学修時間：60分
事後学習項目：教科書での復習および国家試験問題
事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
09月17日 3時限 各論-Ⅲ-1-オ-d

担当者 *山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 適切な口腔がんの治療を行うために、病態、検査法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 舌癌の特徴を述べられる。
- 3) 歯肉癌の特徴を述べられる。
- 4) 上顎洞癌の特徴を述べられる。
- 5) 口腔癌の転移の様式を述べられる。
- 6) 口腔癌のリンパ節転移を述べられる。
- 7) TNM分類を述べられる。
- 8) 病期分類を述べられる。
- 9) 頸部郭清術を述べられる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔がんの治療を行うために、悪性腫瘍の病態と検査法について教科書を参考に予習する。
事前学修時間：60分
事後学修項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月17日 4時限 各論-Ⅲ-1-オ-g

担当者 *山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 適切な口腔がんの治療を行うために、治療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 舌癌の特徴を述べられる。
- 3) 歯肉癌の特徴を述べられる。
- 4) 上顎洞癌の特徴を述べられる。
- 5) 口腔癌の転移の様式を述べられる。
- 6) 口腔癌のリンパ節転移を述べられる。
- 7) TNM分類を述べられる。
- 8) 病期分類を述べられる。
- 9) 頸部郭清術を述べられる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔がんの治療を行うために、悪性腫瘍の治療法について教科書で予習すること。
事前学修時間：60分
事後学修項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。
事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
09月17日 5時限 各論-Ⅲ-2-ア-a 各論-Ⅲ-2-イ-a

担当者 *山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 顎変形症について理解し、適切な治療方針の決定ができるように、治療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎変形症の特徴を説明できる。
- 3) 顎変形症の治療法について説明することができる。
- 4) 顎変形症治療における合併症、偶発症を説明し、適切な対処法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：顎変形症の治療法について教科書で予習すること。
事前準備学修時間：60分
事後学修項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。
事後準備学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月18日 1時限 各論-Ⅲ-2-カ-a 各論-Ⅲ-2-カ-c

担当者 *西村 均

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍を診断し、治療方針を決定できるようになるために、各歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍の特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍の特徴を述べることができる。
- 3) 各疾患のエックス線像の特徴を述べることができる。
- 4) 歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍を診断できる。
- 5) 歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍の治療法について述べるができる。
- 6) 歯原性腫瘍・非歯原性腫瘍の予後について述べるができる。
- 7) 他の疾患（炎症性疾患・嚢胞性疾患）と鑑別診断を行うことができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：4年次口腔顎顔面外科学口腔の腫瘍について
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学習項目：授業プリント、国家試験問題の確認する。
- ・事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
09月18日 2時限 各論-Ⅲ-2-オ-a 各論-Ⅲ-2-オ-b

担当者 *西村 均

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 顎口腔領域に発生する嚢胞性疾患を診断し、治療方針を立てられるようになるために、その病態および特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞を分類し、その特徴を述べることができる。
- 3) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞の鑑別診断をすることができる。
- 4) 顎骨内に発生する歯源性嚢胞および非歯源性嚢胞の治療法を説明することができる。
- 5) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患を分類し、その特徴を説明できる。
- 6) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患の鑑別診断ができる。
- 7) 顎骨内に発生する嚢胞類似疾患の治療法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：4年次口腔顎顔面外科学嚢胞性疾患について
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学習項目：授業プリント、国家試験問題の確認する。
- ・事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
09月18日 3時限 各論-Ⅲ-1-エ-b

担当者 *西村 均

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 軟組織内に発生する嚢胞性疾患の鑑別診断と処置ができるようになるために、病態と特徴を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 軟組織に発生する嚢胞を分類し、その特徴を説明できる。
- 3) 軟組織に発生する嚢胞の鑑別診断ができる。
- 4) 軟組織に発生する嚢胞の治療法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：4年次口腔顎顔面外科学嚢胞性疾患について
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学習項目：口腔の主要症候についての授業プリント、国家試験問題の確認する。
- ・事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
09月18日 4時限 各論-Ⅲ-4-ス-b 各論-Ⅲ-1-ウ-f

担当者 *小宮 正道

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療

到達目標 S B O s :

- 1) 全身管理に留意する全身疾患・状態を説明できる。
- 2) 高齢者にみられる全身管理に留意する全身疾患・状態を説明できる。
- 3) 肉芽腫性炎（特異性炎）の種類を述べられる。
- 4) 顎部放線菌症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 5) 口腔結核の診断・病態・治療法について述べられる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前準備学修項目：全身に関連する疾患の病態・診断・治療について教科書および参考書を熟読する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：授業時配布資料を用いたレビュー

事後学修時間：15分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月18日 5時限 各論-Ⅲ-1-ウ-a

担当者 *小宮 正道

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療

到達目標 S B O s :

- 1) 歯性扁桃周囲炎の診断・病態・治療法について述べられる。
- 2) 口底・咽頭・頬部の炎症の拡大と隙について述べられる。
- 3) 口底部の炎症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 4) 咽頭部の炎症の診断・病態・治療法について述べられる。
- 5) 歯冠周囲炎、歯周組織炎の診断・病態・治療法について述べられる。
- 6) 顎骨炎の分類・診断・病態・治療法について述べられる。
- 7) 放射線障害による口内炎、骨壊死、骨髓炎の病態について述べられる。
- 8) 歯性感染症の原因歯の治療方針について述べられる。
- 9) 歯性全身感染症の種類・原因・病態を述べることができる。
- 10) 歯性上顎洞炎の診断・病態・治療法について述べられる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前準備学修項目：軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療について教科書および参考書を熟読する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：授業時配布資料を用いたレビュー

事後学修時間：15分

講義日 時限 国試出題基準
09月19日 1時限 各論-Ⅲ-3-ウ-k

担当者 *内田 貴之

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患

授業の一般目標： 顎関節疾患と顎関節疾患に類似した疾患との鑑別および適切な治療方針の決定ができるようになるために、診断法および治療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「顎関節咬合科での臨床経験に基づき 以下の内容を教授する 」
- 2) 顎関節疾患の特徴が説明できる。
- 3) 顎関節疾患に類似した疾患を列挙できる。
- 4) 顎関節疾患の診断法を説明できる。
- 5) 顎関節疾患の治療法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：6月6日の顎関節の授業で配布したプリント
事前学修時間：20分
事後学修項目：顎関節疾患について復習する。
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月19日 2時限 各論-Ⅲ-3-ウ-k

担当者 *内田 貴之

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患

授業の一般目標： 顎関節症を診断し、治療方針を決定できるようになるために、顎関節症の病態および診査、診断ならびに適切な治療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「顎関節咬合科での臨床経験に基づき 以下の内容を教授する 」
- 2) 顎関節疾患における顎関節症の位置づけを説明できる。
- 3) 顎関節症の各病態を説明できる。
- 4) 顎関節症の治療手順を説明できる。
- 5) 顎関節症の治療法を説明できる。
- 6) 顎関節症治療におけるスプリント療法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：6月6日の顎関節の授業で配布したプリント
事前学修時間：20分
事後学修項目：顎関節症について復習する。
事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
09月19日 3時限 各論-Ⅲ-3-イ-c

担当者 *下坂 典立

テーマ： 老論Ⅶ：治療（歯科麻酔学）、ペインクリニック。

授業の一般目標： 疼痛管理、感覚異常疾患治療を適切に行うために、管理方法の実際、神経ブロック療法、理学療法について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎顔面領域の疼痛疾患について説明することができる。
- 3) 顎顔面領域の感覚異常疾患・症状について説明することができる。
- 4) 痛みの悪循環について説明することができる。
- 5) 星状神経節ブロックについて説明することができる。
- 6) 星状神経節ブロックの適応疾患について説明することができる。
- 7) 星状神経節ブロックの生理的反応について説明することができる。
- 8) 星状神経節ブロックの合併症について説明することができる。
- 9) 理学療法について説明することができる。
- 10) 光線療法について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目；スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「14. ペインクリニック（疼痛治療）」について学修しておく。
事前学修時間：30分。
事後学習項目；講義で配布した資料および講義中記載した内容。
事後学習時間：60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月23日 1時限 各論-Ⅲ-2-ウ-c

担当者 *山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 適切な口腔外科治療を行うために、口腔領域の損傷の病態、適切な診断法を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顔面・口腔領域軟組織損傷の概念を説明し、適切な診断ができる。
- 3) 歯牙の脱臼、破折の適切な診断ができる。
- 4) 顎顔面骨骨折の特徴的な骨折様式を説明し、適切な診断ができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目；顎口腔領域の損傷の診断法について教科書で予習すること。
準備学修時間：60分
事後学習項目；講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。
事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
09月23日 2時限 各論-Ⅲ-2-ウ-d

担当者 *山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 適切な口腔外科治療を行うために、口腔領域の損傷による合併症と治療法を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎顔面骨折に対する各種処置法を説明し適切な治療方針を述べることができる。
- 3) 軟組織損傷の治療法を説明し、適切な対処法を述べるができる。
- 4) 合併症の診断法および治療法を説明し、適切な対処法を述べるができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：顎口腔領域の損傷の治療法について教科書で予習すること。

準備学修時間：60分

事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。

事後学習時間：90分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月23日 3時限 各論-Ⅲ-1-ア-a

担当者 *山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患(口腔外科)

授業の一般目標： 唇顎口蓋裂を適切に診断、治療するために、病態、検査法、治療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口唇・口蓋裂の病態について説明することができる。
- 3) 口唇・口蓋裂の治療計画について説明することができる。
- 4) 鼻咽腔閉鎖不全について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：唇顎口蓋裂・鼻咽腔閉鎖不全の診断、検査について教科書で予習すること。

準備学修時間：60分

事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。

事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
09月23日 4時限 各論-Ⅲ-1-ア-a

担当者 *山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患(口腔外科)

授業の一般目標： 唇顎口蓋裂を適切に診断、治療するために、病態、検査法、治療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口唇裂の手術法について説明できる。
- 3) 口蓋裂の手術法について説明できる。
- 4) 鼻咽腔閉鎖不全の検査法について説明できる。
- 5) 鼻咽腔閉鎖不全の治療法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：唇顎口蓋裂、鼻咽腔閉鎖不全の治療について教科書で予習すること。

準備学修時間：60分

事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。

事後学習時間：90分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月23日 5時限 各論-Ⅲ-4-ソ-a

担当者 *山口 秀紀

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 安全で快適な歯科治療を行うために、全身的偶発症とその対応および予防について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 血管迷走神経反射の発症機序について説明することができる。
- 3) 血管迷走神経反射発症時の対応について説明することができる。
- 4) 過換気症候群の発症機序について説明することができる。
- 5) 過換気症候群発症時の対応について説明することができる。
- 6) 合併症の予防について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「15. 歯科治療における全身的偶発症」について学修しておく。

・事前学修時間：30分。

・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。

・事後学修時間：60分。

講義日 時限 国試出題基準
09月24日 1時限 各論-Ⅲ-4-s-a

担当者 *下坂 典立

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 全身疾患患者（呼吸器疾患、アレルギー疾患）に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) Vital signsについて説明することができる。
- 3) 血圧について説明することができる。
- 4) 脈拍について説明することができる。
- 5) 呼吸について説明することができる。
- 6) 拘束性肺疾患の病態を説明することができる。
- 7) 閉塞性肺疾患（特に喘息）の病態を説明することができる。
- 8) 喘息発作時の対応について説明することができる。
- 9) 喘息様症状、主としてアナフィラキシーとその対応について説明することができる。
- 10) アレルギー検査について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「4. 管理上問題となる疾患」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月24日 2時限 各論-Ⅲ-4-s-b

担当者 *下坂 典立

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 全身疾患（高血圧症および虚血性心疾患）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 高血圧症の病態、全身管理（救急処置を含む）について説明することができる。
- 3) 循環器疾患患者の局所麻酔時の注意点について説明することができる。
- 4) 虚血性心疾患について説明することができる。
- 5) 狭心症の病態について説明することができる。
- 6) 狭心症発症時の対応について説明することができる。
- 7) 心筋梗塞の病態について説明することができる。
- 8) 心筋梗塞発症時の対応について説明することができる。
- 9) 薬物の投与方法（注射法）について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「4. 管理上問題となる疾患」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

講義日 時限 国試出題基準
09月24日 3時限 各論-Ⅲ-4-ス-b

担当者 *下坂 典立

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 全身疾患（不整脈-その1-）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 心電図検査について説明することができる。
- 3) 上室性不整脈について説明することができる。
- 4) 心室性不整脈について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「4. 管理上問題となる疾患」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月24日 4時限 各論-Ⅲ-4-ス-b

担当者 *下坂 典立

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 全身疾患（不整脈-その2-）患者に適切に対応できるようになるために、全身管理に留意すべき事項について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 除細動について説明することができる。
- 3) 除細動すべき不整脈について説明することができる。
- 4) 房室ブロックについて説明することができる。
- 5) 心臓ペースメーカーが必要な不整脈について説明することができる。
- 6) 脚ブロックについて説明することができる。
- 7) 抗不整脈薬の使用について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「4. 管理上問題となる疾患」について学修しておく。
- 事前学修時間：30分。
- 事後学修項目：講義で配布した資料および講義中記載した内容。
- 事後学修時間：60分。

講義日 時限 国試出題基準
09月24日 5時限 各論-Ⅲ-4-ソ-c

担当者 *山口 秀紀

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（歯科麻酔学）

授業の一般目標： 安全で快適な歯科治療を行うために、全身的偶発症とその対応および予防について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 局所麻酔薬中毒の発症機序について説明することができる。
- 3) 血管収縮薬による反応について説明することができる。
- 4) メトヘモグロビン血症について説明することができる。
- 5) 誤飲・誤嚥とその対応について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：スタンダード全身管理・歯科麻酔学、「15. 歯科治療における全身的偶発症」について学修しておく。
- ・事前学修時間：30分。
- ・事後学修項目：授業で配布した資料および講義中記載した内容。
- ・事後学修時間：60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月29日 1時限 各論-Ⅱ-2-ア-a 各論-Ⅱ-2-ア-b 各論-Ⅱ-2-ア-c 各論-Ⅱ-2-ア-d 各論-Ⅱ-2-ア-e

担当者 *吉田 陽子

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯内療法学：臨床）

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患を適切に診断・治療できるようになるために、歯髄・根尖歯周疾患の原因・病態・症候を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯髄・根尖歯周疾患の症候の変化を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖歯周疾患の主訴を説明できる。
- 4) 歯髄・根尖歯周疾患の検査の意図を説明できる。
- 5) 歯髄・根尖歯周疾患の検査を選択できる。
- 6) 歯髄・根尖歯周疾患の診断プロセスを説明できる。
- 7) 歯髄・根尖歯周疾患の処置方針を説明できる。
- 8) 鑑別診断を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

歯内療法全般 1時間

講義日	時限	国試出題基準
09月29日	2時限	各論-Ⅱ-2-イ-c 各論-Ⅱ-2-イ-a 各論-Ⅱ-2-イ-b 各論-Ⅱ-2-イ-c 各論-Ⅱ-2-イ-d 各論-Ⅱ-2-イ-e 各論-Ⅱ-2-イ-i 各論-Ⅱ-2-エ-a

担当者 *岡部 達

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯内療法学：臨床）

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周疾患の適切な診断と治療ができるようになるために、歯内療法の基本原則、処置法、用いる器具・材料、高齢者に対する配慮、外傷歯の病態と治療について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯内療法の治療の基本原則を説明できる。
- 3) 歯髄・根尖性歯周疾患の処置を選択できる。
- 4) 歯内療法の器具、材料を選択できる。
- 5) 歯内療法における高齢者に対する配慮を説明できる。
- 6) 外傷歯の病態と治療を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

歯の構造を説明できる。

歯周組織の構造を説明できる。

準備学習時間：50分

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月29日	3時限	各論-Ⅱ-2-イ-c 各論-Ⅱ-2-ア-c 各論-Ⅱ-2-ア-e 各論-Ⅱ-2-イ-d 各論-Ⅱ-2-イ-f 各論-Ⅱ-2-イ-g 各論-Ⅱ-2-イ-h 各論-Ⅱ-2-イ-j

担当者 *神尾 直人

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯内療法学：臨床）

授業の一般目標： 歯髄・根尖歯周組織疾患の適切な治療をするために、根未完成歯の歯内療法、再根管治療、歯内一歯周疾患、外科的歯内療法、歯内療法処置の偶発症とその予防、顕微鏡を用いた歯内療法を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 根未完成歯の歯内療法を説明できる。
- 3) 再根管治療を説明できる。
- 4) 歯内一歯周疾患の治療を説明できる。
- 5) 内部吸収・外部吸収の治療を説明できる。
- 6) 外科的歯内療法を説明できる。
- 7) 歯内療法処置の偶発症とその予防を説明できる。
- 8) 顕微鏡を用いた歯内療法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：歯内療法全般

準備学習時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
09月29日 4時限 各論-I-7-ウ 各論-I-6-イ 各論-I-7-ア 各論-I-7-イ

担当者 *五関 たけみ

テーマ: 各論 I : 成長発育に関連した疾患・病態 (歯科矯正学)

授業の一般目標: 適切な矯正治療を実践するために、治療計画の立案に必要な情報を収集し整理・統合できるように学修する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔内写真から得られる所見を述べることができる。
- 3) エックス線写真から得られる所見を述べることができる。
- 4) 診断用口腔模型から得られる所見を述べることができる。
- 5) 軟組織診査から得られる所見を述べることができる。
- 6) 機能検査から得られる所見を述べることができる。
- 7) 得られた情報から不正咬合の特徴を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

準備学修項目: 形態的検査、機能的検査について

準備学修項目: (60分)

事後学習項目: 配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習項目: 60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月29日 5時限 各論-I-10-イ 各論-I-5-ア 各論-I-5-ウ 各論-I-5-エ 各論-I-10-ア

担当者 *五関 たけみ

テーマ: 各論 I : 成長発育に関連した疾患・病態 (歯科矯正学)

授業の一般目標: 適切な乳歯・混合歯列期の矯正治療を行うために、顎顔面形態の特徴、診断、治療開始時期および治療法について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 乳歯混合歯列期の治療目標を述べることができる。
- 3) 乳歯混合歯列期に用いる矯正装置を説明できる。
- 4) 乳歯混合歯列期の治療計画を立案できる。
- 5) 早期治療について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

準備学修項目: 乳歯列期の矯正治療、混合歯列期の矯正治療について

準備学修項目: (60分)

事後学習項目: 配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習項目: 60分

講義日	時限	国試出題基準
09月30日	1時限	各論-Ⅱ-1-ア-c 各論-Ⅱ-1-ア-e 各論-Ⅱ-1-ウ-g 各論-Ⅱ-1-ア-f 各論-Ⅱ-1-イ-g

担当者 *平山 聡司

テーマ： 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周疾患（保存修復学臨床実地）：Tooth wear（歯の損耗）、変色歯、外傷

授業の一般目標： Tooth wear、歯の変色および外傷により生じた歯の欠損や審美障害を解決するために、行うべき検査、診断、治療方針の立案と処置法に関する知識を修得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) Tooth wearに対する鑑別診断ができる。
- 3) Tooth wearに対する適切な治療方針が立案できる。
- 4) 変色歯の鑑別診断ができる。
- 5) 変色歯の原因や程度から適切な処置方針を立案できる。
- 6) 外傷歯の診断に必要な検査法を選択できる。
- 7) 外傷歯に対する適切な治療方針を立案できる。
- 8) 歯の完全破折と不完全破折の鑑別診断ができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：8月22日各論講義分の配布資料を復習しておくこと。

準備学修時間：30分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
09月30日	2時限	各論-Ⅱ-1-ウ-c 各論-Ⅱ-1-ウ-d 各論-Ⅱ-1-ウ-e 各論-Ⅱ-1-ウ-f

担当者 *平山 聡司

テーマ： 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周疾患（保存修復学臨床実地）：間接修復法

授業の一般目標： 歯の硬組織欠損に対して適切な間接修復処置が行えるようになるために、適切な検査、診断、治療方針の立案、術式、使用器具および術後管理について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 間接修復法の選択基準について説明できる。
- 3) 各種間接修復法の臨床術式について説明できる。
- 4) 間接修復法の修復物装着に必要な処理材について説明できる。
- 5) 間接修復法における補修修復の手順と必要材料について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：8月22日に講義した配布資料の内容を復習しておくこと。

準備学修時間：30分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
09月30日 3時限 各論-Ⅱ-1-ウ-b 各論-Ⅱ-1-ウ-f 各論-Ⅱ-1-オ-a

担当者 *平山 聡司

テーマ： 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周疾患（保存修復学臨床実地）：接着修復と前準備

授業の一般目標： 歯の硬組織欠損に対して適切な接着修復を行うために、適切な検査、診断、治療方針の立案、術式、使用器具および術後管理について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯の欠損状態に応じた接着修復法を選択できる。
- 3) 齶蝕の除去法とそれに用いる器具器材について説明できる。
- 4) 接着修復処置に必要な前準備とその器具について説明できる。
- 5) 接着修復法の臨床術式を説明できる。
- 6) 異種材料に対する接着前処理と必要な器材について説明できる。
- 7) 修復操作中に生じた偶発症とその対処法について説明できる。
- 8) 修復処置後に生じる臨床的問題点の原因とその対処法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：8月22日の講義で配布した資料を復習しておくこと。

準備学修時間：30分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
09月30日 4時限 各論-I-10-ウ 各論-I-7-ウ 各論-I-7-エ 各論-I-8-エ 各論-I-10-キ 各論-I-10-ク 各論-I-10-ケ

担当者 *五関 たけみ

テーマ： 各論 I：成長発育に関連した疾患・病態（歯科矯正学）

授業の一般目標： 永久歯列期の矯正治療を適切に行うために必要な診断、治療方針および治療計画の立案について理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 治療目標の設定ができる。
- 3) 抜歯部位の選択ができる。
- 4) 矯正治療中の管理について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：永久歯列期の矯正治療について

準備学修時間：(60分)

事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。

事後学習時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
09月30日	5時限	各論-I-10-オ 各論-I-1-ア-b 各論-I-7-エ 各論-I-10-キ 各論-I-10-ク 各論-I-10-ケ 各論-III-2-イ-a

担当者 *榎本 豊

テーマ： 各論 I：成長発育に関連した疾患・病態（歯科矯正学）

授業の一般目標： 口唇裂・口蓋裂や顎変形症の矯正歯科治療を適切に行うために必要な知識、診断、治療方針および治療計画の立案について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 外科矯正治療における術前矯正治療の目的を説明できる。
- 3) 適切な外科手術法を選択できる。
- 4) 唇顎口蓋裂患者の特徴を説明できる。
- 5) 唇顎口蓋裂患者の歯科矯正治療の流れを説明できる。
- 6) 口腔領域に異常をきたす先天異常患者の特徴を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口唇裂・口蓋裂の矯正歯科治療、顎変形症の矯正歯科治療について
準備学修項目：(60分)
事後学習項目：配布資料に基づき必須項目を復習する。
事後学習項目：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月01日	1時限	各論-II-3-ウ-b 各論-II-3-ア-b 各論-II-3-ア-d 各論-II-3-ア-f 各論-II-3-ア-h 各論-II-3-ア-i

担当者 *中山 洋平

テーマ： 各論 II：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯周治療学）

授業の一般目標： 適切な歯周治療を行うために、歯周病の診査・診断・治療計画および歯周基本治療の内容・目的について理解する。

到達目標 S B O s：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する
- 2) 歯周病の分類と特徴について説明することができる。
- 3) 歯周病の治療計画について説明することができる。
- 4) 歯周基本治療の内容について説明できる。
- 5) 歯周治療におけるメンテナンスおよび S P T について説明できる。
- 6) 咬合性外傷の診断・治療法について説明できる。
- 7) 歯内歯周病変の診断・治療法について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：正常歯周組織の解剖，歯周疾患の病因と病態，歯周基本治療。40分
事後学習項目：診断結果と歯周基本治療の選択。60分

講義日 時限 国試出題基準
10月01日 2時限 各論-Ⅱ-3-ウ-d 各論-Ⅱ-3-ウ-f

担当者 *中山 洋平

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯周治療学）

授業の一般目標： 適切な歯周治療を行うために、根分岐部病変の治療および歯周外科治療について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 根分岐部病変の分類に対する治療方法について説明できる。
- 3) 歯周ポケット搔爬術について説明できる。
- 4) 新付着術(ENAP)について説明できる。
- 5) 歯肉切除術について説明できる。
- 6) 歯肉剥離搔爬術について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：正常歯周組織の解剖。切除療法および組織付着療法の種類を列挙し、それぞれの適応症と術式を説明できる。根分岐部病変を分類し、適応する術式を説明できる。60分。
事後学習項目：切除療法、組織付着療法の適応症を理解し、術式を選択できる。手技、使用器具についても理解を深める。60分。

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月01日 3時限 各論-Ⅱ-3-ウ-e 各論-Ⅱ-3-ウ-i 各論-Ⅱ-3-ウ-d

担当者 *中山 洋平

テーマ： 各論Ⅱ：歯・歯髄・歯周組織の疾患（歯周治療学）

授業の一般目標： 適切な歯周治療を行うために、歯周組織再生療法および歯周形成手術の治療法について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 再生の3原則に基づいて、歯周組織再生療法の種類を説明できる。
- 3) 骨移植術について説明できる。
- 4) 歯周組織再生誘導法(GTR法)について説明できる。
- 5) エナメルマトリックスタンパク質を用いた再生療法について説明できる。
- 6) 塩基性線維芽細胞成長因子を用いた再生療法について説明できる。
- 7) 歯周形成手術について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：正常歯周組織の解剖、再生の3原則、骨再生の3要素を理解し、歯周組織再生療法の適応症と術式。歯周形成手術の適応症と術式を列挙できる。60分。
事後学習項目：歯周組織再生療法の適応症を理解し、術式を選択できる。手技、使用器具についても理解を深める。歯周形成手術の術式を選択できる。60分。

講義日	時限	国試出題基準
10月01日	4時限	各論-Ⅱ-1-イ-a 各論-Ⅱ-1-イ-d 各論-Ⅱ-1-イ-e 各論-Ⅱ-1-イ-f 各論-Ⅱ-1-ウ-a 各論-Ⅱ-1-エ-a 各論-Ⅱ-1-エ-b

担当者 *岡本 京

テーマ： 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患（小児歯科学）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の齲蝕予防、歯冠修復について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 小児の齲蝕予防について説明できる。
- 3) 小児の歯冠修復について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：実践問題集の小児の齲蝕と進行抑制、小児の歯冠修復の項目

準備学修時間：60分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月01日	5時限	各論-Ⅱ-2-ウ-a 各論-Ⅱ-2-ウ-b 各論-Ⅱ-2-ウ-c 各論-Ⅱ-2-ウ-d 各論-Ⅱ-3-エ-a 各論-Ⅱ-3-エ-b

担当者 *岡本 京

テーマ： 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患（小児歯科学）

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の歯内療法、歯周疾患について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 小児の歯内療法について説明できる。
- 3) 小児の歯周疾患について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：実践問題集の小児の歯内療法、小児の歯周疾患の項目

準備学修時間：60分

事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。

事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
10月02日	1時限	各論-I-4-ウ 各論-I-1-イ-a 各論-I-1-イ-c 各論-I-1-イ-e 各論-I-1-イ-g 各論-I-1-イ-h 各論-I-1-イ-j 各論-I-1-ウ-c

担当者 *伊藤 龍朗

テーマ： 各論II：成長発育に関連した疾患・病態（小児歯科）
各論IV：顎・口腔領域の疾患

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、小児の外傷、乳歯の抜歯、口腔粘膜疾患、咬合誘導について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 小児の歯の外傷について説明できる。
- 3) 小児の抜歯について説明できる。
- 4) 小児の口腔粘膜疾患について説明できる。
- 5) 小児の咬合誘導について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：小児の外傷と粘膜疾患について
準備学修時間：60分
事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月02日	2時限	各論-I-2-ア-a 各論-I-2-ア-b 各論-I-2-イ-a 各論-I-2-イ-b 各論-I-2-ウ-b 各論-I-2-ウ-c 各論-I-3-ア-a 各論-I-3-ア-b

担当者 *伊藤 龍朗

テーマ： 各論IV：顎・口腔領域の疾患（小児歯科）
各論II：成長発育に関連した疾患・病態

授業の一般目標： 小児の歯科疾患の診断および治療ができるようになるために、歯の形成障害および小児疾患・症候群について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 歯の形成障害について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：歯の形成障害について
準備学修時間：60分
事後学修項目：講義内容と配布資料の内容を確認する。
事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
10月07日 1時限 各論-IV-7-ア

担当者 *飯島 守雄

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害：顎顔面補綴装置

授業の一般目標： 顎欠損を有する患者の特性および特殊な装置による治療（顎顔面補綴装置による治療）を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎顔面に欠損を有する患者の背景を説明できる。
- 3) 顎顔面に欠損を有する患者の機能障害を説明できる。
- 4) 顎骨欠損の成因を説明できる。
- 5) 顎顔面に欠損を有する患者の補綴方法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：顎口腔に大きな欠損を有する患者の特性を理解しておく。1時間程度

事後学習項目：事後学習項目：様々な顎補綴装置を理解する。1時間程度

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月07日 2時限 各論-IV-4-ア-c

担当者 *飯島 守雄

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害 オーバーデンチャー

授業の一般目標： オーバーデンチャーの基本構造と利点と欠点について理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) オーバーデンチャーの特性を説明できる。
- 3) 根面アタッチメントについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：歯根およびインプラントを用いたオーバーデンチャーについて学習する 1時間程度

事後学習項目：歯根アタッチメント、移行義歯について学習する 1時間程度

講義日	時限	国試出題基準
10月07日	3時限	各論-IV-8-イ

担当者 *飯島 守雄

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害（可撤性部分床義歯学）

授業の一般目標： 部分歯牙欠損を有する患者の術後管理（夜間用義歯含む）を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 部分歯牙欠損を有する患者の患者指導を説明することができる。
- 3) 部分歯牙欠損を有する患者の義歯の管理を説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：可撤性局部床義歯の予後について説明できる。1時間程度
事後学習項目：可撤性局部床義歯の術後管理について説明できる。1時間程度

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月07日	4時限	各論-IV-5-ア

担当者 *木本 統

テーマ： 各論V：全部床義歯による治療（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 1) 全部床義歯の治療手順と使用器具を説明できる。
- 3) 2) 旧義歯の床外形、人工歯配列位置、咬合面形態の問題点を説明できる。
- 4) 3) 適合試験の結果を説明できる。
- 5) 4) 全部床義歯の咬合診査方法を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：全部床義歯の診査・診断および治療方法
準備学習項目：(60分)
事後学習項目：配付資料と教科書を用いながら復習を行う。
事後学習項目：(60分)

講義日	時限	国試出題基準
10月07日	5時限	各論-IV-5-イ-a

担当者 *木本 統

テーマ： 各論V：全部床義歯による治療（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全部床義歯患者の顎堤に生じる粘膜病変を説明できる。
- 3) 全部床義歯の顎堤生じるトラブルを説明できる。
- 4) 義歯装着時の顔貌所見を説明できる。
- 5) 全部床義歯装着者の発音試験を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：全部床義歯の診査・診断および治療方法

準備学習項目：(60分)

事後学習項目：配付資料と教科書を用いながら復習を行う。

事後学習項目：(60分)

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	1時限	各論-IV-5-イ-b

担当者 *木本 統

テーマ： 各論V：全部床義歯による治療（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全部床義歯の印象採得に必要な解剖学的ランドマークを説明できる。
- 3) 動的印象を説明できる。
- 4) フレンジテクニックを説明できる。
- 5) 治療用義歯を説明できる。
- 6) 作業模型上で行う金属床義歯の技工手順を説明できる。
- 7) 作業模型上で行うリリースおよびブロックアウトを説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：全部床義歯の診査・診断および治療方法

準備学習項目：(60分)

事後学習項目：配付資料と教科書を用いながら復習を行う。

事後学習項目：(60分)

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	2時限	各論-IV-5-ウ-d

担当者 *木本 統

テーマ： 各論V：全部床義歯による治療（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 両側性咬合平衡を説明できる。
- 3) クリステンセン氏現象を説明できる。
- 4) ハノーの5要素を説明できる。
- 5) 片側性咬合平衡を説明できる。
- 6) 歯槽頂線の法則と歯槽頂間線の法則を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：全部床義歯の診査・診断および治療方法

準備学習項目：(60分)

事後学習項目：配付資料と教科書を用いながら復習を行う。

事後学習項目：(60分)

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	3時限	各論-IV-5-ウ-c

担当者 *木本 統

テーマ： 各論V：全部床義歯による治療（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 咬合平面の設定方法を説明できる。
- 3) 咬合高径の設定方法を説明できる。
- 4) ゴシックアーチ描記法を説明できる。
- 5) フェースボウトランスファーを説明できる。
- 6) 咬合器のプログラミングを説明できる。
- 7) シングルデンチャーの咬合採得を説明できる。
- 8) 下顎法による咬合平面の設定を説明できる。
- 9) 転覆試験を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：全部床義歯の診査・診断および治療方法

準備学習項目：(60分)

事後学習項目：配付資料と教科書を用いながら復習を行う。

事後学習項目：(60分)

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	4時限	各論-IV-5-ウ-f

担当者 *木本 統

テーマ： 各論V：全部床義歯による治療（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 全部床義歯の排列の限界を説明できる。
- 3) I級・II級・III級排列を説明できる。
- 4) アメリカ法埋没とフランス法埋没について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：全部床義歯の診査・診断および治療方法

準備学習項目：(60分)

事後学習項目：配付資料と教科書を用いながら復習を行う。

事後学習項目：(60分)

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月08日	5時限	各論-IV-5-イ-e

担当者 *木本 統

テーマ： 各論V：全部床義歯による治療（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 咬合採得の誤りの原因を説明できる。
- 3) 咬合採得の誤りと義歯装着者に生じる痛みを関連付けることができる。
- 4) 咬合採得の誤りと義歯の脱離を関連付けることができる。
- 5) リマウントの意義を説明できる。
- 6) スプリットキャスト法とテンチのコア法によるリマウントの違いを説明できる。
- 7) 直接リラインと間接リラインの違いを説明できる。
- 8) リラインの技工操作を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学習項目：全部床義歯の診査・診断および治療方法

準備学習項目：(60分)

事後学習項目：配付資料と教科書を用いながら復習を行う。

事後学習項目：(60分)

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	1時限	各論-IV-4-イ-b 各論-IV-4-ア-a 各論-IV-4-ア-b 各論-IV-4-イ-a 各論-IV-4-イ-b

担当者 *石井 智浩

テーマ: 各論V-5 部分床義歯による治療

授業の一般目標: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 部分床義歯の診査方法について説明することができる。
- 3) 部分床義歯の診断について説明することができる。
- 4) 部分床義歯の治療計画について説明することができる。
- 5) 部分床義歯の口腔内前処置について説明することができる。
- 6) 部分床義歯の印象方法について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間:

各論-V-2-カ 各論-V-2-ア 各論-V-2-イ 各論-V-2-ウ 各論-V-2-エ

各論-V-5-ア 各論-V-5-イ 各論-V-5-カ

事前学修項目 部分床義歯の診査・診断・治療計画について30分の事前学修を要する。

事後学修項目 部分床義歯の診査・診断・治療計画についての国家試験過去問の60分の事後学修を要する。

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	2時限	各論-IV-4-イ-d 各論-IV-4-イ-e 各論-IV-4-ウ-b 各論-IV-4-ウ-c 各論-IV-4-ウ-e 各論-IV-4-ウ-f

担当者 *石井 智浩

テーマ: 各論V-5 部分床義歯による治療

授業の一般目標: 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標SBOs:

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 部分床義歯の作業模型の製作について説明することができる。
- 3) 部分床義歯のフレームワークの製作について説明することができる。
- 4) 人工歯の選択・排列・削合について説明できる。
- 5) 歯肉形成について説明できる。
- 6) 蠟義歯の試適について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間:

各論-V-5-コ 各論-V-5-ウ 各論-V-5-キ 各論-V-5-ク 各論-V-5-ケ

事前学修項目 部分床義歯の作業模型の製作・フレームワークの製作・人工歯の選択・排列・削合・歯肉形成・蠟義歯の試適について60分の事前学習を要する

事後学修項目 部分床義歯の作業模型の製作・フレームワークの製作・人工歯の選択・排列・削合・歯肉形成・蠟義歯の試適についての国家試験過去問の60分の事後学修を要する

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	3時限	各論-IV-4-イ-f 各論-IV-4-ア-a 各論-IV-4-ア-c 各論-IV-4-ウ-g 各論-IV-4-ウ-h 各論-IV-4-ウ-i

担当者 *石井 智浩

テーマ： 各論V-5 部分床義歯による治療

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療方法に関する知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 部分床義歯の設計について説明することができる。
- 3) 部分床義歯の埋没方法を説明することができる。
- 4) 部分床義歯の重合方法を説明することができる。
- 5) 部分床義歯の咬合調整（削合）を説明することができる。
- 6) 部分床義歯の仕上げを説明することができる。
- 7) 部分床義歯の装着方法を説明することができる。
- 8) 部分床義歯の装着時の患者指導について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

各論-V-5-ア 各論-V-5-サ 各論-V-5-シ 各論-V-5-ス 各論-V-5-セ
事前学修項目 部分床義歯の設計・埋没・重合・装着についての60分の事前学修を要する
事後学修項目 部分床義歯の設計・埋没・重合・装着についての国家試験過去問の60分の事後学修を要する

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月09日	4時限	各論-IV-8-オ-b 各論-IV-8-オ-c 各論-IV-8-オ-a

担当者 *矢崎 貴啓

テーマ： 各論V：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害（全部床義歯学）

授業の一般目標： 無歯顎患者の損なわれたQOLの向上を図るために必要な義歯補綴による再建とリハビリテーションの知識・技能・態度を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 無歯顎顎堤の生理的吸収への対応について説明することができる。
- 3) 無歯顎顎堤の病的吸収への対応について説明することができる。
- 4) 義歯床下粘膜の変化への対応について説明することができる。
- 5) 全部床義歯の咬合の変化への対応について説明することができる。
- 6) 人工歯の変化への対応について説明することができる。
- 7) 全部床義歯装着者の中心咬合位の変化について説明することができる。
- 8) 全部床義歯装着後の患者指導について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目とそれに要する時間数 無歯顎補綴治療学および歯科医師国家試験過去問題 2時間
事後学習項目とそれに用いる時間数 上記および配布プリント 2時間

講義日 時限 国試出題基準
10月09日 5時限 各論-IV-8-オ-b

担当者 *矢崎 貴啓、*宇都宮 忠彦

テーマ： 各論V：歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害（全部床義歯学・病理学）

授業の一般目標： 無歯顎患者の損なわれたQOLの向上を図るために必要な義歯補綴による再建とリハビリテーションの知識・技能・態度を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 有床義歯装着に起因する粘膜病変を列挙することができる。
- 3) 褥瘡性潰瘍の原因と治療法を述べることができる。
- 4) フラビーガムの原因と治療法を述べることができる。
- 5) 義歯性線維症の原因と治療法を述べることができる。
- 6) 義歯性口内炎の原因と治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目とそれに要する時間数 無歯顎補綴治療学および歯科医師国家試験過去問題 2時間
事後学習項目とそれに用いる時間数 上記および配布プリント 2時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月10日 1時限 各論-V-8-ア-a 各論-V-8-イ 各論-V-3-エ 各論-V-2-ア-a

担当者 *飯田 崇

テーマ： 各論V：高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療（顎口腔機能治療学）

授業の一般目標： 高齢者歯科医療を円滑に行うために、施設や在宅における基本的歯科医療を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 老化の機序を説明できる。
- 3) 要介護高齢者の歯科治療を説明できる。
- 4) 在宅歯科医療を説明できる。
- 5) 高齢者歯科医療における多職種連携について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：施設や在宅における基本的歯科医療を理解する。
準備学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
10月10日	2時限	各論-V-4-イ-a 各論-V-4-イ-b 各論-V-4-イ-c

担当者 *飯田 崇

テーマ： 各論V：高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療(顎口腔機能治療学)

授業の一般目標： 高齢者歯科医療を円滑に行うために、認知症を有する高齢者における基本的歯科医療を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 高齢者の心理・社会的特徴を説明できる。
- 3) 認知症を有する高齢者の歯科治療を説明できる。
- 4) 摂食・嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：認知症を有する高齢者における基本的歯科医療を理解する。
準備学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
10月12日	1時限	各論-IV-8-オ-d

担当者 *伊藤 誠康、*中田 浩史

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 有床義歯装着後の疼痛に関する原因について述べることができる。
- 3) 有床義歯装着後の発音障害に関する原因について述べることができる。
- 4) 有床義歯装着後の維持不良に関する原因について述べることができる。
- 5) 有床義歯装着後の誤咬に関する原因について述べることができる。
- 6) 有床義歯装着後の嚥下障害に関する原因について述べることができる。
- 7) 有床義歯装着後の嘔吐反射に関する原因について述べることができる。
- 8) 有床義歯装着後の患者指導について述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：歯科補綴学
事前学修時間：90分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日	時限	国試出題基準
10月12日	2時限	各論-IV-1-エ 総論-VIII-6-ア-b

担当者 *伊藤 誠康

テーマ： 各論IV-1-エ： 歯質・歯・顎顔面欠損による審美障害について ノンメタルクラスプデンチャーについて（有床義歯補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) ノンメタルクラスプデンチャーについて述べるができる。
- 3) ノンメタルクラスプデンチャーの適応症について述べるができる。
- 4) ノンメタルクラスプデンチャーの床用材料について述べるができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目とそれに要する時間数：歯学生のパーシャルデンチャー第6版、スタンダードパーシャルデンチャー補綴学に目を通しておいてください 1時間
事後学修項目とそれに要する時間数：講義資料の見直し 1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月12日	3時限	各論-IV-8-オ-e

担当者 谷本 安浩、*田中 孝明、*中田 浩史

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（有床義歯補綴学，クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」
- 2) クラウン装着後の破損の原因を述べるができる。
- 3) 前装冠破損の原因を推測することができる。
- 4) 前装冠破損の修理方法について述べるができる。
- 5) 有床義歯の破損の原因を述べるができる。
- 6) 有床義歯の破損の修理方法について述べるができる。
- 7) 補綴物の破損に関する理工学的特性を述べるができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：歯科補綴学・歯科理工学
事前学修時間：90分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日 時限 国試出題基準
10月12日 4時限 各論-IV-3-イ-f 各論-IV-4-イ-c

担当者 *伊藤 誠康、*田中 孝明

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（有床義歯補綴学，クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する」
- 2) 残存歯の咬合状態から咬合の安定度を測ることができる。
- 3) 咬合採得法の種類と特徴を述べることができる。
- 4) 支台歯形成後の咬合支持の状態から適切な咬合採得法を選択できる。
- 5) 歯の欠損状態から適切な咬合採得法を説明できる。
- 6) 少数歯あるいは多数歯欠損の咬合採得法を説明できる。
- 7) すれ違い咬合の咬合採得法を説明できる。
- 8) 咬合器付着とプログラミングについて説明できる。
- 9) 咬合床を用いた咬合採得について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：歯学生のパーシャルデンチャー第5版，クラウンブリッジ補綴学第5版の咬合採得の項目を予習しておく。
事前学習時間：30分
事後学習項目：配布プリントの復習
事後学習時間：30分

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月12日 5時限 各論-IV-3-イ-e 各論-IV-3-ウ-a 総論-VIII-6-イ-a 総論-VIII-7-ア-c

担当者 *田中 孝明

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態と機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「臨床経験に基づいて以下の内容を教授する」
- 2) プロビジョナルレストレーションの製作方法と特徴を述べることができる。
- 3) レジン前装冠と陶材焼付冠の違いを説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版 VIプロビジョナルレストレーション，6章各論 I レジン前装冠，III陶材焼付冠について予習する。
準備学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日	時限	国試出題基準
10月13日	1時限	各論-IV-3-イ-i

担当者 *小林 平

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 最新の歯冠補綴治療を行うために、審美的な治療方法とデジタルデンティストリーの治療方法について学ぶ。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づいて以下の項目を教授する。」
- 2) デジタルデンティストリーで必要な機材を述べることができる。
- 3) デジタルデンティストリーの将来性について述べるができる。
- 4) デジタルデンティストリーの治療方法について述べるができる。
- 5) 口腔内スキャナーのシステムについて説明できる。
- 6) 口腔内スキャナーでの印象採得の特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版を参考にCAD/CAM応用補綴装置の製作方法と材料について理解しておく。
事前学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月13日	2時限	各論-IV-3-イ-h 各論-IV-3-イ-d 各論-IV-3-イ-i

担当者 *小林 平

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 損なわれた顎口腔系の形態および機能の回復を図るために必要な補綴臨床における診査・診断および治療法に関する知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 「臨床経験に基づいて以下の項目を教授する。」
- 2) クラウンブリッジにおける診査・診断を行うことができる。
- 3) クラウンブリッジに対する治療計画を立案することができる。
- 4) クラウンブリッジにおける診断模型の分析を行うことができる。
- 5) 前処置の目的と具体的な方法を述べるができる。
- 6) 印象採得の術式と特徴を述べるができる。
- 7) クラウンブリッジの試適・調整の手順を具体的に述べるができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版、スタンダード歯科理工学第5版を参考にクラウンブリッジの診査診断について学習しておく。
事前学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日	時限	国試出題基準
10月13日	3時限	各論-IV-6-イ-h 各論-IV-6-イ-d 各論-IV-6-イ-e 各論-IV-6-イ-f 各論-IV-6-イ-h 各論-IV-6-ウ-a 各論-IV-6-ウ-b 各論-IV-6-ウ-c

担当者 *村上 洋

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（口腔インプラント学）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) インプラントの補綴術式を説明する。
- 3) インプラント上部構造の種類・固定方法を説明する。

準備学修項目と準備学修時間：

過去の講義・実習時に配布した、該当範囲レジュメの通読
準備学修時間30分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月13日	4時限	各論-IV-3-イ-h 各論-IV-3-イ-h 各論-IV-3-イ-i

担当者 *内堀 聡史

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（クラウンブリッジ補綴学）

授業の一般目標： 生体と調和し、失われた機能を回復できる補綴装置を装着するために必要な知識を整理し理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 試適・調整について説明することができる。
- 2) 仮着について説明することができる。
- 3) 合着・接着について説明することができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版
事前学修時間：30分
事後学習項目：配布資料の復習
事後学習時間：30分

講義日	時限	国試出題基準
10月14日	1時限	各論-IV-6-イ-d

担当者 *村上 洋

テーマ： 各論IV：歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（口腔インプラント学）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1)「臨床経験に基づいて以下の項目を教授する。」
- 2)インプラントの補綴術式を説明する。
- 3)インプラント上部構造の種類・固定方法を説明する。

準備学修項目と準備学修時間：

過去の講義・実習時に配布した、該当範囲レジユメの通読
準備学修時間30分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月14日	2時限	各論-IV-6-イ-a 各論-IV-6-イ-c 各論-IV-6-イ-b

担当者 *玉木 大之

テーマ： 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（口腔インプラント学）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に患者に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1)臨床経験に基づき以下の内容を教授する
- 2)インプラント外科処置について説明できる。
- 3)インプラント外科処置における合併症について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

以前の講義・実習時の配布資料の該当範囲の習熟
事前学修時間30分
事後学修時間30分

講義日	時限	国試出題基準
10月14日	3時限	各論-IV-2-ウ 各論-IV-6-ア-b

担当者 *北川 剛至、*村上 洋

テーマ： 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害（口腔インプラント学）

授業の一般目標： 欠損補綴の回復方法を適切に供給するために、インプラント治療に関する基本的知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1)臨床経験に基づき 以下の内容を教授する。
- 2)インプラント治療の術前診断および治療計画について説明できる。
- 3)インプラント治療のリスクファクターについて説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：授業のSBOs
- ・準備学修時間：15分
- ・事後学修時間：30分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	1時限	各論-III-2-オ-a

担当者 *金田 隆、*山本 泰

テーマ： 各論III 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標SBOs：

- 1)臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2)嚢胞性疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 準備学修項目：口腔領域の嚢胞性疾患について教科書で予習すること。
- 準備学修時間：60分
- 事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。
- 事後学習時間：90分

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	2時限	各論-Ⅲ-1-オ-a

担当者 *金田 隆、*山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する良性腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域の良性腫瘍について教科書で予習すること。

準備学修時間：60分

事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。

事後学習時間：90分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月20日	3時限	各論-Ⅲ-1-オ-d

担当者 *金田 隆、*山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する悪性腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域の悪性腫瘍について教科書で予習すること。

準備学修時間：60分

事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。

事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
10月20日 4時限 各論-Ⅲ-1-ウ-b

担当者 *金田 隆、*山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域の炎症性疾患について教科書で予習すること。
準備学修時間：60分
事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。
事後学習時間：90分

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月20日 5時限 各論-Ⅲ-2-ウ-c

担当者 *金田 隆、*山本 泰

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 顎顔面領域に発生する損傷の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域の外科的疾患について教科書で予習すること。
準備学修時間：60分
事後学習項目：講義資料、教科書を用いて復習し、国家試験問題に取り組む。
事後学習時間：90分

講義日 時限 国試出題基準
10月21日 1時限 各論-Ⅲ-2-エ-d

担当者 *宇都宮 忠彦、*山口 桜子

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月21日 2時限 各論-Ⅲ-2-エ-d

担当者 *宇都宮 忠彦、*山口 桜子

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事後学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
10月21日 3時限 各論-Ⅲ-2-エ-d

担当者 *宇都宮 忠彦、*山口 桜子

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月21日 4時限 各論-Ⅲ-2-エ-d

担当者 *宇都宮 忠彦、*山口 桜子

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事後学修時間：1時間

講義日 時限 国試出題基準
10月21日 5時限 各論-Ⅲ-2-エ-d

担当者 *宇都宮 忠彦、*山口 桜子

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

準備学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月22日 1時限 各論-Ⅲ-1-オ-a

担当者 *濱野 美緒

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。

事前学修時間：30分

事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
10月22日 2時限 各論-Ⅲ-2-キ-a

担当者 *濱野 美緒、*末光 正昌

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。
事前学修時間：30分
事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月22日 3時限 各論-Ⅲ-2-キ-a

担当者 *濱野 美緒、*末光 正昌

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。
事前学修時間：30分
事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。
事後学修時間：60分

講義日 時限 国試出題基準
10月22日 4時限 各論-Ⅲ-2-キ-a

担当者 *濱野 美緒、*末光 正昌

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。
事前学修時間：30分
事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。
事後学修時間：60分

=====

講義日 時限 国試出題基準
10月22日 5時限 各論-Ⅲ-1-オ-a

担当者 *濱野 美緒、*末光 正昌

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患（口腔外科）

授業の一般目標： 口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。

到達目標 S B O s :

- 1) 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2) 口腔領域に発生する種々の疾患の鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔領域に発生する腫瘍の診断およびその治療法を述べることができる。
- 4) 口腔領域に発生する嚢胞の診断およびその治療法を述べることができる。
- 5) 口腔領域に発生する感染症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 6) 口腔領域に発生する炎症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 7) 口腔領域に発生する自己免疫疾患の診断およびその治療法を述べることができる。
- 8) 口腔領域に発生する奇経・変形症の診断およびその治療法を述べることができる。
- 9) 口腔領域に症状を呈する症候群の診断・症状およびその治療法を述べることができる。
- 10) 口腔領域に発生する神経疾患の診断およびその治療法を述べることができる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に予習する。
事前学修時間：30分
事後学修項目：口腔領域疾患の診断および治療方針が立てられるようになるために、画像および病理の特徴と治療方針を体系的に学習する。
事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
10月23日	1時限	各論-Ⅲ-1-ク-k 各論-Ⅲ-1-エ-a 各論-Ⅲ-1-エ-b 各論-Ⅲ-1-ク-a 各論-Ⅲ-1-ク-b 各論-Ⅲ-1-ク-i 各論-Ⅲ-1-ク-l

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（病理学）

授業の一般目標： 正確な診断を行うために、非腫瘍性疾患の病理組織診断について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2) 嚢胞の病理組織診断と鑑別診断を行うことができる。
- 3) 口腔粘膜疾患の病理組織診断と鑑別診断を行うことができる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：
 1) 嚢胞の分類
 2) 口腔粘膜疾患の分類
 ・事前学修時間：30分
- 事後学修項目：
 1) 嚢胞の分類と病理組織学的特徴
 2) 口腔粘膜疾患の病理組織学的特徴
 ・事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月23日	2時限	各論-Ⅲ-1-オ-a 各論-Ⅲ-1-オ-b 各論-Ⅲ-1-オ-d 各論-Ⅲ-1-オ-g 各論-Ⅲ-1-オ-n 各論-Ⅲ-1-オ-o 各論-Ⅲ-2-カ-c 各論-Ⅲ-2-カ-d

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 各論Ⅲ：顎・口腔領域の疾患（病理学）

授業の一般目標： 正確な診断を行うために、腫瘍性疾患と腫瘍類疾患の病理組織診断について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2) 歯源性腫瘍の分類と病理学的特徴について説明できる。
- 3) 非歯源性腫瘍の分類と病理学的特徴について説明できる。
- 4) 唾液腺腫瘍の歯源性腫瘍の分類と病理学的特徴について説明できる。
- 5) 腫瘍類似疾患の分類と病理学的特徴について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- 事前学修項目：
 1) 歯源性腫瘍の分類
 2) 非歯源性腫瘍の分類
 3) 唾液腺腫瘍の分類
 4) 腫瘍類似疾患の分類
 ・事前学修時間：30分
- 事後学修項目：
 1) 歯源性腫瘍の病理学的特徴
 2) 非歯源性腫瘍の病理学的特徴
 3) 唾液腺腫瘍の病理学的特徴
 4) 腫瘍類似疾患の病理学的特徴
 ・事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
10月23日	3時限	各論-Ⅲ-3-ウ-k

担当者 *内田 貴之

テーマ： 各論Ⅲ 顎口腔領域の疾患

授業の一般目標： 顎関節症に対する診断および治療計画立案ができるようになるために、顎関節症の各病態に合わせた治療方針を理解する。

到達目標 S B O s :

- 1) 「顎関節咬合科での臨床経験に基づき 以下の内容を教授する 」
- 2) 歯科疾患と顎関節疾患とを鑑別できる。
- 3) 顎関節症における画像診断結果を説明できる。
- 4) 顎関節の病態分類について説明できる。
- 5) 各病態における特徴を説明できる。
- 6) 各病態に対する治療方針を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：9月10日の顎関節の授業で配布したプリント事

前学修時間：20分事後学修項目：顎関節症について復習する。

事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
10月28日	1時限	必修-5-ア-a 必修-5-ア-b

担当者 平塚 浩一

テーマ： 必修5：人体の正常構造・機能（生化学）

授業の一般目標： 全身・口腔の必修レベルの内容を再確認することにより知識を統合する。

到達目標SBOs：

- 1) 生体構成成分の構造・機能を説明できる。
- 2) ゲノム、遺伝子、染色体を説明できる。
- 3) 細胞・細胞小器官の構造と機能を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：課題別講義プリントを見直し曖昧な点を押さえておくこと。
事前学修時間：120分
事後学修項目：課題別講義プリントと各種試験問題の再確認。
事後学修時間：180分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月28日	2時限	総論-II-5-I-a

担当者 平塚 浩一

テーマ： 総論II：正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（生化学）

授業の一般目標： 全身・口腔の必修レベルの内容を再確認することにより知識を統合する。

到達目標SBOs：

- 1) う蝕の成り立ちが説明できる。
- 2) 炎症が説明できる。
- 3) 細胞外基質が説明できる。
- 4) 骨リモデリングが説明できる。
- 5) 歯の成分が説明できる。
- 6) 唾液の成分とその機能が説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：課題別講義プリントを見直し曖昧な点を押さえておくこと。
事前学修時間：120分
事後学修項目：課題別講義プリントと各種試験問題の再確認。
事後学修時間：180分

講義日	時限	国試出題基準
10月29日	1時限	必修-5-ア-d 必修-5-ア-e 必修-5-ア-c

担当者 玉村 亮

テーマ： 必修5 人体の正常構造・機能（組織・発生学）

授業の一般目標： 人体の構造を理解するために、器官を構成する4大組織について学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 上皮組織について説明できる。
- 2) 支持組織について説明できる。
- 3) 筋組織について説明できる。
- 4) 神経組織について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：4大組織について
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学修項目：4大組織について配布プリントや教科書を用いて復習する。
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月29日	2時限	総論-II-5-イ-a 総論-II-5-イ-b 総論-II-4-オ-b 総論-II-4-オ-c 総論-II-8-エ-a

担当者 玉村 亮

テーマ： 総論II 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（組織・発生学）

授業の一般目標： 口腔の構造を理解するために、構成する細胞・組織についての基本的知識を学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 歯の構造について説明できる。
- 2) 歯周組織の構造について説明できる。
- 3) 唾液腺の構造について説明できる。
- 4) 舌・扁桃の構造について説明できる。
- 5) 口腔組織の加齢変化について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・準備学修項目：口腔の構造（歯・歯周組織・舌・唾液腺など）について
- ・準備学修時間：60分
- ・事後学修項目：口腔の構造（歯・歯周組織・舌・唾液腺など）について配布プリントや教科書を用いて復習する。
- ・事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
10月30日	1時限	総論-Ⅱ-4-イ-b 必修-5-ア-e 総論-Ⅱ-4-ウ-a 総論-Ⅱ-4-ウ-b 総論-Ⅱ-4-ウ-c 総論-Ⅱ-4-カ-a 総論-Ⅱ-4-キ-b

担当者 松野 昌展

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（解剖学）

授業の一般目標： 頭蓋骨の構造に関する基本的な知識を習得することにより、筋の付着、神経の分布を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 頭蓋冠の構造を説明できる。
- 2) 頭蓋底の構造を説明できる。
- 3) 咀嚼筋の構造を説明できる。
- 4) 舌骨筋群の構造を説明できる。
- 5) 脳神経の分布を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：課題別講義を復習する。
事前学習時間：30分
事後学習項目：講義内容を再確認する。
事後学習時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月30日	2時限	総論-Ⅱ-4-オ-a 総論-Ⅱ-4-エ-a 総論-Ⅱ-4-エ-b 総論-Ⅱ-4-エ-c 総論-Ⅱ-4-オ-b 総論-Ⅱ-4-オ-c 総論-Ⅱ-4-オ-d 総論-Ⅱ-4-キ-b

担当者 松野 昌展

テーマ： 総論Ⅱ：正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢（解剖学）

授業の一般目標： 頭頸部の内臓の構造を理解する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔の構造を説明できる。
- 2) 舌の構造を説明できる。
- 3) 唾液腺の構造を説明できる。
- 4) 咽頭の構造を説明できる。
- 5) 喉頭の構造を説明できる。
- 6) 鼻腔と副鼻腔の構造を説明できる。
- 7) 頭頸部の循環器系の構成を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学習項目：頭頸部の内臓を復習する。
事前学習時間：30分
事後学習項目：講義内容を再確認する。
事後学習時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
10月31日	1時限	必修-5-A-e

担当者 吉垣 純子

テーマ： 必修5：人体の正常構造・機能（生理学）

授業の一般目標： 人体の機能を理解するために、循環，呼吸，自律神経，内分泌を学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 血圧調節を説明できる。
- 2) 機能中枢を説明できる。
- 3) 呼吸によるガス分圧調節を説明できる。
- 4) ホルモンの分泌臓器と作用機序を説明できる。
- 5) 自律神経による機能調節を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：各臓器の機能について復習しておく。
- ・事前学修時間：60分
- ・事後学修項目：循環および呼吸の異常による疾病と症状をまとめる。
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
10月31日	2時限	必修-5-A-e

担当者 吉垣 純子

テーマ： 必修5：人体の正常構造・機能（生理学）

授業の一般目標： 摂食機能を理解するために、口腔感覚，顎反射，唾液，嚥下を学修する。

到達目標SBOs：

- 1) 口腔感覚の特徴を説明できる。
- 2) 顎反射の成立機構を説明できる。
- 3) 唾液分泌機構を説明できる。
- 4) 嚥下機構を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：神経伝導路について復習しておく。
- ・事前学修時間：30分
- ・事後学修項目：口腔感覚の伝導路および顎反射の反射弓をまとめる。
- ・事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
11月02日	1時限	必修-7-ア-d 必修-7-ア-c 必修-7-ア-f 必修-7-ア-h 必修-7-ア-i 必修-7-ア-j 総論-III-1-イ-a 総論-III-1-ウ-d

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 必修7・総論III：炎症、退行性病変、進行性病変、循環障害

授業の一般目標： 病因・病態を理解するために、炎症、退行性病変、進行性病変及び循環障害に関する病理学的知識について学習する。

到達目標SBOs：

- 1) 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2) 炎症の5徴候と病理学的意義について説明できる。
- 3) 炎症の病因・病態について述べるができる。
- 4) 炎症の経過と病理組織学的分類(各型分類)と病態について解説できる。
- 5) アレルギー、自己免疫疾患及び膠原病の分類と病理学的特徴について解説できる。
- 6) 萎縮、変性及び壊死・アポトーシスの病理学的特徴について説明できる。
- 7) 循環障害の病理学で特徴を説明できる。
- 8) 再生・修復、増生及び化生について解説できる。
- 9) 創傷治癒機転を説明できる。
- 10) 移植の基本的な病理学的特徴を解説できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1) 炎症、退行性病変、循環障害及び進行性病変について
・事前学修時間：60分
事後学修項目：
1) 炎症の病理学的特徴
2) 退行性病変の病理学的特徴
3) 循環障害の病理学的特徴
4) 進行性病変の病理学的特徴
・事後学修時間：120分

講義日	時限	国試出題基準
11月02日	2時限	必修-7-ア-g 必修-7-ア-b 必修-7-イ-i 総論-III-1-ク-d 総論-III-1-ク-e 総論-III-2-ア-a 総論-III-2-ア-d 総論-III-2-ア-e

担当者 *宇都宮 忠彦

テーマ： 必修7・総論III：腫瘍・嚢胞・先天異常

授業の一般目標： 病因・病態を理解するために、腫瘍、嚢胞及び先天異常の病理学的知識を習得する。

到達目標SBOs：

- 1) 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。
- 2) 腫瘍の定義について述べるができる。
- 3) 腫瘍の病理組織学的分類について説明できる。
- 4) 腫瘍発生の諸段階と転移について説明できる。
- 5) 口腔・顎・顔面領域に後発する代表的な腫瘍の病理学的特徴について解説できる。
- 6) 嚢胞の定義と分類について説明できる。
- 7) 嚢胞の病理組織学的特徴について解説できる。
- 8) 腫瘍及び嚢胞と関連する先天異常について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：
1) 腫瘍の定義と分類
2) 良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別
3) 嚢胞の分類
・事前学修時間：60分
事後学修項目：
1) 腫瘍の病理組織学的分類
2) 嚢胞の病理組織学的特徴
・事後学修時間：120分

講義日	時限	国試出題基準
11月04日	1時限	必修-12-コ-a 必修-12-コ-b 必修-12-コ-c 総論-VII-8-ア-b 総論-VII-8-ア-c 総論-VII-8-イ-d 総論-VII-8-イ-e

担当者 松本 裕子

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（薬理学），総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 治療の基礎を理解するために，薬物療法の基本的事項に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 薬物の作用部位・作用機序を説明できる。
- 2) 薬物動態を説明できる。
- 3) 薬物相互作用を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：薬理学に関連する歯科医師国家試験過去問を解き、何が理解できていないか確認する。
- ・事前学修時間：30分
- ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。
- ・事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月04日	2時限	必修-12-コ-a 必修-12-コ-b 必修-12-コ-c 総論-VII-8-ア-b 総論-VII-8-ア-c 総論-VII-8-イ-d 総論-VII-8-イ-e

担当者 松本 裕子

テーマ： 必修12：治療の基礎・基本手技（薬理学），総論VII：治療（薬理学）

授業の一般目標： 治療の基礎を理解するために，薬物療法の基本的事項に関する知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 薬物の作用部位・作用機序を説明できる。
- 2) 薬物動態を説明できる。
- 3) 薬物相互作用を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

- ・事前学修項目：薬理学に関連する歯科医師国家試験過去問を解き、何が理解できていないか確認する。
- ・事前学修時間：30分
- ・事後学修項目：授業時配布プリントの内容確認と整理。
- ・事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
11月05日	1時限	必修-1 2-セ-a 必修-1 2-セ-b 必修-1 2-セ-c 必修-1 2-セ-d 必修-1 2-セ-e

担当者 谷本 安浩

テーマ： 必修1 2：治療の基礎・基本手技（歯科理工学）

授業の一般目標： 歯科材料を適切に使用するために、その基礎的な性質を学修する。

到達目標SB0s：

- 1) 生体材料の力学的、物理的および化学的性質について説明できる。
- 2) 生体材料の生物学的性質および生体安全性について説明できる。
- 3) 切削・研削・研磨用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 4) 印象材の種類、組成および性質について説明できる。
- 5) 歯科用石膏の種類、組成および性質について説明できる。
- 6) 歯科用ワックスの種類、組成および性質について説明できる。
- 7) 成形修復材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 8) 予防歯科材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 9) 歯内療法関連材料の種類、組成および性質について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（必修の基本的事項、歯科材料・機器）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月05日	2時限	必修-1 2-セ-f 必修-1 2-セ-g 必修-1 2-セ-h 必修-1 2-セ-i 必修-1 2-セ-j

担当者 谷本 安浩

テーマ： 必修1 2：治療の基礎・基本手技（歯科理工学）

授業の一般目標： 歯科材料を適切に使用するために、その基礎的な性質を学修する。

到達目標SB0s：

- 1) 歯冠用レジンの種類、組成および性質について説明できる。
- 2) 義歯材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 3) 義歯床用アクリルレジンの変形の原因およびその対策について説明できる。
- 4) 歯科精密鑄造の原理と鑄造欠陥の発生原因およびその対策について説明できる。
- 5) 歯科用CAD/CAMの特徴について説明できる。
- 6) 歯科接着技術における歯質、金属およびセラミックスの被着面処理法について説明できる。
- 7) 歯科矯正用材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 8) 歯科インプラント用材料および骨補填材料の種類、組成および性質について説明できる。
- 9) 組織工学用膜材料の種類、組成および性質について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SB0sについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（必修の基本的事項、歯科材料・機器）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

講義日	時限	国試出題基準
11月06日	1時限	必修-5-イ-a 必修-5-イ-c 必修-5-ア-f

担当者 栞原 紀子、*齋藤 真規

テーマ： 必修5：人体の正常構造・機能（感染免疫学）

授業の一般目標： 全身・口腔の常在微生物叢を理解するために、構成する微生物の特徴を学修する。

到達目標SBOs：

- 1)細菌、ウイルス、真菌、原虫について違いが説明できる。
- 2)微生物の構造、性状について説明できる。
- 3)感染症の種類と起因する病原体を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：配布プリントの再確認

事前学修時間：60分

事後学修項目：常在微生物叢の場所と構成する微生物について復習する。

事後学修時間：60分

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月06日	2時限	必修-5-ア-f 必修-5-イ-c

担当者 *齋藤 真規、栞原 紀子

テーマ： 必修5：人体の正常構造・機能（感染免疫学）

授業の一般目標： 口腔領域における宿主と微生物との関わりを理解するために、生体防御機構について学修する。

到達目標SBOs：

- 1)臨床経験に基づき以下の内容を教授する。
- 2)唾液、歯肉溝滲出液の抗菌物質を説明できる。
- 3)口腔領域における免疫応答について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：これまでの配布プリントの再確認

事前学修時間：60分

事後学修項目：講義内容について総復習する。

事後学修時間：60分

講義日	時限	国試出題基準
11月07日	1時限	必修-4-イ-a 総論-I-1-エ-b 総論-I-1-エ-d 必修-4-ア-d 必修-4-ア-e 必修-4-ア-f 必修-4-イ-b 必修-4-イ-c

担当者 *有川 量崇

テーマ： 必修4：予防と健康管理・増進（衛生学）

授業の一般目標： 歯科医師として、高齢社会における歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な地域保健、地域医療の知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 地域保健活動を説明できる。
- 2) 医療計画、健康増進計画を説明できる。
- 3) 健康増進と疾病予防を説明できる。
- 4) 地域保健にかかる法規と制度を説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（必修の基本的事項）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

=====

講義日	時限	国試出題基準
11月07日	2時限	必修-4-ウ-b 総論-I-1-ウ-f 総論-I-2-エ-a 総論-I-2-エ-c 必修-3-ア-a 必修-3-ア-b 必修-3-ア-d 必修-4-エ-a

担当者 *有川 量崇

テーマ： 必修4：予防と健康管理・増進（衛生学）

授業の一般目標： 歯科医師として、歯科保健・医療を取り巻く変化に対応するために必要な予防と健康管理の知識を修得する。

到達目標SBOs：

- 1) 公衆衛生活動・地域保健活動について説明できる。
- 2) 地域保健活動の進め方について説明できる。
- 3) 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務について説明できる。
- 4) 予防手段について説明できる。
- 5) 口腔健康管理について説明できる。

準備学修項目と準備学修時間：

事前学修項目：SBOsについて教科書および過去に配布した講義プリントを確認する。

事前学修時間：1時間

事後学修項目：講義で配布したプリントの内容（必修の基本的事項）を整理・復習する。

事後学修時間：1時間

齒科醫師國家試験 出題基準

平成30年版

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

「必修の基本的事項」（約 22%）

1	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム	約	2%
2	社会と歯科医療	約	11%
3	チーム医療	約	3%
4	予防と健康管理・増進	約	5%
5	人体の正常構造・機能	約	16%
6	人体の発生・成長・発達・加齢	約	5%
7	主要な疾患と障害の病因・病態	約	12%
8	主要な症候	約	10%
9	診察の基本	約	7%
10	検査・臨床判断の基本	約	11%
11	初期救急	約	2%
12	治療の基礎・基本手技	約	13%
13	一般教養的事項	約	3%

「歯科医学総論」（約 28%）

総論Ⅰ	保健・医療と健康増進	約	21%
総論Ⅱ	正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢	約	17%
総論Ⅲ	病因、病態	約	9%
総論Ⅳ	主要症候	約	4%
総論Ⅴ	診察	約	7%
総論Ⅵ	検査	約	13%
総論Ⅶ	治療	約	16%
総論Ⅷ	歯科材料と歯科医療機器	約	13%

「歯科医学各論」（約 50%）

各論Ⅰ	成長・発育に関連した疾患・病態	約	20%
各論Ⅱ	歯・歯髄・歯周組織の疾患	約	24%
各論Ⅲ	顎・口腔領域の疾患	約	24%
各論Ⅳ	歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害	約	24%
各論Ⅴ	高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療	約	8%

※ 歯科医学各論において、出題割合の約 6%を歯科疾患の予防・管理に関する項目から出題する。

必修の基本的事項

基準値を理解すべき検査項目 (基準値を明記しない検査項目)

○ 血液学検査

分類	項目
血球検査	赤血球
	ヘモグロビン<Hb>
	ヘマトクリット<Ht>
	白血球
	白血球分画
血小板	
凝固・線溶 ・血小板機能検査	プロトロンビン時間<PT>(PT-INRを含む)

○ 免疫血清学検査

分類	項目
マーカー 炎症	C反応性タンパク<CRP>

○ 生体機能検査

分類	項目
ガス分析 動脈血	pH
	PaCO ₂
	PaO ₂
機能呼吸	経皮的動脈血酸素飽和度<SpO ₂ >

○ 生化学検査

分類	項目
タンパク分画	総タンパク<TP>
	アルブミン<Alb>
色素生体	総ビリルビン
	直接ビリルビン
酵素、アイム	AST
	ALT
成分	尿素窒素<BUN>
	クレアチニン<Cr>
糖代謝関連	{随時}血糖
	空腹時血糖<FBS>
	HbA1c
脂質代謝関連	総コレステロール<TC>
	トリグリセリド<TG>
電解質・酸塩基平衡	Na
	K
微量元素	Fe

○ 栄養学検査

分類	項目
血液生化学検査	総タンパク<TP>
	アルブミン<Alb>

大項目	中項目	小項目
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療 b 医療者の倫理(ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など)
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療(インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンなど) b 患者の権利
2 社会と歯科医療 約11%	ア 患者・障害者のもつ心理社会的問題と背景	a 疾病・障害の概念・構造(社会的関わり)
		b QOL<quality of life>
		c リハビリテーションの理念
		d ノーマライゼーション、バリアフリー
		e 患者・障害者の心理と態度
		f 国際生活機能分類<ICF>、国際障害分類<ICIDH>
		g 疾病構造、健康格差
	イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済	a 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
		b 医療法
		c 介護保険法
		d 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
		e 保健・医療・福祉・介護の制度と職種
		f 地域包括ケアシステム
		g 地域歯科保健活動での職種の連携
		h 国民医療費、社会保障費
	ウ 臨床試験・治験と倫理	a 臨床研究、疫学研究の倫理指針
		b GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>
	エ 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書、同意書
		c クリニカルパス
オ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤	
	b 医療事故の発生要因	
	c 患者の安全管理(誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護)	
	d 医療者の安全管理	
	e 医療危機管理<リスクマネジメント>	
	f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート	
	g 医療安全対策(医薬品・医療機器の安全管理)	
	h 医療事故調査制度	
カ 院内感染対策	a 標準予防策<standard precautions>	
	b 抗菌薬の適正使用<antimicrobial stewardship ; AMS>と薬剤耐性<antimicrobial resistance ; AMR>	
	c 医療廃棄物処理	
	d 院内感染対策委員会	
キ 医療裁判	a 医事紛争、賠償	
	b 医療訴訟(刑事裁判、民事裁判)	
ク 医薬品医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応(報告義務、治療、補償)	

大項目	中項目	小項目	
	ケ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理	
	コ 診療録、診療情報の記録と管理	a 診療に関する記録(診療録、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型)の管理・保存	
		b SOAP(主観的所見、客観的所見、評価、計画)	
		c 個人情報の保護	
		d 診療情報の開示	
3 チーム医療 約3%	ア チーム医療の意義	a 多職種連携	
		b 医科歯科連携	
		c 病診連携	
		d 医療チームの構成員と役割	
	イ チーム医療における歯科の役割	a かかりつけ歯科医	
		b 在宅医療(訪問歯科診療を含む)	
		c 情報提供	
		d セカンドオピニオン	
4 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a 概念	
		b プライマリヘルスケア	
		c ヘルスプロモーション	
		d 健康日本21(第二次)	
		e メタボリックシンドローム	
		f 行動レベル、行動変容	
	イ 地域保健にかかる法規と制度	a 地域保健法、健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律	
		b 母子保健	
		c 学校保健	
		d 産業保健	
		e 成人・高齢者保健	
		f 健康危機管理	
	ウ 予防手段	a フッ化物応用	
		b 保健指導	
		c 口腔清掃	
	エ 口腔健康管理	a 口腔衛生管理のための口腔ケア	
		b 口腔機能維持向上のための口腔ケア	
		c 病期に応じた口腔ケア	
	5 人体の正常構造・機能 約16%	ア 全身・口腔の構造と機能	a 生体構成成分の構造・機能
			b ゲノム、遺伝子、染色体
c 細胞・細胞小器官の構造と機能			
d 組織(上皮組織、結合<支持>組織(血液を含む)、筋組織、神経組織)			
e 器官系(骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系<脈管系>、消化器系(歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系)			
f 免疫(免疫担当細胞、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫)			

大項目	中項目	小項目		
	イ 全身・口腔の生態系	<ul style="list-style-type: none"> a 常在微生物叢 b 微生物の構造・一般性状 c プラーク<口腔バイオフィルム> 		
6 人体の発生・成長・発達・加齢 約5%	ア 人体の発生	<ul style="list-style-type: none"> a 生殖形成、排卵、受精、着床 b 二層性胚盤、三層性胚盤、胚子期、胎児期 		
	イ 人体の発育	<ul style="list-style-type: none"> a 発育区分(出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期) b 発育期の特徴 c 成長・発達の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達) d 小児の生理的特徴 		
	ウ 口腔・顎顔面の成長・発育	<ul style="list-style-type: none"> a 歯・歯列の発育(発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢) b 上顎骨・下顎骨の成長の特徴(成長の時期、骨形成様式) 		
	エ 加齢、老化	<ul style="list-style-type: none"> a 細胞・組織・臓器の加齢現象(歯および口腔を含む) b 高齢者の生理的特徴 c 高齢者の心理的特徴 		
	7 主要な疾患と障害の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念	<ul style="list-style-type: none"> a 健康・疾病の概念 b 先天異常 c 損傷 d 炎症 e 感染症 f 免疫異常 g 腫瘍 h 循環障害 i 代謝障害、萎縮、壊死 j 病的増殖 k 精神・神経疾患 l 放射線の影響 	
			イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念	<ul style="list-style-type: none"> a 歯の硬組織疾患 b 歯髓疾患、根尖性歯周疾患 c 歯周疾患 d 不正咬合 e 咀嚼障害 f 摂食嚥下障害 g 先天異常 h 損傷 i 嚢胞(歯源性、非歯源性) j 腫瘍、腫瘍類似疾患 k 顎関節疾患 l 口腔粘膜疾患 m 唾液腺疾患 n 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患 o 薬物・放射線による有害事象 p 精神・心身医学的疾患

大項目	中項目	小項目
8 主要な症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、脱水、浮腫、けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嘔吐、下痢
	イ 口腔・顎顔面領域の症候	a 一般的症候(疼痛、腫脹、腫瘤、色調の変化、熱感、出血、瘻、硬さの異常、触覚の異常、機能障害(開口障害など))
		b 歯の症候(齶蝕、硬組織欠損、変色、亀裂、破折)
		c 歯髄・根尖歯周組織の症候(自発痛、誘発痛)
		d 歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候(不正咬合)
		f 口腔粘膜の症候
		g 顎骨の症候(形態の異常)
		h 顎関節の症候(関節痛、関節雑音、運動障害)
		i 筋の症候(筋痛、圧痛、運動麻痺、関連痛)
		j リンパ節の症候
		k 唾液腺の症候
		l 感覚異常(味覚、体性感覚)
	ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 貧血に伴う症候(舌炎など)
		b 出血性素因に伴う症候(歯肉出血、抜歯後出血など)
		c 急性白血病に伴う症候(歯肉出血など)
		d 後天性免疫不全症候群<AIDS>に伴う症候(カンジダ症、歯周疾患、毛状様)白板症など)
		e ウイルス感染に伴う症候(水疱など)
		f 結核・梅毒に伴う症候(粘膜斑、潰瘍など)
		g 金属アレルギーに伴う症候
h 糖尿病に伴う症候(口腔乾燥、歯周疾患など)		
i 臓器・造血幹細胞移植に伴う症候(歯肉出血、移植片対宿主病<GVHD>など)		
j 脳血管・神経・筋疾患に伴う症候(摂食嚥下障害など)		
k 他臓器癌に伴う症候(遠隔転移など)		
l 認知症患者、要介護高齢者にみられる症候(カンジダ症、口腔乾燥、摂食嚥下障害など)		
エ 薬物に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 歯の変色、歯肉肥大<歯肉増殖>、多形(滲出性)紅斑、抗腫瘍薬による口内炎、菌交代現象<菌交代症>に伴う症候、顎骨壊死、唾液分泌量減少・増加、味覚異常	
9 診察の基本 約7%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
		b 心理社会的側面(プライバシー、尊厳)・苦痛への配慮
		c 自己紹介、患者の確認
		d 患者への説明・声かけ・例示
	イ 基本手技	a 視診、触診、打診、聴診
		b 患者の体位(立位、座位、半坐位、仰臥位、側臥位)
		c 術者の姿勢・位置

大項目	中項目	小項目
	ウ 医療面接	a 意義、目的(医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)
		b マナー(身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応)
		c 聴取事項(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望)
	エ 全身の診察	a 全身の外観(体格、栄養、姿勢、歩行、発語)
		b 意識状態、精神状態、認知機能
		c バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧、体温)
	オ 口腔・顎顔面の診察	a 顔貌、顔色、皮膚
		b 口腔粘膜
		c 所属リンパ節
		d 唾液腺
		e 顎関節・筋(下顎運動)
	カ 歯列・咬合状態の診察	a 歯列弓の形態・大きさ
		b 前歯部の被蓋・咬合状態
		c 臼歯部の咬合状態
	キ 歯・歯周組織の診察	a 歯と修復物の所見
b 歯髄・根尖歯周組織の症状		
c 歯周組織の症状		
10 検査・臨床判断の基本 約11%	ア 意義と目標	a 診断
		b 治療効果の判定、治療経過の評価
		c スクリーニング、医療情報の収集
	イ 検査の安全性	a 実施(必要性)の説明
		b 患者・検体の確認
		c 検査の合併症・リスク
	ウ 基準値と結果の解釈	a 基準範囲の概念
		b 生理的変動、異常値と原因
		c 性差、年齢差
		d 症候・病歴(既往歴、投与薬物)との関連
	エ 検体検査の種類	a 一般臨床検査
		b 血液学検査
c 生化学検査		
d 免疫血清学検査		
e 微生物学検査		
オ 口腔・顎顔面の検査	a 硬組織・歯髄・根管の検査	
	b 歯周組織の検査	
	c 顎関節の検査	
	d 筋の検査	
	e 唾液腺の検査	
	f 口腔機能の検査	
	g 感覚(味覚、体性感覚)の検査	

大項目	中項目	小項目	
	カ 画像検査	a 放射線の性質と作用	
		b エックス線撮影装置、検出器、撮影補助器材	
		c 放射線の防護・管理	
		d エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線検査)	
		e CT(単純、造影)	
	キ 病理学検査	a 細胞診	
		b 組織診	
	ク 根拠に基づいた医療 <EBM>	a 意義、患者への適用	
		b システマティックレビュー、メタ分析<メタアナリシス>	
		c 診療ガイドライン	
		d 臨床疫学的指標(アウトカム、リスク比、オッズ比)	
		e 費用対効果	
	11 初期救急 約2%	ア 救急患者の診察	a 救急処置を要する症状および病態(心停止、失神、ショック、けいれん、頭痛、運動麻痺、呼吸困難、胸痛、アレルギー症状、誤飲、誤嚥)
			b バイタルサインの把握
			c 意識障害の評価
d 病態の評価と疾患(全身的偶発症を含む)の鑑別			
イ 救急処置		a 一次救命処置<BLS>	
		b 静脈路確保、酸素療法、救急医薬品	
12 治療の基礎・基本 手技 約13%	ア 治療の基本	a 意義と目標(アウトカム)	
		b 種類と特性(原因療法、対症療法、保存療法、根治療法、緩和療法)	
		c 治療の場(外来、入院、在宅医療(訪問歯科診療を含む))	
	イ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境	
		b 患者の体位	
		c コミュニケーション	
		d チーム医療	
	ウ 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット	
		b 治療に用いる基本的器材	
	エ 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法	
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作	
		c 手術室	
		d 標準予防策<standard precautions>	
	オ 注射法の種類	a 皮内	
		b 皮下	
		c 筋肉内	
		d 静脈内	
	カ 麻酔法	a 局所麻酔	
		b 全身麻酔	
		c 精神鎮静法	
	キ 創傷の処置	a 洗浄、消毒	
		b 止血	
		c 縫合	

大項目	中項目	小項目
	ク 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置	a 抜歯 b 歯の硬組織疾患の治療 c 歯内療法 d 歯周治療 e 歯の欠損の治療 f 不正咬合の治療
	コ 薬物療法	a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む) b 薬物動態 c 薬物投与(連用および併用を含む)
	サ 栄養療法	a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養(経腸栄養、胃瘻<PEG>)
	シ 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復(咀嚼機能、摂食嚥下機能、構音機能) b 口腔機能管理 c コミュニケーションと社会参加
	ス 患者管理の基本	a 口腔環境の評価(口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態、唾液、味覚) b 全身管理に留意すべき疾患・対象(皮膚・粘膜疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器・リンパ系疾患、泌尿器・生殖器疾患、精神疾患、神経疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー性疾患、感染症、小児疾患など) c 日常生活動作<ADL>の評価
	セ 歯科材料・機器	a 基本的性質 b 診療用器械、切削・研削工具、研磨材 c 印象用材料 d 模型用材料、ワックス e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 f 歯冠修復・義歯用材料 g 成形技術・機器 h 接着用材料、接着処理 i 歯科矯正用材料 j 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料
13 一般教養的事項 約3%	ア 医学史、歯科医学史	
	イ 医学・医療に関する人文・社会科学・自然科学・芸術などに関連する一般教養的知識や考え方	
	ウ 歯科医療に必要な基本的医学英語	

齒科医学総論

総論 I 保健・医療と健康増進〔約21%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 健康の保持・増進と社会保障の仕組み	ア 健康・疾病・障害の概念	a 健康の概念	
		b 健康に関わる要因	
		c 社会環境の変化	社会的決定要因
		d 疾病の自然史と対応	
		e 障害の概念と対応	
	イ 口腔と全身の健康増進	a 口腔の環境・機能	
		b 歯への沈着物	
		c 健康診断、口腔の診察・検査、スクリーニング検査	歯科疾患のリスク評価
		d 健康教育・学習、保健指導、健康相談	
		e 禁煙指導・支援	
	ウ 保健・医療・福祉・介護の法規と制度	a 医事衛生法規	
		b 保健衛生法規	
		c 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規	
		d 予防衛生法規	
		e 薬事衛生法規	
		f 地域保健関連機関	
		g 福祉施設、介護施設	
		h 医療施設	
		i 医療関係職種	
		j 福祉・介護の制度と職種	
		k 医療連携、チーム医療	
		l 保健・医療・福祉・介護の制度と連携	
	エ 地域保健、地域医療	a 公衆衛生活動、地域保健活動	医療政策を含む
		b 医療計画、健康増進計画	
		c ヘルスプロモーション	
		d 地域保健活動の進め方	
		e 都道府県・市町村・保健所の歯科保健業務	
		f プライマリヘルスケア	
		g かかりつけ歯科医機能	
		h 救急・災害時等の歯科保健医療対策	トリアージを含む
		i へき地医療	
		j 在宅医療	訪問歯科診療を含む
		オ 地域包括ケアシステム	a 医療と介護の連携
b 介護予防、生活支援			
c 地域包括支援センター			

大項目	中項目	小項目	備考
2 ライフステージ別にみた保健・福祉の制度	ア 母子保健、母子歯科保健と児童福祉	a 現状、動向	
		b 母性保健	
		c 母子歯科保健の意義	
		d 妊産婦の歯科保健	
		e 乳幼児の歯科保健と健康診査	
		f 児童福祉制度	
		g 児童虐待への対応	
	イ 学校保健、学校安全、学校歯科保健	a 現状、動向	
		b 学校保健の領域・内容	
		c 学校保健関係者	
		d 学校歯科保健教育	
		e 学校歯科保健管理	
		f 組織活動	
		g 学校安全	
	ウ 産業保健、産業歯科保健	a 現状、動向	
		b 労働安全衛生管理	
		c 業務上疾病、作業関連疾患	
		d 健康診断、事後措置	
		e 産業歯科保健の意義	
		f 産業歯科保健活動	
		g 職業性歯科疾患	
	エ 成人保健、成人歯科保健	a 現状、動向	
		b 特定健康診査、特定保健指導	
		c 成人歯科保健、成人の口腔保健管理	
	オ 高齢者保健、高齢者歯科保健	a 現状、動向	
		b 高齢者の特性	
		c QOL<quality of life>、日常生活動作<ADL>	
d 高齢者歯科保健、高齢者の口腔管理			
e 日常生活支援事業、介護予防			
カ 障害児・障害者の保健・福祉	a 現状、動向		
	b 障害児・障害者の健康保持・増進		
	c 障害の種類と支援	身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む)	
	d 自立支援と福祉の制度		
	e 障害児・障害者の歯科保健医療		
3 歯科法医学	ア 死因の究明	a 死体解剖と死因究明制度	
		b 死後変化	
		c 個人識別、身元確認	
4 社会保障と医療経済	ア 社会保障と医療経済	a 社会保障制度	
		b 医療保険、介護保険	
		c 医療経済と国民医療費	

大項目	中項目	小項目	備考
5 国際保健	ア 国際保健	a 世界の保健・医療の問題と方向性	
		b 国際保健、医療協力	
6 疫学と調査	ア 疫学とその応用	a 疫学の概念	
		b 疫学指標	
		c 統計解析	
		d 因果関係の成立	
		e 観察研究、介入研究	
		f 臨床疫学	
		g 歯科集団検診	
	イ 指標と調査	a 歯科領域における統計指標と疫学調査	
		b 人口統計、保健統計	
	ウ 口腔疾患の疫学要因	a 齲蝕の疫学要因	
		b 歯周疾患の疫学要因	
		c 不正咬合の疫学要因	
		d 口腔癌の疫学要因	
7 感染症対策	ア 感染症対策と疫学	a 感染症の疫学	
		b 感染症の予防	
		c 院内感染対策	
8 国民栄養と食生活・食育指導	ア 国民栄養と食品保健	a 国民栄養の現状	
		b 食事摂取基準	
		c 食生活指針	
	イ 食育と口腔保健	a 食育基本法	
		b 食の安全性と機能性	
		c 食の機能と口腔保健	
9 環境保健	ア 環境保健対策	a 環境要因と健康	
		b 地球環境の変化、健康影響	
		c 環境汚染、公害の発生要因、健康影響	
		d 環境汚染の評価と対策	
		e 廃棄物処理	
		f 放射線と健康	
		g 生活環境と健康	水、大気、温熱、騒音、振動など

総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 [約17%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 細胞・組織・器官の構造と機能	ア 皮膚・粘膜系	a 表皮、上皮、真皮、粘膜固有層、皮下組織、粘膜下組織	
		b 付属器	
	イ 運動・骨格系	a 骨	頭頸部を除く
		b 筋	頭頸部を除く
	ウ 呼吸器・循環器系	a 気道、肺、呼吸筋	呼吸運動を含む
		b 心臓、脈管系	
	エ 消化器系	a 消化管	消化管ホルモンを含む
		b 肝臓、胆道、膵臓	
	オ 造血器系	a 骨髄	
	カ 泌尿器・生殖器系	a 腎臓、尿路	
		b 体液・電解質調節	
		c 生殖器、妊娠	
	キ 神経系	a ニューロン、グリア	神経伝達物質の合成・分泌・作用を含む
		b 感覚機能	
c 運動機能			
d 自律機能			
e 高次神経機能		記憶、学習、睡眠、情動を含む	
ク 内分泌系	a 内分泌器官		
	b ホルモンの合成・分泌・作用		
2 生態系	ア 常在微生物		
3 免疫	ア 免疫系担当臓器・細胞		
	イ 抗原処理と抗原提示		
	ウ 自然免疫		
	エ 獲得免疫	a 体液性免疫	
		b 細胞性免疫	
オ 粘膜免疫			
4 頭頸部の構造	ア 頭頸部の部位		
	イ 頭頸部の骨格系	a 頭蓋	
		b 頭蓋骨(関節、靭帯を含む)	舌骨、耳小骨を含む
		c 頸椎	
	ウ 頭頸部の筋系	a 顔面筋<表情筋>	
		b 咀嚼筋	
		c 浅頸筋	胸鎖乳突筋、広頸筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群
		d 頸筋膜(浅葉、気管前葉、椎前葉、頸動脈鞘)	
	エ 頭頸部の脈管系	a 動脈系	
		b 静脈系	
c リンパ系			

大項目	中項目	小項目	備考
	オ 頭頸部の内臓系	a 口腔	口唇、口腔前庭、固有口腔、口蓋、口{腔}底、頬、口峽
		b 唾液腺	
		c 舌、扁桃	
		d 咽頭、喉頭	
	カ 頭頸部の神経系	a 脳神経	
		b 脊髄神経	頭頸部に分布するものに限る
	キ 頭頸部の局所解剖	a 画像解剖	
b 組織隙<筋膜隙>			
5 歯と歯周組織の構造	ア 歯の形態	a 基本事項	生物学的特性、生歯、歯式、方向用語、歯の外形、歯髓腔の形態、歯根の形態、三歯徴<三表徴>
		b 乳歯	
		c 永久歯	
		d 特殊な形態	
イ 組織と性状	a エナメル質、象牙質、歯髓		
	b 歯周組織		
6 口腔・顎顔面の機能	ア 感覚	a 顔面皮膚、粘膜	
		b 味覚、嗅覚	
		c 象牙質、歯髓、歯根膜	
	イ 運動	a 反射	
		b 顎関節、下顎位、下顎運動	
	ウ 食物摂取	a 咬合接触、咬合様式	
		b 吸啜、咀嚼	
		c 嚥下、嘔吐	
	エ 発声、構音		
	オ 唾液分泌	a 唾液の性状・機能	
		b 分泌機構	
7 口腔の生態系	ア 常在微生物叢		
	イ プラーク<口腔バイオフィルム>		
8 人体の成長・発達・加齢	ア 小児の機能	a 運動・感覚機能	
		b 認知・言語機能	
		c 情緒・社会性	
	イ 発育区分における成長・発達の評価	a 身体成長の評価法	Kaup指数、Rohrer指数、BMI
		b 年齢による成長評価法	暦年齢、生理的年齢
		c 精神発達の評価法	精神年齢、発達スクリーニング検査
	ウ 口腔・顎の機能の発達	a 咀嚼・嚥下機能	
b 唾液分泌機能			
c 味覚			

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 加齢・老化による 口腔・顎顔面の変 化	a 器質的変化 b 機能的変化	
9 口腔・顎顔面の 発生・成長・発 育	ア 頭頸部の形成	a 鰓弓<咽頭弓>	
		b 顎顔面(口蓋、顎関節を含む)	形成異常を含む
		c 舌、唾液腺	
	イ 歯・歯周組織の形 成と歯の萌出	a 初期発生	歯堤、歯胚
		b 歯の硬組織形成	
		c 歯周組織形成	
		d 歯の萌出	歯根形成を含む
	ウ 骨組織代謝	a 軟骨内<軟骨性>骨化、膜内<膜 性>骨化	
		b 形成、吸収、改造<リモデリン グ>	細胞間情報伝達を含む
		c 石灰化機構	血清カルシウム調節機構 を含む
	エ 頭部の成長・発育	a 頭蓋	
		b 歯列、咬合	

総論Ⅲ 病因、病態〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病因、病態	ア 内因、外因		
	イ 細胞・組織の傷害	a 代謝障害(変性)	
		b 萎縮	
		c 細胞死	
	ウ 修復と再生	a 肥大、過形成(増生)	
		b 化生	
		c 再生	
		d 創傷治癒	
		e 異物処理	
	エ 循環障害	a 全身の循環障害	
		b 局所の循環障害	
	オ 炎症	a 概念	
		b 病因	
		c 分類と病態	
		d 炎症に関与する細胞	
	カ 感染症	a 概念	
		b 病原微生物	
		c 感染症	
	キ 免疫異常	a 概念	
		b 免疫不全	
		c 自己免疫疾患	
		d アレルギー反応(過敏症)	
	ク 腫瘍	a 概念	
		b 疫学	
		c 病因	
		d 分類と病態	
		e 組織学的構造	
f 前癌状態、前癌病変			
g 腫瘍と宿主の関係			
ケ 疼痛	a 侵害受容性疼痛		
	b 神経障害性疼痛		
	c 心理社会的要因による疼痛		
	d 口腔・顔面領域の疼痛		
コ 中毒、放射線障害	a 中毒の発生要因・病態生理		
	b 放射線の影響		
サ 医原病	a 検査・診断に伴う医原病		
	b 治療に伴う医原病		
2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態	ア 主な病因・病態	a 先天異常	
		b 歯・歯周組織の疾患	
		c 口腔粘膜の疾患	
		d 軟組織の疾患	
		e 顎骨・顎関節の疾患	
		f 唾液腺の疾患	
		g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患	

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 歯の喪失に伴う変化・障害	a 口腔の変化	
		b 顎骨の変化	
		c 顔貌の変化	
		d 顎関節の変化	
		e 全身への影響	
3 個体の死	ア 概念		
	イ 判定		

総論Ⅳ 主要症候〔約4%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 全身の症候	ア 一般的症候		発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫
	イ 皮膚・粘膜系		発疹
	ウ 呼吸器・循環器系		呼吸困難、息切れ、喘鳴、チアノーゼ、動悸、胸痛、不整脈、血圧上昇・低下
	エ 消化器系		食思<欲>不振、悪心、嘔吐、下痢、黄疸
	オ 運動・骨格系、造血器系、免疫系		貧血、出血傾向
	カ 泌尿器・生殖器系		
	キ 心理、精神機能		認知症、睡眠障害
	ク 神経系、感覚器系		頭痛、高次脳機能障害
	ケ 内分泌系(代謝、栄養を含む)		低血糖
2 口腔・顎顔面の症候	ア 歯、歯髄、根尖歯周組織		
	イ 歯周組織		
	ウ 歯列、咬合		
	エ 口腔粘膜		
	オ 顎骨		
	カ 顎関節		
	キ 舌、軟組織、唾液腺、リンパ節		
	ク 顔面		
	ケ 口腔機能障害		開口・閉口障害、咀嚼障害、摂食嚥下障害、発声・構音・発語障害、味覚障害、感覚障害、口腔乾燥

総論V 診察 [約7%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 診察総論	ア 医療面接		
	イ 診察の基本		
	ウ 全身の診察		
	エ 救急時の診察		
	オ 根拠に基づいた医療<EBM>		
	カ 評価の基本	a バイタルサイン b 意識レベル c 重症度と緊急度	Japan coma scaleを含む
2 小児への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理社会的特徴		
	ウ 診察の基本		
	エ 年齢に応じた対応		
	オ 発達障害のある小児への対応	a 自閉スペクトラム症[自閉症スペクトラム障害]<ASD> b 注意欠如・多動症[注意欠陥多動性障害]<ADHD> c 限局性学習症[学習障害<LD>]	
	3 障害者への対応	ア 障害の概念 イ 障害の分類 ウ 行動調整 エ 診察 オ 歯科治療上留意すべき事項 カ 健康支援、患者管理	a 身体障害 b 知的障害 c 精神障害 発達障害を含む
4 妊婦・授乳婦への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 歯科治療上留意すべき事項		
5 高齢者への対応	ア 診察	a 診察時の注意	
		b 既往歴・合併症の評価	
	イ 機能評価	a 日常生活動作<ADL>	
		b 手段的日常生活動作<IADL>	
		c 認知機能	
		d 運動機能	
		e 摂食嚥下障害	
		f 要介護度	フレイルを含む
	ウ 栄養評価	a 栄養アセスメント	
		b 栄養支援チーム<NST>	

大項目	中項目	小項目	備考
6 全身疾患を有する者への対応	ア 留意すべき疾患	a 呼吸器疾患	肺炎、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、喘息など
		b 循環器疾患	高血圧症、心疾患、脳血管疾患など
		c 消化器疾患	肝疾患など
		d 血液・造血器疾患	
		e 泌尿器・生殖器疾患	慢性腎不全など
		f 精神・行動の障害	認知症、統合失調症など
		g 神経・運動器疾患	Alzheimer型認知症、関節リウマチ、筋委縮性側索硬化症など
		h 内分泌・代謝疾患	糖尿病、脂質異常症など
		i 感染症	結核、ウイルス性肝炎など
		j 悪性腫瘍	
	イ 身体的特徴		
	ウ 心理社会的特徴		
	エ 医療情報の収集		
	オ 診察		
カ 医療連携、チーム医療			

総論VI 検査〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔検査、顎口腔機能検査	ア 口腔検査	a 歯の硬組織の検査	
		b 歯髄・根管の検査	
		c 歯周組織検査	口腔清掃状態の検査を含む
		d 舌・口腔粘膜検査	
		e 歯列・咬合の検査	
		f 口臭検査	
	イ 顎口腔機能検査	a 下顎運動検査	
		b 顎関節・筋機能検査	筋電図検査を含む
		c 咀嚼機能検査	
		d 唾液・唾液腺検査	
		e 嚥下機能検査	
		f 発声・構音・発語検査	
		g 鼻咽腔閉鎖機能検査	
		h 感覚(味覚、体性感覚)の検査	
2 画像検査	ア エックス線画像の原理	a 電離放射線	電磁放射線、粒子放射線、放射能、放射性同位元素
		b 放射線の単位・測定	
	イ 画像検査における医療情報	a 医療画像システム<PACS>	画像情報DICOM規格、デジタル画像処理
		ウ 医療放射線被曝の防護と管理	a 正当化、最適化、線量限度
	b 患者と医療従事者の放射線防護		医療被曝、職業被曝、公衆被曝
	エ エックス線単純撮影	a コントラストと分解能	
		b 口内法エックス線検査	
		c パノラマエックス線検査	
		d 顎顔面頭蓋部エックス線検査	
	オ CT	a 原理、特徴、適応	造影CT、歯科用コーンビームCT
		カ MRI	a 原理、特徴、適応
	キ シンチグラフィ		a 原理、種類、適応
		ク 超音波検査	a 原理、特徴、適応
	ケ 画像検査の安全管理	a 強磁場・電磁波・超音波の生体作用	
		b 造影剤と副作用	
	コ 画像の鑑別診断	a 正常画像と主要疾患画像	
		b 全身疾患の画像所見	胸部エックス線写真

大項目	中項目	小項目	備考
3 検体検査	ア 検体検査	a 一般臨床検査	尿、糞便など
		b 血液学検査	血球検査、凝固・線溶系検査、血液型・輸血関連検査、赤沈など
		c 生化学検査	タンパク、生体色素、酵素、含窒素成分、糖代謝関連物質、脂質代謝関連物質、電解質など
		d 免疫血清学検査	炎症マーカー、自己抗体、血清学的診断など
		e 微生物学検査	染色法、培養検査、薬剤感受性など
		f 病理学検査	
		g 染色体・遺伝子検査	
	イ 検体の採取・保存・確認		個人情報管理
4 生体機能検査	ア 臓器機能検査	a 呼吸機能検査	パルスオキシメトリ、スパイロメトリ
		b 心機能検査	心電図、心臓超音波検査
		c 消化管機能検査	
		d 肝・胆道機能検査	色素排泄試験
		e 内分泌・代謝機能検査	
		f 腎機能検査	クレアチニンクリアランス、糸球体濾過率
	イ 電気生理学検査	a 脳波検査	
	b 筋電図・神経伝導検査	徒手筋力テスト	
5 その他の検査	ア 皮膚検査	a 皮膚アレルギー検査	プリックテスト、皮内テスト、針反応テスト、パッチテスト
		b 皮膚知覚検査	二点識別検査、SWテスト
	イ 睡眠検査	a ポリソムノグラフィ	

総論Ⅶ 治療〔約16%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 治療の基礎	ア 治療計画	a 治療計画の立案・提示	インフォームド・コンセント
		b 治療の評価	主訴の改善
	イ 治療の種類	a キュアとケア	
		b 原因療法と対症療法	
		c 保存療法と外科療法	
		d 緩和療法	
	ウ ライフステージ別の治療	a 小児の治療	
		b 成人の治療	
		c 高齢者の治療	
	エ 全身管理に留意すべき疾患・対象	a 皮膚・粘膜系	
		b 呼吸器系	呼吸不全、気管支喘息、誤嚥性肺炎
		c 循環器系	心筋梗塞、狭心症、不整脈、高血圧症、深部静脈血栓症、心不全、心内膜炎、弁膜症
		d 消化器系	消化性潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変
		e 血液・造血器・リンパ系	貧血、白血病、出血性素因
		f 泌尿器・生殖器系	慢性腎臓病
		g 精神系	認知症、統合失調症、うつ病
		h 神経系	脳内出血、脳梗塞、くも膜下出血、てんかん、Alzheimer病、Parkinson病
		i 内分泌系	糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺疾患
		j 免疫・アレルギー	免疫不全、膠原病、アレルギー性疾患、後天性免疫不全症候群<AIDS>
		k 感染症	ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症
l 小児			
m その他	アルコール・薬物依存症、妊婦、臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症>		
オ 障害者の治療			
2 歯・歯周組織・咬合の治療	ア 基本的術式	a 歯の硬組織疾患の治療	
		b 歯内療法	
		c 歯周治療	
		d 歯の欠損の治療	
		e 不正咬合の治療	
3 救急医療	ア 一次救命処置	a 心肺蘇生	
		b AEDの使用	
		c 気道異物に対する対応	

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 二次救命処置	a 高度な気道管理	
		b 静脈路確保と薬物療法	血管収縮薬、抗不整脈薬
c 電氣的治療			
	ウ 誤飲・誤嚥に対する対応		
4 手術・周術期の管理、麻酔	ア 手術	a 手術の適応と時期	
		b 消毒と滅菌	標準予防策<standard precautions>
		c 切開法	
		d 止血法、縫合法	
		e 穿刺、切開排膿、ドレナージ	
		f 抜歯、口腔の小手術	偶発症を含む
		g 移植術、再建手術	
		h 創傷の治療	
	イ 周術期の管理	a 口腔環境の評価	
		b 全身状態の評価	
		c 全身的併発症、合併症	
		d 術前管理	
		e 術中管理	
		f 術後管理	疼痛管理、感染予防、栄養管理
		g 外科的侵襲に対する反応	
	ウ 麻酔	a 局所麻酔	局所麻酔薬、血管収縮薬
		b 全身麻酔	吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、麻酔前投薬、筋弛緩薬とその拮抗薬、麻酔補助薬、日帰り全身麻酔
		c 術前・術中・術後管理とモニタリング	
		d 精神鎮静法	吸入鎮静法、静脈内鎮静法
5 緩和医療とターミナルケア	ア 疼痛管理とQOL<quality of life>	a 癌性疼痛	
		b ペインコントロール	オピオイド<医療用麻薬>
	イ 緩和ケア		
ウ ターミナルケア			
6 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念		急性期、回復期、維持期<生活期>、自立生活支援
	イ リハビリテーションの技術	a 摂食嚥下障害のリハビリテーション	咀嚼障害、摂食嚥下障害
		b 発声・構音・発語障害のリハビリテーション	
		c 口腔機能管理	
7 放射線治療	ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎	a 放射線感受性、生物学的効果、放射線の治療効果	
	イ 口腔領域の放射線治療	a 治療の意義と目的	
b 種類、適応、特徴			

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 放射線治療患者の有害反応と口腔管理	a 有害反応の種類と特徴 b 有害反応に対する口腔管理	
8 薬物療法	ア 薬物の選択	a 薬物療法の種類と特徴	
		b 薬効	薬物の作用部位・作用機序
		c 薬物動態	吸収、分布、代謝、排泄
	イ 用法と用量	a 投与経路と剤形の種類と特徴	
		b 用量と反応	
		c 服薬計画・指導	
		d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策	
		e 薬物適用の注意	薬物の連用・併用、薬物・食物・嗜好品との相互作用、薬効に影響を及ぼす身体的要因
	ウ 疾患に応じた薬物治療	a 鎮痛薬	
		b 抗炎症薬	
		c 抗感染症薬	
		d 抗腫瘍薬	
		e 代謝改善薬、ビタミン	
f 止血薬、抗血栓薬			
g 齲蝕予防薬			
9 その他の治療法	ア 物理療法		温熱、寒冷、電気、マッサージ、超音波治療
	イ 運動療法		筋機能療法
	ウ 凍結療法		
	エ レーザー療法		
	オ 免疫療法		
	カ 酸素療法		高気圧酸素療法
	キ IVR<Interventional Radiology>		動注化学療法、動脈塞栓術
	ク 食事・栄養療法		経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養
	ケ 輸液・輸血療法		
	コ 精神療法		一般心理療法、カウンセリング、自律訓練法、行動療法、認知行動療法

総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 生体材料の科学	ア 材料の種類	a 有機材料	
		b 無機材料	
		c 金属材料	
		d 複合材料	
	イ 材料の性質	a 物理的性質	
		b 機械的性質	
		c 化学的性質	
		d 生物学的性質と生体安全性	
2 診療用器械・器具	ア 診療用器械	a 歯科用ユニット	
		b エアタービン	
		c マイクロモーター	
		d レーザー装置	
イ 切削・研削工具、研磨材			
3 印象用材料	ア 非弾性印象材	a 酸化亜鉛ユージノール	
		b モデリングコンパウンド	
		c 印象用石膏、印象用ワックス	
	イ 弾性印象材	a アルジネート	
		b 寒天	
		c シリコンゴム、ポリエーテルゴム	
ウ 機能印象材			
エ 印象用トレー			
オ 咬合採得用材料			
4 模型用材料、ワックス	ア 歯科用石膏	a 普通石膏、硬質石膏、超硬質石膏	
	イ 歯科用ワックス	a インレーワックス	
		b パラフィンワックス、シートワックス、レディキャストイングワックス、スティッキーワックス、ユーティリティーワックス	
5 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料	ア 成形修復用材料	a コンポジットレジン	
		b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
	イ 予防填塞用材料		
	ウ 歯内療法用材料	a 根管充填材	
		b 仮封材、裏層材、覆髄材	
6 歯冠修復・義歯用材料	ア 高分子材料	a 加熱重合型アクリルレジン、常温重合型アクリルレジン	
		b ポリスルフォン、ポリカーボネート	
	イ セラミックス	a 陶材	金属焼付用陶材を含む
		b ジルコニア、アルミナ、ガラスセラミックス	

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 金属材料	a 金合金	
		b 銀合金、金銀パラジウム合金	
		c 陶材焼付用合金	
		d コバルトクロム合金	
		e チタン、チタン合金	
		f ステンレス鋼、歯科用磁性合金	
	エ 複合材料	a 間接修復用コンポジットレジン	
	オ 人工歯		
	カ 義歯床用裏装材		軟質裏装材を含む
	キ 支台築造材		ファイバーポストを含む
7 成形技術・機器	ア レジンの成形技術・機器	a 加熱重合	
		b 常温重合(流し込み成形)	
		c 光重合	
		d 加熱・加圧成形	
	イ セラミックスの成形技術・機器	a 陶材の築盛・焼成	
		b 陶材と金属の接合	
	ウ 金属の成形技術・機器	a 鋳造工程	
		b 石膏系埋没材、リン酸塩系埋没材	
		c 鋳造精度、鋳造欠陥	
		d ろう付け、ろう材	
		e 溶接、鋳接	
		f 塑性加工、焼なまし	
		g 軟化熱処理、硬化熱処理	
エ CAD/CAM			
8 接着処理・技術	ア 接着性モノマー		
	イ 歯質接着処理	a エナメル質被着面処理	
		b 象牙質被着面処理	
ウ 歯科材料接着処理	a セラミックス被着面処理		
	b 金属被着面処理		
9 装着用材料	ア 合着・接着用セメント	a レジンセメント	
		b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント	
		c ポリカルボキシレートセメント	
		d リン酸亜鉛セメント	
	イ 仮着用セメント		酸化亜鉛ユーージノールセメント、EBAセメントを含む
10 歯科矯正用材料	ア 線材料		ステンレス鋼、コバルトクロム合金、ニッケルチタン合金、チタンモリブデン合金
	イ バンド、ブラケット、チューブ		

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ エラスティック材、コイルスプリング		
	エ 接着用材料		
	オ 床用レジン、熱可塑性樹脂		
11 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料	ア 口腔インプラント用材料		
	イ 骨補填用材料		
	ウ 骨接合・顎骨再建用材料		
	エ 細胞遮断膜		

齒科醫學各論

各論 I 成長・発育に関連した疾患・病態 [約20%]

大項目	中項目	小項目	備考
1 口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常	ア 口腔・顎顔面の先天異常	a 顔面裂	
		b 口唇裂・口蓋裂	
	イ 遺伝性疾患(主に口腔に症状がみられる)	a Beckwith-Wiedemann症候群<EMG症候群>	
		b Marfan症候群	
		c Papillon-Lefèvre症候群	
		d エナメル質形成不全{症}	
		e 骨形成不全症	
		f 先天性表皮水疱症	
		g 先天性外胚葉形成不全<先天性外胚葉異形成症>	
		h 象牙質形成不全症	
		i 象牙質異形成症	
		j 低フォスファターゼ症	
	ウ 遺伝性疾患(主に頭蓋・顎顔面に症状がみられる)	a Apert症候群<尖頭合指症>	
		b Crouzon症候群<頭蓋顔面異骨症>	
		c Robin シーク エンス <Pierre Robin症候群>	
		d Treacher Collins症候群<下顎顔面異骨症>	
		e 鎖骨頭蓋骨異形成症<鎖骨頭蓋異骨症>	
		f 第一第二鰓弓症候群	Goldenhar症候群を含む
		g 軟骨無形成症	
	エ 染色体異常	a Down症候群	
b Turner症候群			
2 歯の異常	ア 数の異常	a 過剰歯	
		b 先天欠如	
	イ 形態の異常	a 癒合歯、癒着歯、双生歯	
		b 中心結節	
		c 歯内歯	
		d 矮小歯	円錐歯
		e 巨大歯	
		f Hutchinsonian歯、Fournier歯	
		g タウロドント	
		h 歯根の異常	
	i 異所性エナメル質	エナメル滴、エナメル突起	
	ウ 構造の異常	a 歯のフッ素症	
		b エナメル質形成不全{症}	Turnerの歯、エナメル質減形成症
		c 象牙質形成不全{症}	

大項目	中項目	小項目	備考
3 口腔・顎顔面の疾患	ア 歯の疾患	a 歯牙腫	
		b 異所萌出	
		c 埋伏歯	
		d 低位乳歯	
		e 早期萌出乳歯	先天歯、新生児歯
		f 萌出遅延	
	イ 口腔軟組織の疾患	a 口角びらん	
		b 先天性下唇瘻・口角瘻	
		c 萌出嚢胞	
		d 歯肉嚢胞	上皮真珠
		e Bednarアフタ	
		f 小帯異常	上唇小帯異常、舌小帯異常
		g 粘液嚢胞	粘液瘤、ラヌーラ、Blandin-Nuhn {腺}嚢胞<前舌腺嚢胞>
		h 巨舌症、小舌症	
		i Riga-Fede病	
	ウ ウイルス感染による疾患	a 単純疱疹	疱疹性歯肉口内炎、口唇ヘルペスを含む
		b 水痘・带状疱疹	
		c 手足口病	
		d ヘルパンギーナ	
e 麻疹		Koplik斑	
エ 顎関節疾患	a 下顎頭欠損、関節突起発育不全		
	b 下顎頭肥大		
	c 顎関節疾患	顎関節強直症を含む	
4 歯の外傷	ア 歯の外傷の状況と影響	a 乳歯と永久歯外傷の疫学	
		b 外傷の分類	
		c 外傷歯と後継永久歯への影響	
	イ 診察と診断、治療方針		
	ウ 乳歯・幼若永久歯の外傷の処置と経過		
エ 小児の歯の外傷の予防	a スポーツによる歯の外傷の予防		
	b 児童虐待と歯の外傷		
5 歯列・咬合異常の予防	ア 歯列・咬合異常の要因		
	イ 保隙(静的咬合誘導)	a 保隙装置の分類	
		b 保隙装置の適応症	
		c 保隙装置の製作法	
	ウ 動的咬合誘導		
エ 口腔習癖とその対応			

大項目	中項目	小項目	備考
6 不正咬合の病因・病態	ア 正常咬合の概念と成立の条件		
	イ 不正咬合の種類		
	ウ 不正咬合の分類		
	エ 不正咬合の原因		
	オ 不正咬合による障害		
7 不正咬合の診断	ア 診察		
	イ 検査		
	ウ 診断		抜歯・非抜歯の判定を含む
	エ 治療計画		
8 矯正力と固定	ア 狭義の矯正力		
	イ 顎整形力		
	ウ 生体反応		
	エ 固定		歯科矯正用アンカースクリューを含む
9 矯正装置	ア 唇舌側弧線装置	a リンガルアーチ<舌側弧線装置>	
		b トランスパラタルアーチ	
		c Nanceのホールディングアーチ	
		d タングクリブ	
	イ 顎外固定装置	a ヘッドギア	
		b チンキャップ<オトガイ帽装置>	
		c 上顎前方牽引装置	
	ウ マルチブラケット装置		
	エ 拡大装置	a 急速拡大装置	
		b クワドヘリックス装置	
	オ 機能的矯正装置	a アクチバトール	
		b バイオネーター	
		c Fränkel装置	
		d リップバンパー	
	カ 床矯正装置	a 咬合挙上板	
		b 咬合斜面板	
c スライディングプレート			
キ 保定装置	a Hawleyタイプリテーナー		
	b Beggタイプリテーナー<ラップアラウンドリテーナー、サーカムフェレンシャルタイプリテーナー>		
	c トゥースポジショナー		
	d 犬歯間保定装置		
10 不正咬合の治療	ア 不正咬合の予防		
	イ 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療		

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 永久歯列期の不正咬合の治療		
	エ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療		
	オ 顎変形症の治療		
	カ 補綴・歯周治療との併用		
	キ 治療中の管理		
	ク 保定		
	ケ 偶発症		

各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患〔約24%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯の硬組織疾患	ア 歯の硬組織疾患の病因と病態	a 齲蝕の病因	脱灰、再石灰化を含む
		b 齲蝕のリスクファクター	
		c tooth wear<歯の損耗>	咬耗症、摩耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損
		d 象牙質知覚過敏症	
		e 歯の変色・着色	
		f 歯の亀裂・破折	
	イ 歯の硬組織疾患の予防・管理	a 齲蝕の予防・管理	
		b 齲蝕の予防効果の評価	
		c 初期齲蝕の診断	
		d フッ化物応用	
		e 食生活指導	
		f 口腔清掃指導	
		g 歯の変色・着色予防	
	ウ 歯の硬組織疾患の治療	a 乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法	
		b 永久歯の直接修復法	
		c 永久歯の間接修復法	
		d 窩洞形成法	
		e 象牙質・歯髄保護法	
		f 補修修復	
		g 歯の漂白	
		h 身体的・社会的・心理的要因と保存修復	
エ 小児の歯の硬組織疾患	a 乳歯齲蝕		
	b 幼若永久歯齲蝕		
	c 齲蝕のリスクファクター		
	d 非齲蝕性硬組織疾患		
オ 高齢者の歯の硬組織疾患	a 根面齲蝕		
	b 非齲蝕性硬組織疾患		
2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患	ア 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病因と病態	a 歯髄疾患	
		b 根尖性歯周疾患	
		c 歯内-歯周疾患	
		d 歯の外傷	
		e 内部吸収、歯根外部吸収	
		f 根尖性歯周疾患が全身に及ぼす影響	

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の治療	a 歯髄保存療法	
		b 歯髄除去療法	
		c 根尖性歯周疾患の治療	緊急処置を含む
		d 根管処置	根管形成、根管の化学的清掃、根管貼薬、仮封
		e 根管充填	
		f 根未完成歯の治療	
		g 外科的歯内療法	
		h 内部吸収歯・歯根外部吸収歯の治療	
		i 外傷歯の治療	
		j 偶発症と安全対策	
	ウ 小児の歯髄疾患・根尖性歯周疾患	a 乳歯の歯髄疾患と治療	
		b 乳歯の根尖性歯周疾患と治療	
		c 幼若永久歯の歯髄疾患と治療	
		d 幼若永久歯の根尖性歯周疾患と治療	
	エ 高齢者の歯髄疾患・根尖性歯周疾患	a 高齢者の歯髄疾患と治療	
b 高齢者の根尖性歯周疾患と治療			
3 歯周疾患	ア 歯周疾患の病因と病態	a 歯肉病変	
		b 歯肉病変のリスクファクター	
		c 歯周炎	
		d 歯周炎のリスクファクター	
		e 壊死性歯周疾患	
		f 咬合性外傷	
		g 歯周組織の膿瘍	
		h 歯肉退縮	
		i 歯周-歯内病変	
		j 歯周疾患と健康の関わり	
	イ 歯周疾患の予防・管理	a 歯肉炎の予防・管理	
		b 歯周炎の予防・管理	
		c 予防効果の評価	
		d 口腔清掃指導	
e 禁煙指導・支援			
f 生活習慣指導			

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 歯周疾患の治療	a 急性症状を有する歯周疾患への対応	
		b 歯周基本治療	
		c 咬合性外傷に対する治療	
		d 歯周外科治療(切除療法、組織付着療法、歯周組織再生治療)	エナメルマトリックスタンパク質
		e 歯周外科治療(歯周形成手術)	
		f 根分岐部病変の治療	
		g 口腔機能回復治療	
		h 薬物療法	
		i メインテナンス、SPT<supportive periodontal therapy>	
		j 全身疾患を有する者の歯周疾患治療	
	エ 小児期にみられる歯周疾患	a 小児の歯肉病変・歯周炎の特徴	
		b 小児の歯肉病変・歯周炎への対応	
オ 高齢者が有する歯周疾患			

各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患〔約24%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療	a 口唇裂・口蓋裂	鼻咽腔閉鎖不全、顔面裂、言語治療を含む
		b 口唇・頬部の異常	
		c 舌・口底の異常	
		d 歯肉・口蓋の異常	
		e 小帯の異常	
	イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療	a 口腔軟組織の損傷	
		b 顔面軟組織の損傷	
	ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療	a 歯冠周囲炎<智歯周囲炎>	
		b 口腔軟組織の炎症	歯肉膿瘍、歯槽膿瘍、骨膜下膿瘍、蜂窩織炎<蜂巣炎>、組織隙の炎症、歯性扁桃周囲炎を含む
		c 所属リンパ節の炎症	
		d 歯性上顎洞炎	
		e 歯性全身感染症	菌血症、敗血症、歯性病巣感染、全身性炎症反応症候群<SIRS>、感染性心内膜炎
		f 肉芽腫性炎	放線菌症、口腔結核、口腔梅毒
	エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療	a 歯原性嚢胞	
		b 非歯原性嚢胞	
	オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	a 歯原性良性腫瘍	
		b 非歯原性良性腫瘍	
		c 口唇癌	
		d 舌癌	
		e 頬粘膜癌	
		f 口蓋癌	
		g 歯肉癌	
		h 口底癌	
		i 上顎洞癌	
		j 軟組織の肉腫	
		k 白血病	
		l 悪性リンパ腫	
		m 悪性黒色腫	
		n 前癌病変、前癌状態	上皮異形成<上皮性異形成>
		o 腫瘍類似疾患	エプーリス、義歯性線維腫、薬物性歯肉増殖症など
	カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療	a 外科療法	再建術、頸部郭清術を含む
b 化学療法		分子標的薬を含む	
c 放射線療法			
d 免疫療法			

大項目	中項目	小項目	備考
	キ がん治療患者の管理	a がんの告知	
		b 治療時の患者管理・生活習慣指導	口腔衛生管理、口腔ケアを含む
		c 社会復帰	
		d 末期癌患者の管理	
		e 緩和医療	
	ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療	a ウイルス性口内炎	単純疱疹、帯状疱疹、手足口病、ヘルパンギーナを含む
		b 天疱瘡、類天疱瘡	
		c 多形{滲出性}紅斑	
		d 薬物性口内炎	粘膜・皮膚・眼症候群<Stevens-Johnson症候群>、中毒性表皮壊死剥離症<TEN>を含む
		e 全身性エリテマトーデス<SLE>	
		f 慢性再発性アフタ	
		g Behçet病	
		h 壊死性潰瘍性歯肉口内炎、壊疽性口内炎	
		i 口腔扁平苔癬	
		j 口腔カンジダ症<鵝口瘡>	
		k 白板症	
		l 紅板症	
		m 内因性色素沈着	メラニン色素沈着症、Peutz-Jeghers症候群、Addison病などを含む
		n 外因性色素沈着	
		o 色素性母斑	
		p von Recklinghausen病<神経線維腫症Ⅰ型>	
		q 口腔乾燥症	
		r 貧血を伴う舌炎	鉄欠乏性貧血、Plummer-Vinson症候群、Hunter舌炎を含む
		s 溝{状}舌	
		t 毛舌	黒毛舌を含む
		u 地図状舌	
		v 正中菱形舌炎	
		w 肉芽腫性口唇炎	Melkersson-Rosenthal症候群を含む
x 口角炎、口角びらん			
2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 顎顔面の変形をきたす疾患・病態・診断	a 顎変形症	
		b 下顎頭欠損	
		c 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群	莖状突起過長症、筋突起過長症を含む

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 顎顔面骨の変形に対する治療	a 顎矯正手術	
		b 補綴前外科手術	
		c 骨移植術<骨増量術>	上顎洞底挙上術
		d 骨延長術	
		e 下顎頭形成術	
	ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療	a 歯の亀裂・破折・脱臼	歯の再植を含む
		b 歯槽骨骨折	
		c 下顎骨骨折	関節突起骨折を含む
		d 上顎骨骨折	吹き抜け骨折を含む
		e 頬骨・頬骨弓骨折	吹き抜け骨折を含む
		f 鼻骨骨折	
		g 口腔上顎洞瘻	
	エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療	a 歯槽骨炎、顎骨炎	
		b 顎骨骨膜炎	
		c 顎骨骨髓炎	
		d 歯性上顎洞炎	
		e 放射線性骨壊死	
		f 薬剤関連顎骨疾患	薬剤関連顎骨壊死・壊疽・骨髓炎
		g 外歯瘻、内歯瘻	
		h 顎骨周囲軟組織の炎症	歯肉膿瘍、骨膜下膿瘍、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎
	オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療	a 歯原性嚢胞	
		b 非歯原性嚢胞	
	カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	a 歯原性良性腫瘍	
		b 歯原性悪性腫瘍	
		c 非歯原性良性腫瘍	
		d 非歯原性悪性腫瘍	
		e 骨関連病変	外骨症、骨隆起を含む
		f 線維骨性病変	線維性{骨}異形成症、骨性異形成症、骨形成線維腫
g 巨細胞性病変			
キ 顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断と治療	a 顎骨腫瘍の外科療法		
	b 顎骨の再建		
	c 顎顔面補綴		
	d 顎顔面インプラント治療		

大項目	中項目	小項目	備考
3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療	a 発育異常	
		b 異所性唾液腺	
		c 唾液腺損傷	唾液瘻、Frey症候群、外来異物を含む
		d 唾液腺炎、唾液管炎	ウイルス性唾液腺炎を含む
		e Sjögren症候群	
		f 粘液嚢胞	粘液瘤、ラヌーラ、Blandin-Nuhn(腺)嚢胞<前舌腺嚢胞>
		g 良性腫瘍	
		h 悪性腫瘍	
		i 腫瘍類似疾患	
		j IgG4関連疾患	
		k 唾石症	
		l 口腔乾燥症	放射線障害、薬物副作用を含む
		m 流涎症	
	イ 神経疾患の病態・診断・治療	a 三叉神経痛	
		b 三叉神経麻痺	
		c 顔面神経麻痺	
		d 舌咽神経痛	
		e 舌下神経麻痺	
		f 非菌原性菌痛	
		g 外傷性神経障害	
		h 顔面けいれん	
		i 帯状疱疹後神経痛	
		j 舌痛症	
	ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療	a 下顎頭欠損、関節突起発育不全	
		b 下顎頭肥大	
		c 関節突起骨折	
		d 顎関節脱臼	
		e 非感染性顎関節炎	外傷性(顎)関節炎を含む
		f 感染性顎関節炎	急性化膿性顎関節炎
		g 顎関節リウマチ<リウマチ性顎関節炎>	
		h 痛風性顎関節炎	
		i 腫瘍および腫瘍類似疾患	骨軟骨腫、滑膜性骨軟骨腫症を含む
		j 顎関節強直症	
k 顎関節症		咀嚼筋痛障害、顎関節痛障害、顎関節円板障害、変形性顎関節症	
l 咀嚼筋腱・腱膜過形成			

大項目	中項目	小項目	備考
4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療	ア 口腔・顎顔面に異常をきたす骨系統疾患・症候群	a Apert症候群<尖頭合指症>	
		b Beckwith-Wiedemann症候群<EMG症候群>	
		c Crouzon症候群<頭蓋顔面異骨症>	
		d Down症候群	
		e Gardner症候群	
		f Marfan症候群	
		g McCune-Albright症候群<多骨性線維性{骨}異形成症>	
		h Melkersson-Rosenthal症候群	
		i Peutz-Jeghers症候群	
		j Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群>	
		k Robinシークエンス<Pierre Robin症候群>	
		l Sturge-Weber症候群	
		m Treacher Collins症候群<下顎顔面異骨症>	
		n von Recklinghausen病<神経線維腫症Ⅰ型>	
		o 基底細胞母斑症候群	
		p 口腔・顔面・指趾症候群<OFD症候群>	
		q 骨形成不全症	
		r 鎖骨頭蓋骨異形成症<鎖骨頭蓋異骨症>	
	s 第一第二鰓弓症候群	Goldenhar症候群を含む	
	t 大理石骨病		
	イ 口腔症状を呈するウイルス感染症	a ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症	後天性免疫不全症候群<AIDS>、毛状<様>白板症を含む
		b 風疹	
		c 麻疹	
		d 水痘・帯状疱疹	Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群>を含む
		e 単純疱疹	
		f 手足口病	
		g ヘルパンギーナ	
	ウ 口腔症状を呈する細菌感染症	a 梅毒	
		b 破傷風	
		c 結核	
	エ 口腔症状を呈するアレルギー性疾患・免疫異常	a 金属アレルギー	口腔苔癬様病変を含む
		b アレルギー性紫斑病	
		c Quincke浮腫	遺伝性血管性浮腫を含む
		d 移植片対宿主病<GVHD>	

大項目	中項目	小項目	備考
	オ 口腔症状を呈する自己免疫疾患	a 天疱瘡、類天疱瘡	
		b 関節リウマチ	
		c 全身性エリテマトーデス<SLE>	
		d 特発性血小板減少性紫斑病<免疫性血小板減少性紫斑病><ITP>	
		e 悪性貧血	
	カ 口腔症状を呈する内分泌障害、代謝障害	a 先端巨大症<下垂体性巨人症>	
		b 成長ホルモン分泌不全性低身長<下垂体性小人症>	
		c 甲状腺機能亢進症	
		d 甲状腺機能低下症	
		e 副甲状腺機能亢進症	
		f Cushing病、Cushing症候群	
		g アルドステロン症	
		h Addison病	
		i 糖尿病	
		j アミロイドーシス	
		k 鉄欠乏性貧血	Plummer-Vinson症候群を含む
	キ 口腔症状を呈する栄養障害	a くる病	
		b 壊血病	
	ク 赤血球系疾患	a 貧血	鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血を含む
		b 赤血球増多症	
	ケ 白血球系疾患	a 白血病	
		b 無顆粒球症	
		c 悪性リンパ腫	
		d 多発性骨髄腫	
	コ 出血性素因	a Osler病	
		b アレルギー性紫斑病	
		c 特発性血小板減少性紫斑病<免疫性血小板減少性紫斑病><ITP>	
		d 血小板無力症	
		e 血友病A・B	
		f 播種性血管内凝固症候群<DIC>	
	サ 赤血球系疾患・白血球系疾患・出血性素因の診断と患者に対する観血的治療、歯科治療時の留意点		
シ 口腔・顎顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態	a 気分障害	抑うつ障害、双極性障害、心的外傷およびストレス因関連障害など	
	b 不安障害		
	c 身体表現性障害	身体症状症	
	d 心身症		

大項目	中項目	小項目	備考
	ス 全身管理に留意すべき疾患・状態	a 呼吸器疾患	
		b 循環器・脳血管疾患	先天性心疾患、高血圧緊急症を含む
		c 消化器疾患	
		d 血液・造血器疾患	骨髄異形成症候群を含む
		e 泌尿器・生殖器疾患	
		f 精神・心身医学的疾患	
		g 神経・運動器疾患	
		h 内分泌疾患	
		i 代謝性疾患	
		j 免疫疾患	
		k 妊娠	
	セ 歯科治療時の患者管理・麻酔管理	a 術前管理	
		b 術中管理	
		c 術後管理	
	ソ 歯科における全身的偶発症とその対応	a 血管迷走神経反射	
		b 過換気症候群	
		c 局所麻酔薬中毒	
		d アナフィラキシーショック	
		e 血管収縮薬による反応	
		f メトヘモグロビン血症	
g 誤飲、誤嚥			
h 合併する全身疾患の増悪			
5 顎・口腔領域の疾患の予防	ア 生活習慣指導	a がんの予防	
		b 栄養障害の予防	
		c 顎関節疾患の予防	
		d 損傷の予防	マウスガードを含む
		e 口臭の予防	
		f 味覚障害の予防	
		g 口腔乾燥症の予防	
		h 口腔粘膜疾患の予防	禁煙指導・支援

各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害〔約24%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病態	ア 咬合・咀嚼障害		
	イ 摂食嚥下障害		
	ウ 構音・発語障害		
	エ 審美障害		
	オ 心理社会的障害		
	カ 口腔機能障害・口腔顔面痛		
	キ ブラキシズム		
	ク 睡眠時無呼吸		
2 診察、検査、診断	ア 診察		
	イ 検査と評価	a 形態的・審美的評価	
		b 機能的評価	
		c 力学的評価	
		d 身体社会的・心理的評価	
		e 栄養評価	
		f 補綴装置の評価	生物学的要件、機能的要件、形態的要件、力学的要件、咬合力の支持様式、咬合様式、審美的要件、材料的要件を含む
		g 研究用模型による検査	
		h 口腔衛生状態の評価	
		i その他	
ウ 診断		回復の到達目標を含む	
エ 治療計画の立案		治療法の選択を含む	
3 クラウンブリッジによる治療	ア クラウンブリッジの設計		補綴装置の選択、診断用ワックスアップを含む
	イ 臨床操作	a 前処置	
		b 支台歯形成	
		c 支台築造	
		d 印象採得	口腔内スキャナー
		e プロビジョナルレストレーション	
		f 顎間関係の記録	
		g 患者情報の記録と伝達	
		h 口腔内試適	調整方法
		i 装着	装着材料
ウ 技工操作	a ロストワックス法による製作	作業用模型の製作、ワックスパターン形成、埋没、鋳造、ろう付け、熱処理、前装方法、研磨	
	b CAD/CAMによる製作		
4 部分床義歯による治療	ア 義歯の設計	a 設計の原則	
		b 義歯の構成要素	
		c オーバーデンチャー	

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 臨床操作	a 前処置	
		b 印象採得	
		c 顎間関係の記録	
		d フレームワークの試適	
		e ろう義歯の試適	
		f 装着	
	ウ 技工操作	a 個人トレーの製作	
		b 作業用模型の製作	
		c 咬合器装着・調節	
		d サベイング、設計線の記入	
		e フレームワークの製作	
		f 人工歯の選択・排列・削合	
		g 歯肉形成	
		h 埋没、重合	
i 咬合調整(削合)と仕上げ			
5 全部床義歯による治療	ア 義歯の設計		オーバードンチャーを含む
	イ 臨床操作	a 前処置	
		b 印象採得	
		c 顎間関係の記録	
		d ろう義歯の試適	
		e 装着	
	ウ 技工操作	a 個人トレーの製作	
		b 作業用模型の製作	
		c 咬合器装着・調節	
		d 人工歯の選択・排列・削合	咬合様式を含む
		e 歯肉形成	
		f 埋没、重合	
		g 咬合調整(削合)と仕上げ	
	6 インプラント義歯による治療	ア インプラント義歯の設計	a 上部構造の設計
b 埋入計画の立案			
イ 臨床操作		a インプラント埋入手術(一次手術)	一回法、二回法、コンピュータ支援手術、骨造成(骨増生)などの付随手術
		b オッセオインテグレーションの獲得	初期固定(一次固定)、生物学的固定(二次固定)
		c 二次手術	
		d 印象採得	オーブントレー法、クローズドトレー法
		e プロビジョナルレストレーション	荷重時期の選択
		f 顎間関係の記録	
		g 患者情報の記録と伝達	
		h 装着	口腔内試適と装着

大項目	中項目	小項目	備考	
	ウ 技工操作	a セメント固定式上部構造の製作	既製アバットメント、カスタムアバットメント	
		b スクリュー固定式上部構造の製作		
		c インプラントオーバーデンチャーの製作	アタッチメントを含む	
7 特殊な装置による治療	ア 顎顔面補綴装置			
	イ オーラルアプライアンス		オクルーガルアプライアンス、OSAS治療用口腔内装置、下顎前方牽引(保持)装置、ナイトガード	
	ウ 摂食嚥下補助床		舌接触補助床を含む	
	エ 構音補助床		軟口蓋挙上装置、スピーチエイドを含む	
8 指導と管理	ア 口腔衛生指導		禁煙指導・支援、インプラント一次手術前の指導と管理を含む	
	イ 補綴装置に対する指導		義歯の清掃・管理、支台歯・インプラントの清掃・管理、睡眠中の管理を含む	
	ウ 口腔機能向上に関する指導		機能障害の予防を含む	
	エ 栄養指導	a 口腔機能に応じた栄養指導		
	オ リコールとメインテナンス	a ホームケア、プロフェッショナルケア		
		b 残存組織の変化とその対応		リベース、リラインを含む
		c 咬合の変化とその対応		
		d 機能低下とその対応		
		e 補綴装置の破損とその対応		技工操作を含む
		f インプラント支持療法		
カ 治療効果の評価				

各論Ⅴ 高齢者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療〔約8%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 高齢者等の歯科診療で注意すべき疾患・病態・症候	ア 運動障害	a 脳血管疾患	
		b 関節疾患	
		c 骨折	
		d 廃用症候群	
		e 神経・筋疾患	Parkinson病
	イ 認知障害	a 認知症	
	ウ 摂食嚥下障害	a 摂食行為・食物認知障害	
		b 咀嚼障害	
		c 嚥下障害	
	エ 誤嚥性肺炎	a 呼吸器疾患	
		b 胃食道逆流症	
	オ フレイル		サルコペニア
	カ その他		悪性腫瘍、腎尿路疾患
2 老化による口腔・顎顔面領域の症候	ア 機能的変化	a 咀嚼機能	
		b 摂食嚥下機能	
		c 発声・構音機能	
		d 感覚機能	
		e 反射機能	
	イ 形態的变化	a 歯、歯列	
		b 歯槽骨、顎骨	
		c 口腔粘膜、舌、唾液腺	口腔乾燥
d 顎関節、筋			
3 高齢者等に関連した臨床評価・診断・治療計画	ア 全身状態の評価	a 身体状態	日常生活動作<ADL>、手段的日常生活動作<IADL>、Barthel Index<BI>、Functional Independence Measure<FIM>
		b 認知機能	改定長谷川式簡易知能評価スケール<HDS-R>、Mini-Mental State Examination<MMSE>、Functional Assessment Staging<FAST>
		c 心理	
		d 行動	
		e 栄養	
		f 服用薬物	
	イ 口腔機能の評価	a 摂食嚥下機能	VF、VE、頸部聴診法、咳テスト、咀嚼機能検査、舌圧検査、オーラルディアドコキネシス、ブローイング時間、反復唾液嚥下テスト<RSST>、改訂水飲みテスト<MWST>、フードテスト
		b 発声・構音機能	
		c 唾液量	
		d 筋	

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 診断		
	エ 治療計画の策定		
4 高齢者等に関連した予防と管理	ア 歯の喪失予防	a 口腔保健指導	
	イ フレイル予防のための歯科保健管理	a 口腔衛生管理	
		b 口腔機能管理	
		c 栄養管理	
5 高齢者等に関連した歯科診療	ア 歯および歯周疾患への対応		
	イ 歯の欠損への対応		
	ウ 軟組織疾患への対応		
	エ 口腔・顎顔面の硬組織疾患への対応		
	オ 構音障害に対する対応		
	カ 周術期口腔機能管理		
6 摂食嚥下障害への対応(摂食機能療法)	ア 治療的アプローチ	a 間接訓練	
		b 直接訓練	
	イ 代償的アプローチ		
	ウ 環境改善的アプローチ		
	エ 心理的アプローチ		
オ 栄養療法			
7 障害者の歯科治療	ア 基本的対応	a 一般的対応	
		b 行動調整	
	イ 歯科治療上留意すべき事項	a 環境への適応性	
		b 姿勢・異常反射	
		c 呼吸管理	
ウ 口腔疾患の治療			
エ 口腔保健指導			
8 在宅医療、在宅支援	ア 訪問歯科診療	a 訪問歯科診療器材	
		b 保健指導	
	イ 多職種協働		

主な検査項目の表記

主な検査項目の表記

出題に際して、主な検査項目の表記は以下に準拠する。また、略して表記することもある。ただし、出題範囲を示すものではない。

1 一般臨床検査

分類	項目
尿検査	肉眼的所見
	尿量
	比重
	浸透圧
	pH
	尿タンパク
	尿糖
	ウロビリノゲン
	ケトン体
	ビリルビン
	アミラーゼ
	尿潜血
	尿沈渣所見
	細菌検査
	尿細胞診
	白血球反応
	妊娠反応
	微量アルブミン
	レジオネラ抗原
	肺炎球菌抗原
【例】尿所見：尿タンパク 1+、糖(－)、沈渣に赤血球10～20/1視野、白血球多数/1視野、赤血球円柱+。	
糞便検査	肉眼的所見
	顕微鏡検査(虫卵など)
	便潜血反応、免疫学的便潜血検査
	便細菌検査
喀痰検査	肉眼的所見
	細胞診
	細菌検査

分類	項目
脳脊髄液検査	初圧
	圧(Queckenstedt現象)
	肉眼的所見
	細胞数(種類と比率)
	タンパク定量
	糖定量
	IgG%
	ミエリン塩基性タンパク
	クロール定量
	細菌検査
穿刺液検査	細胞診
	オリゴクローナルバンド
	肉眼的所見
	比重
	タンパク定量
	細胞数(種類)
	細胞診
細菌検査	

2 血液学検査

分類	項目
赤沈	赤沈
血球検査	赤血球
	ヘモグロビン<Hb>
	ヘマトクリット<Ht>
	平均赤血球容積<MCV>
	平均赤血球ヘモグロビン<MCH>
	平均赤血球ヘモグロビン濃度<MCHC>
	網赤血球
白血球	

分類	項目
血球検査	白血球分画
	血小板
凝固・線溶・血小板機能検査	末梢血・骨髓血塗抹
	【例】血液所見：赤血球396万、Hb 12.9g/dL、Ht 38%、網赤血球1.2%、白血球7,800(桿状核好中球12%、分葉核好中球51%、好酸球2%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球28%)、血小板20万。
	出血時間
	プロトロンビン時間<PT>(PT-INRを含む)
	活性化部分トロンボプラスチン時間<APTT>
	血漿アンチトロンビン
	トロンビン・アンチトロンビン複合体<TAT>
	血漿フィブリノゲン
	血清FDP
	Dダイマー
検査に関する血液に	赤血球浸透圧抵抗試験
	Ham試験
	連輸血液検査
連輸血液検査	血液型
	交差適合試験<クロスマッチ>

3 生化学検査

分類	項目
タンパク・タンパク分画	総タンパク<TP>
	タンパク分画
	アルブミン<Alb>
	α_1 ・ β_2 -マイクログロブリン
	IgG、IgA、IgM、IgE
	フェリチン
	心筋トロポニンT
	心筋トロポニンI
色素生体	総ビリルビン
	直接ビリルビン

分類	項目
酵素、アイソザイム	AST
	ALT
	LD<LDH>
	ALP
	γ -GT< γ -GTP>
	コリンエステラーゼ<ChE>
	アミラーゼ
	リパーゼ
	CK
	CK-MB
含窒素成分	アンジオテンシン変換酵素<ACE>
	ペプシノゲン
	尿素窒素<BUN>
	クレアチニン<Cr>
糖代謝関連	尿酸<UA>
	アンモニア
	{随時}血糖
	空腹時血糖<FBS>
脂質代謝関連	ブドウ糖負荷試験<OGTT>
	HbA1c
	総コレステロール<TC>
	トリグリセリド<TG>
電解質・酸塩基平衡	HDLコレステロール
	LDLコレステロール
	Na
	K
	Cl
	Ca
	P
Mg	
重金属、微量元素	浸透圧
	Cu
	Fe
	Zn
	総鉄結合能<TIBC>
不飽和鉄結合能<UIBC>	

分類	項目	
ビタミン	ビタミンB ₁	
	ビタミンB ₁₂	
	葉酸	
ホルモン	下垂体	甲状腺刺激ホルモン<TSH>
		成長ホルモン<GH>
		黄体化ホルモン<LH>
		副腎皮質刺激ホルモン<ACTH>
		卵胞刺激ホルモン<FSH>
		プロラクチン<PRL>
		抗利尿ホルモン、バソプレシン<ADH>
	甲状腺	遊離トリヨードサイロニン<FT ₃ >
		遊離サイロキシニン<FT ₄ >
		サイログロブリン
		カルシトニン
	副甲状腺 <small>（上皮下）</small>	副甲状腺ホルモン<PTH>
	副腎	コルチゾール
		アルドステロン
		17α-ヒドロキシprogesteron
		アドレナリン
		ノルアドレナリン
	消化管	ガストリン
	膵島	インスリン
		グルカゴン
		Cペプチド<CPR>
	腎臓	血漿レニン活性<PRA>
		アンジオテンシン
		エリスロポエチン
	性腺・胎盤	エストラジオール<E ₂ >
		エストリオール<E ₃ >
		progesteron
		テストステロン
		絨毛性ゴナドトロピン<hCG>
	心臓	心房性ナトリウム利尿ペプチド<hANP>
		脳性ナトリウム利尿ペプチド<BNP>

分類	項目	
ホルモン	尿中ホルモン	5-ヒドロキシインドール酢酸<5-HIAA>
		遊離コルチゾール
		カテコラミン
		メタネフリン・ノルメタネフリン
		バニルマンデル酸<VMA>
腫瘍マーカー	α-フェトプロテイン<AFP>	
	CEA	
	CA19-9	
	CA125	
	SCC	
	PSA	
マーカー	線維化	KL-6

4 免疫血清学検査

分類	項目	
マーカー	炎症	C反応性タンパク<CRP>
マーカー	感染	プロカルシトニン
感染の抗原・抗体	梅毒血清反応	
	Weil-Felix反応	
	ASO	
	トキソプラズマ抗体	
	寒冷凝集反応	
	マイコプラズマ抗体	
	ウイルス血清反応	
	β-D-グルカン	
	HTLV-1抗体	
	HIV抗体	
HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体		
HCV抗体		
自己抗体	リウマトイド因子<RF>	
	抗CCP抗体	
	MPO-ANCA	
	PR3-ANCA	
	抗核抗体	

分類	項目
自己抗体	抗ssDNA抗体
	抗dsDNA抗体
	抗セントロメア抗体
	抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体<抗ARS抗体>
	抗RNP抗体
	抗Sm抗体
	抗SS-A抗体
	抗SS-B抗体
	抗Jo-1抗体
	抗Scl-70抗体
	抗ミトコンドリア抗体
	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
	抗平滑筋抗体
	抗サイログロブリン抗体
	抗甲状腺ペルオキシダーゼ<TPO>抗体
	抗TSH受容体抗体<TRAb>
	抗GAD抗体
	抗インスリン抗体
	直接・間接Coombs試験
	抗アクアポリン4抗体
抗アセチルコリン受容体抗体	
抗デスモグレイン1抗体、抗デスモグレイン3抗体	
抗BP180抗体	
タンパク免疫	免疫電気泳動
	Bence Jonesタンパク
アレルギーに関する検査	アレルギー検査
	IgE、特異的IgE
	皮膚反応(パッチテスト、プリックテスト、皮内反応)
補体	血清補体価(CH ₅₀)、C3、C4
	免疫複合体
食菌免疫・細胞免疫検査	リンパ球表面抗原検査
	CD4/8比
	好中球機能検査
	リンパ球刺激試験
	ツベルクリン反応

分類	項目
免疫移植	組織適合検査 【例】HLA-B27

5 微生物学検査

分類	項目
病原体検査	細菌検査(塗抹、培養、同定、薬剤感受性試験)
	結核・抗酸菌検査(塗抹、Gaffky号数、培養、感受性試験、核酸検査)
	スピロヘータ
	リケッチア
	クラミジア
	マイコプラズマ
	ウイルス
	真菌
	原虫
	寄生虫
	核酸検査

注) 細菌の学名はイタリック体で、ウイルスはローマン体で表記。

【例】 *Staphylococcus aureus*
poliovirus

6 病理学検査

分類	項目
光顕・電顕標本	
染色法	Hematoxylin-eosin染色<H-E染色> 【例】生検組織のH-E染色標本
	PAS染色 【例】生検組織のPAS染色標本
	PAM染色
	SudanⅢ染色
	Congo-Red染色
	Gram染色 【例】喀痰のGram染色標本
	Ziehl-Neelsen染色

分類	項目
染色法	Grocott染色
	May-Giemsa染色
	【例】骨髄血塗抹May-Giemsa染色
	Papanicolaou染色
	免疫組織化学
	酵素組織化学
	Gomori-Trichrome染色

7 生体機能検査

分類	項目
動脈血ガス分析	pH
	PaCO ₂
	PaO ₂
	HCO ₃ ⁻
	BE
	【例】動脈血ガス分析(room air) : pH 7.41、PaCO ₂ 41 Torr、PaO ₂ 83 Torr、 HCO ₃ ⁻ 25 mEq/L。
呼吸機能	%VC
	FEV ₁ %
	経皮的動脈血酸素飽和度<SpO ₂ >
心機能	{12誘導}心電図検査
	Holter心電図検査
	運動負荷心電図検査
	心臓カテーテル検査
消化器系	唾液分泌検査
	胃液検査
	食道・胃24時間pHモニタリング検査
	食道内圧検査
	肛門内圧検査
	BT-PABA試験
内分泌・代謝機能	インスリン負荷試験
	グルカゴン負荷試験
	ブドウ糖負荷試験
	絶食試験
	TRH負荷試験
	CRH負荷試験

分類	項目
内分泌・代謝機能	GHRH負荷試験
	LHRH負荷試験
	デキサメタゾン抑制試験
	水制限試験
	高張食塩水負荷試験
	ACTH試験
	甲状腺 ¹²³ I摂取率
	フロセミド負荷試験
	PTH負荷試験<Ellsworth-Howard試験>
	プロゲステロン負荷試験
エストロゲン・プロゲステロン負荷試験	
ゴナドトロピン負荷試験	
腎機能	クレアチニンクリアランス
	糸球体濾過率<GFR>
	レノグラム
神経	脳波検査
	針筋電図検査
	末梢神経伝導検査

8 栄養学検査

分類	項目
身体計測	身長
	体重
	Body Mass Index<BMI>
血液生化学検査	総タンパク<TP>
	アルブミン<Alb>
栄養評価	SGA
	MNA

9 口腔検査

分類	項目
歯・歯髄・根管の検査	視診
	透照診
	触診
	打診
	温度診
	麻酔診
	切削診
	歯髄電気診<電気歯髄診断>
	楔応力検査
	細菌培養検査
	レーザー蛍光強度測定
	根管長測定
	DMF
	CFI
齲蝕リスク検査	
口腔清掃状態の検査	OHI
	OHI-S
	PII
	0' LearyのPCR
	PHP
歯周組織・デンタルインプラント周囲組織の検査	動揺度検査
	歯周ポケット検査(デンタルインプラント周囲組織の検査を含む)
	GI
	BI
	SBI
	PMA Index
	GBI
	PDI
	RussellのPI
	CPI
	PPD
	CAL
BOP	
顎間関係の記録	安静空隙利用法<下顎安静位利用法>
	嚙下運動利用法
	発音利用法

分類	項目
顎間関係の記録	最大咬合力利用法
	習慣性閉口路利用法
	ゴシックアーチ描記法
	フェイスボウトランスファー
	下顎運動記録
唾液・唾液腺の検査	唾液分泌能検査{ガム試験、Saxonテストなどと表記}
	唾液成分検査
	唾液腺シンチグラフィ
口臭の検査	官能検査
	ガスクロマトグラフィー検査
	ガスセンサー検査

10 画像検査

分類	検査名	画像名
エックス線撮影	口内法エックス線撮影	～画像 <写真>
	二等分法エックス線撮影	
	平行法エックス線撮影	
	偏心投影法エックス線撮影	
	咬翼法エックス線撮影	
	咬合法エックス線撮影	～画像 <写真>
	Waters法エックス線撮影	
	頭部後前方向エックス線撮影	
	頭部側方向エックス線撮影	
	正面・側面頭部エックス線規格撮影<正面・側面セファロ>	
顎関節エックス線撮影	～画像 <写真>	
胸部エックス線撮影		
	パノラマエックス線撮影	～画像 <写真>
エックス線造影撮影	唾液腺造影検査	～像
	血管造影検査	

分類	検査名	画像名
CT	単純・造影CT	単純・造影CT
	歯科用コーンビームCT<歯科用CBCT>	歯科用コーンビームCT<歯科用CBCT>
MR	単純・造影MRI	単純・造影MRI
超音波検査	超音波検査	～像
	ドプラ超音波検査	～像
核医学検査	骨シンチグラフィ	骨シンチグラム
	唾液腺シンチグラフィ	唾液腺シンチグラム
	シングルフォトンエミッションCT<SPECT>	シングルフォトンエミッションCT<SPECT>
	ポジトロンエミッション断層撮像<PET>	～像<PET>

11 顎口腔機能検査

分類	項目
咀嚼機能検査	咀嚼能力検査
	咬合力検査<咬合圧検査>
	咬合音検査
	筋電図検査
	舌圧検査
嚥下機能検査	嚥下造影検査<VF>
	嚥下内視鏡検査<VE>
	改訂水飲みテスト<MWST>
	反復唾液嚥下テスト<RSST>
	頸部聴診法
	フードテスト

分類	項目
発声・構音・発語検査	呼気持続時間の測定
	発声持続時間の測定
	発語明瞭度検査
	オーラルディアドコキネシス(単音節復唱検査、交互運動能力検査)
	パラトグラム検査
機能検査 鼻咽腔閉鎖	ブローイング検査
	発声言語の聴覚判定
	鼻漏出検査
	鼻咽腔内視鏡検査
味覚検査	電気味覚検査
	濾紙ディスク法
	点滴法{滴下法、全口腔法などと表記}
皮膚知覚検査	痛覚検査
	触覚検査
	温度覚検査
	二点識別検査
睡眠検査	ポリソムノグラフィ

12 内視鏡検査

分類	項目
	{鼻咽腔内視鏡検査、顎関節腔内視鏡検査などと表記}

注) 検査名に下線がある場合は、下線部分を省いて画像名の欄の語を続ける。画像名の欄のないものは、波形名等として下線部分を省いて表記する。

【例】検査名… 超音波検査、心電図検査
画像名… 超音波像、心電図

歯科医学総合講義 6
必修領域 英単語集
(科目別)

**Aランク(最重要) : 和訳、英訳の両方ができる
べき単語(科目名も含む)**

Bランク(重要) : 和訳できるべき単語

Cランク(標準) : 知っておくべき単語

<解剖学 Anatomy>

Aランク

Tooth	歯(複数形 teeth)
dental	歯(学)の
jaw(s)	顎(骨)
mandible	下顎骨
maxilla	上顎骨
incisor	切歯
canine	犬歯
premolar	小臼歯
molar	大臼歯
tongue	舌
lip	口唇

Bランク

mesial	近心
distal	遠心
buccal	頬側
lingual	舌側
palatal	口蓋側
anterior	前
posterior	後
alveolus (-ar)	歯槽

Cランク

pterygoid-	翼状-
------------	-----

<組織学 Histology>

Aランク

enamel	エナメル質
dentin(e)	象牙質
cementum	セメント質
dental pulp	歯髄
tissue	組織

Bランク

epithelial tissue	上皮組織
connective tissue	結合組織
muscle tissue	筋組織
nervous tissue	神経組織

Cランク

stratified squamous epithelium	重層扁平上皮
--------------------------------	--------

pseudostratified ciliated columnar epithelium	多列線毛円柱上皮
simple columnar epithelium	単層円柱上皮
simple squamous epithelium	単層扁平上皮
simple cuboidal epithelium	単層立方上皮
transitional epithelium	移行上皮

<生化学 Biochemistry>

Aランク

biology	生物学
molecular	分子(の)
serum	血清
metabolism	代謝
saliva	唾液
biofilm	バイオフィルム
antibiotics	抗生物質
collagen	コラーゲン
cytokain	サイトカイン
chromosome	染色体
embryonic stem cells	ES細胞
induced pluripotent stem cells	iPS細胞

Bランク

growth factor	増殖因子
antibacterial factor	抗菌因子
osteoblast	骨芽細胞
osteoclast	破骨細胞
adenosine triphosphate	ATP (アデノシン三リン酸)
Interleukin	IL (インターロイキン)
Prostaglandin E2	PGE2 (プロスタグランジン E2)

<生理学 Physiology>

Aランク

vessel	血管
artery	動脈
vein	静脈
endocrine	内分泌
exocrine	外分泌
homeostasis	恒常性
saline	生理食塩水

Bランク

action potential	活動電位
sympathetic nerve	交感神経
parasympathetic nerve	副交感神経

<病理学 Pathology>

Aランク

(病名)

tumor, neoplasm	腫瘍
inflammation	炎症
cyst	嚢胞
dental caries	う蝕
pulpitis	歯髄炎
periodontitis	歯周炎
infarct (infarction)	梗塞
disease	疾患
lesion	病変(疾患)
epulis	エプーリス
wound healing	創傷治癒

(症状)

acute	急性
chronic	慢性
swelling	腫脹
pain	疼痛
bleeding, hemorrhage	出血
fever	発熱
hyperemia	充血
anemia	貧血
congestion	うっ血
symptom	症状、徴候
itchiness	かゆみ
rash	発疹

(その他)

pathological, pathologic	病理学の、病理学的な、病的な
artificial intelligence	人工知能
treatment	治療
therapy	治療
cure	治す、治療する
immune system	免疫系、免疫システム

Bランク

carcinoma	癌(腫)
sarcoma	肉腫
adenoma	腺腫
papilloma	乳頭腫
squamous cell carcinoma	扁平上皮癌

<薬理学 Pharmacology>

Aランク

drug, medicine, medication	薬物
pharmacy	薬局

Bランク

pharmacotherapy	薬物療法
bioavailability	生物学的利用能 (バイオアベイラビリティ)
first pass effect	初回通過効果
side effect	副作用
drug dependence	薬物依存
drug tolerance	薬物耐性
drug hypersensitivity	薬物過敏症
drug interaction	薬物相互作用
oral administration	経口投与
intravenous injection	静脈内投与
dose	用量
blood-brain barrier	血液脳関門

<感染免疫学 Microbiology and Immunology>

Aランク

bacteria	細菌
fungus	真菌
virus	ウイルス
saliva	唾液
plaque	歯垢
bone marrow	骨髄
thymus	胸腺
immunity	免疫
infection	感染
microbiology	微生物学
vaccine	ワクチン
allergy	アレルギー

Bランク

natural (innate) immunity	自然免疫
acquired immunity	獲得免疫
adaptive immunity	適応免疫
humoral immunity	体液性免疫
cell-mediated immunity	細胞性免疫
mucosal immunity	粘膜免疫
phagocytosis	貪食
immune tolerance	免疫寛容

<放射線学 Radiology>

Aランク

radioactivity	放射能
ionizing radiation	電離放射線
film processing	写真処理
speed	感度
summation effect	重積効果
tangential effect	接線効果
sialography	唾液腺造影法
arthrography	顎関節腔造影法
video fluorography	嚥下造影法
angiography	血管造影法

<臨床検査医学 Laboratory Medicine>

Aランク

clinic	臨床
clinical	臨床の
laboratory	検査室
medicine	医学
examination	検査(法)
blood pressure	血圧
erythrocyte, red blood cell: RBC	赤血球
leukocyte, white blood cell: WBC	白血球
platelet	血小板
plasma	血漿
serum	血清
anemia	貧血
HIV (human immunodeficiency virus)	HIV (ヒト免疫不全ウイルス)
AIDS (acquired immunodeficiency syndrome)	後天性免疫不全症候群

hypertension	高血圧
diabetes	糖尿病
hepatitis	肝炎

< 歯科生体材料学 Dental Biomaterials >

A ランク

material	材料
resin	レジン
metal	金属(の)
ceramic	陶材(の)
amalgam	アマルガム

B ランク

acrylic resin	アクリルレジン
methyl methacrylate	メチルメタクリレート
elastic modulus (Young's modulus)	弾性係数 (ヤング率)
resilience (elastic energy)	レジリエンス (弾性エネルギー)
stress-strain curve	応力-ひずみ曲線
light cured composite resin	光重合型コンポジットレジン
chemical cured composite resin	化学重合型コンポジットレジン
hybrid layer	樹脂含浸層
glass ionomer cement	ガラスアイオノマーセメント
amalgam alloy	アマルガム合金

< 総合診療学 Oral Diagnostics >

A ランク

diagnosis	診断
oral	口腔の
oral cavity	口腔
Problem-Oriented System (POS)	問題志向型医療システム
Problem-Oriented Medical Record (POMR)	問題志向型診療録
subjective data	患者の主観的情報, 自覚症状
objective data	他覚的情報、他覚症状
assessment	評価、病名
plan	治療計画

B ランク

open-ended question	開放型質問
closed question	閉鎖型質問
neutral question	中立型質
focused question	集中型質問

repeat question	繰り返しの質問
multiple choice question	多選択肢の質問
double question	重複型質問
leading question	誘導型質問

<保存修復学 Operative Dentistry>

Aランク

caries cavity	齲窩
secondary caries	二次齲蝕
recurrent caries	再発齲蝕
dental caries	象牙質齲蝕
discolored dentin	着色象牙質
abrasion	摩耗症
attrition	咬耗症
erosion	酸蝕症
dentin hypersensitivity	象牙質知覚過敏
wedge shaped defect	くさび状欠損
spontaneous pain	自発痛
palpation	触診
percussion	打診
thermal test	温度診
transillumination test	透照診

<歯内療法学 Endodontics>

Aランク

acute suppurative(serious)pulpitis	急性化膿性(漿液性)歯髄炎
pulpectomy	抜髄
necrosis	壊死
gangrene	壊疽
abscess	膿瘍
granuloma	肉芽
fistel	瘻孔
electric pulp test	歯髄電気診
thermal test	温度診
dull pain	鈍痛
sharp pain	鋭痛

< 歯周病学 Periodontology >

Aランク

gingivitis	歯肉炎
periodontitis	歯周炎
dental calculus, tartar	歯石
dental plaque	歯垢
periodontal tissue	歯周組織
gingiva	歯肉
gingival	歯肉(の)
periodontal ligament	歯根膜、歯周靭帯
cementum	セメント質
alveolar bone	歯槽骨

Bランク

food impaction	食片圧入
plaque control record	PCR
bleeding on probing	BOP
mobility	動揺度
occlusal trauma	咬合性外傷
flap operation	FOP
guided tissue regeneration	GTR
supportive periodontal therapy	SPT
professional mechanical tooth cleaning	PMTC

< 総義歯学 Complete Denture Prosthodontics >

Aランク

prosthodontics	補綴学
prosthesis	補綴物
edentulous	無歯顎
ridge	顎堤
complete dentures	全部床義歯（総義歯）
immediate dentures	即時義歯
preliminary impressions	予備印象
border mold	筋形成（辺縁形成）
final impressions	最終印象

Bランク

record bases	基礎床
occlusal rim	咬合（蠟）堤
mount	模型付着
set up	人工歯排列

tooth arrangement	人工歯排列
phonetics	構音（発音）
postpalatal seal area	後提域
esthetic	審美
denture processing	重合
face-bow record	フェイスボウ
placement, delivery, insertion	装着
occlusal equilibration	咬合調整

<部分床義歯学 Removable Partial Prosthodontics>

Aランク

abutment	支台歯 アバットメント
appointment	予約
articulator	咬合器
artificial teeth	人工歯
attrition	咬耗
bruxism	歯ぎしり
case	症例, 患者
occlusion	咬合
prosthesis	義歯, 補綴
mucosal	粘膜の
removable	可撤性の
mastication	咀嚼

Bランク

flange	義歯床縁部
esthetics	美容的効果, 審美性
masseter muscle	咬筋
Evidence-Based Medicine (EBM)	科学的根拠に基づく医療
bruxist	歯軋り常習者

Cランク

free-end saddle partial denture	遊離端義歯
---------------------------------	-------

<クラウン&ブリッジ補綴学 Crown Bridge Prosthodontics>

Aランク

abutment	支台歯
articulator	咬合器
balancing side	平衡側（非作業側）
bridge	ブリッジ
CAD/CAM	computer-aided design/computer-aided manufacturing

contour	豊隆
contact point	接触点
crown	クラウン（冠）
cuspid protected occlusion	犬歯誘導咬合
diagnosis	診断（法）； 診断結果
embrasure	鼓形空隙
group function	グループファンクション
intercuspal position	咬頭嵌合位
nonworking side	非作業側（平衡側）
occlusal plane	咬合平面
occlusion	咬合
pontic	ポンティック
prosthodontic treatment	補綴治療
provisional restoration	暫間被覆冠
working side	作業側
<u>Bランク</u>	
anterior guidance	アンテリアガイダンス
biologic width	生物学的幅径(上皮性付着から結合性付着までの幅)
cantilever bridge	カンチレバー ブリッジ（遊離端ブリッジ）
core buildup	支台築造
die	歯型
ferrule effect	帯環効果(フェルールによってもたらされる効果)
fixed bridge	固定性ブリッジ
frankfort horizontal plane	フランクフルト平面
functionally generated path technique	FGP テクニック
gingival retraction	歯肉圧排
hinge axis	蝶番軸（ヒンジアキシス）
incisal path	切歯路
laminate veneer	ラミネートベニア
mandibular movement	下顎運動
ovate pontic	オベイト ポンティック
partial veneer crown	部分被覆冠
porcelain fused to metal crown	陶材焼付冠（陶材焼付金属冠）
preparation	形成
shade guide	シェードガイド
semi adjustable articulator	半調節性咬合器
soldering	ろう付け
taper	テーパー
waxing up	ワックスパターン形成（ワックス アップ）

<高齢者歯科学 Geriatric Dentistry>

Aランク

elderly	高齢者
dysphagia	嚥下障害（障害者歯科学と重複）
sarcopenia	サルコペニア
frailty	フレイル
locomotive syndrome	ロコモ
oral care	口腔ケア

Bランク

dyskinesia	ディスキネジア
dysarthria	構音障害

<小児歯科学 Pedodontics>

Aランク

growth	成長
development	発達
tooth eruption	歯の萌出
primary teeth	乳歯
milk dentition	乳歯列
permanent dentition	永久歯列
infant	乳児
parent	両親
infectious disease	感染症
prevention	予防

Bランク

prevention of dental caries	齲蝕予防
hereditary disease	遺伝性疾患
amelogenesis imperfecta	エナメル質形成不全症

<矯正歯科学 Orthodontics>

Aランク

orthodontics	矯正
malocclusion	不正交合
occlusion	咬合
impaction	埋伏
rotation	捻転
root resorption	歯根吸収
incisor	切歯・前歯
canine	犬歯

premolar	小臼歯
molar	大臼歯
appliance	装置
anchorage	固定
band	バンド・帯環
<u>Bランク</u>	
crowding	叢生
open bite	開咬
deep bite	過蓋咬合
cross bite	交叉咬合
bimaxillary protrusion	上下顎前突
cleft palate	口蓋裂
finger (thumb) sucking	指しゃぶり・拇指吸引癖
tongue thrusting	舌突出癖
Lip sucking	吸唇癖
Lip biting	咬唇癖
Myofunctional therapy	筋機能療法
Nail biting	咬爪癖
Tongue biting	咬舌癖

<障害者歯科学 Dentistry for the Disabled>

Aランク

swallowing	嚥下
swallowing disorder	嚥下障害
aspiration	誤嚥
normalization	ノーマライゼーション
quality of life (QOL)	クオリティ・オブ・ライフ
syndrome	症候群

Bランク

congenital abnormality	先天奇形
cerebrovascular disease	脳血管疾患
aspiration pneumonia	誤嚥性肺炎
epiglottitis	喉頭蓋

<口腔外科学 Oral Surgery>

Aランク

surgery	外科
surgeon	外科医
operation	手術

biopsy	生検
infiltration	浸潤
terminal care	ターミナルケア
fracture	骨折
lymph node	リンパ節
metastasis	転移
drainage	排膿
infection	感染
edema	浮腫
ulcer	潰瘍
erosion	びらん
patient	患者

Bランク

osteomyelitis	骨髓炎
pericoronitis	歯冠周囲炎
sinusitis	副鼻腔炎
chemotherapy	化学療法
radiotherapy	放射線療法
odontogenic	歯源性
neuralgia	神経痛

<麻酔学 Anesthesiology>

Aランク

anesthesia	麻酔
general anesthesia	全身麻酔
day care anesthesia	日帰り麻酔
local anesthesia	局所麻酔
psychosedation	精神鎮静法
analgesia	鎮痛
NSAID	解熱鎮痛薬
chain of survival	救急救命の連鎖（輪）
CPCR	心肺蘇生法
laughing gas	笑気
apnea	無呼吸

Bランク

difficult airway	気道確保困難
TIVA(total intravenous anesthesia)	全静脈麻酔
HVS (hyper ventilation syndrome)	過換気症候群

学生番号 _____ (院内番号) _____

氏 名 _____